



平成27年度
創価大学教職大学院講義要項
教職研究科 教職専攻

目次

共通科目

教育課程の編成及び実施に関する領域..... (1)

学習指導要領と教科カリキュラムのデザイン
学校カリキュラムと教育研究推進の組織化
個に応じた指導のデザイン

教育等の実践的な指導方法に関する領域..... (8)

教科等の指導開発研究AⅠ(国語、社会)
教科等の指導開発研究AⅡ(国語、社会)
教科等の指導開発研究BⅠ(算数、理科)
教科等の指導開発研究BⅡ(算数、理科)
教科等の指導開発研究C(図工、体育)
教科等の指導開発研究D(生活・総合/小、道徳)
教科等の指導開発研究E(外国語活動)

生徒指導及び教育指導に関する領域..... (35)

特別活動と生徒指導
学校カウンセリングの現状と課題
特別支援教育の現状と課題
子どもの人権を保障する学校文化の形成

学級経営及び学校経営に関する領域..... (45)

教育行政・学校経営の現状と課題
学級のデザインと子ども同士の関係づくり
教員研修実務研究

学校教育と教育の在り方に関する領域..... (52)

生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割
子ども理解・保護者理解
人間的成長に関する理論と実践
教員の服務等と教育法規

分野別科目

教育実践総合研究 (63)

教育実践研究方法Ⅰ
教育実践研究方法Ⅱ
学習指導の方法研究Ⅰ
学習指導の方法研究Ⅱ
学習活動の組織化とその評価
授業力育成のための理論と方法
学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅰ
学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅱ
総合学習と社会参加学習論
ICTを活用した教育活動

人間教育総合研究 (88)

人間教育実践分析研究
人間教育実践分析課題研究
人間教育事例分析研究
人間教育事例分析課題研究

教育開発総合研究 (108)

教職課題研究Ⅰ
教職課題研究Ⅱ

教育課題実地総合研究 (133)

教育課題実地研究(国内)奈良
教育課題実地研究(国内)富山
教育課題実地研究(国外)米国
教育課題実地研究(国外)中国

共 通 科 目

■科目名 学習指導要領と教科カリキュラムのデザイン

■教員名 長崎 伸仁 ・ 西 穂司

■授業概要

本授業科目は、各学校における教育内容の国家的基準である学習指導要領の意義と基本的性格を的確に理解できるよう展開する。さらに、各教科の現行の学習指導要領は、昭和22年の学習指導要領(試案)一教科によっては、それ以後一以来、どのような変遷をたどってきたのかを概観し、「学習指導要領の不易と流行」を把握した上で、現在どのような教科カリキュラムが求められているのかを、各受講者の問題関心や実務経験に即して、デザインする。

さらに、平成20年版学習指導要領以降、児童・生徒が身につけるべき学力として重要度が増しているのが「思考力・判断力・表現力」であることから、どのようにすれば各教科で、「思考力・判断力・表現力」が育成できるのかを教科カリキュラムとして具体的にデザインする。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	本授業科目の意図と内容構成 ○「平成20年版学習指導要領」と「平成10年版学習指導要領」の「総則」等の比較 ○平成26年12月22日付けの中教審答申から見てくること ○教科の変遷を概観し「カリキュラムのデザイン」を究明しようとする教科確定 【準備学習】平成20年版、10年版学習指導要領等を学習しておくこと。
第2回	学習指導要領の意義と基本的性格(1)ー歴史的経緯→(演習) ○教科の変遷を概観し「カリキュラムのデザイン」を究明しようとする教科希望 【準備学習】自身が作成しようとする教科カリキュラムを視野に、昭和22年版(試案)～平成20年版学習指導要領の教科を概観しておくこと。
第3回	学習指導要領の意義と基本的性格(2)ー作成手続きと内容的妥当性→(演習) 【準備学習】自身が作成しようとする教科カリキュラムを視野に、昭和22年版(試案)～平成20年版学習指導要領の教科を概観しておくこと。
第4回	学習指導要領の意義と基本的性格(3)ー地方レベルでの趣旨徹底と諸基準→(演習) ○発表順の確定 【準備学習】自身が作成しようとする教科カリキュラムを視野に、昭和22年版(試案)～平成20年版学習指導要領の教科を概観しておくこと。
第5回	学校におけるカリキュラム経営の意味と基本原則(1)ー教職の専門性と協働性→(演習) 【準備学習】自身が作成しようとする教科カリキュラムを視野に、昭和22年版(試案)～平成20年版学習指導要領の教科を概観しておくこと。
第6回	学校におけるカリキュラム経営の意味と基本原則(1)ー経営サイクルの統一性→(演習) 【準備学習】自身が作成しようとする教科カリキュラムを視野に、昭和22年版(試案)～平成20年版学習指導要領の教科を概観しておくこと。
第7回	学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」①(例ー「思考力・判断力・表現力」の育成、「言語活動の充実」、「表現力・説明力」の育成等に観点を絞ったものが望ましい) 【準備学習】学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」作成に向けた取り組み

第8回	学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」②(例―「思考力・判断力・表現力」の育成、「言語活動の充実」、「表現力・説明力」の育成等に観点を絞ったものが望ましい) 【準備学習】学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」作成に向けた取り組みと振り返り
第9回	学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」③(例―「思考力・判断力・表現力」の育成、「言語活動の充実」、「表現力・説明力」の育成等に観点を絞ったものが望ましい) 【準備学習】学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」作成に向けた取り組みと振り返り
第10回	学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」④(例―「思考力・判断力・表現力」の育成、「言語活動の充実」、「表現力・説明力」の育成等に観点を絞ったものが望ましい) 【準備学習】学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」作成に向けた取り組みと振り返り
第11回	学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」⑤(例―「思考力・判断力・表現力」の育成、「言語活動の充実」、「表現力・説明力」の育成等に観点を絞ったものが望ましい) 【準備学習】学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」作成に向けた取り組みと振り返り
第12回	学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」⑥(例―「思考力・判断力・表現力」の育成、「言語活動の充実」、「表現力・説明力」の育成等に観点を絞ったものが望ましい) 【準備学習】学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」作成に向けた取り組みと振り返り
第13回	学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」⑦(例―「思考力・判断力・表現力」の育成、「言語活動の充実」、「表現力・説明力」の育成等に観点を絞ったものが望ましい) 【準備学習】学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」作成に向けた取り組みと振り返り
第14回	学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」⑧(例―「思考力・判断力・表現力」の育成、「言語活動の充実」、「表現力・説明力」の育成等に観点を絞ったものが望ましい) 【準備学習】学習指導要領の変遷からみる「〇〇科の不易と流行」と「教科カリキュラム私案」作成に向けた取り組みと振り返り
第15回	本授業科目のまとめ

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

指導的な立場にある管理職候補者は、国の方針や都道府県等教育委員会の方針を踏まえつつも、各

学校等の現状や児童生徒の現況に鑑みて、どのような教科のカリキュラムであるのが適切なのかを、現行の学習指導要領やこれまでの学習指導要領の変遷から見えてきた「不易と流行」を基に思考し判断することができる。

(現職教員)

昭和22年(試案)から8回にわたる学習指導要領が求めてきたものは何であったのかを的確に理解した上で、児童生徒は、現在求められている教科で習得する力や活用する力は、どのような能力をどのようなカリキュラムをデザインすることで育まれるのか究明することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

約10年ごとに改訂されてきた各教科の学習指導要領の内実を知るとともに、各教科の特性を把握した上で、児童生徒のどのような力をどのようにすれば育むことができるのかを、教科カリキュラムをデザインすることで探究することができる。

■評価方法

- ・15回の全授業での演習等での参画状況。
- ・個人またはグループでのプレゼンテーションや最終レポートの充実度。

■使用教材

- ・平成20年版の学習指導要領
- ・平成20年版の学習指導要領(解説編)
- ・平成26年12月22日付けの中教審答申(抜粋)
- ・必要な従前の学習指導要領等はコピーを配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学校カリキュラムと教育研究推進の組織化

■教員名 西 穰司 ・ 寺林 民子

■授業概要

本科目は、児童・生徒が学校生活全体を通して学び習得するカリキュラムの効果的経営の原則と基本方策を的確に理解されることをねらいとしている。すなわち、各学校で日々展開される個別の教授・学習活動(授業)は、その学校のカリキュラムとして統合され、銘々の児童・生徒にとっての豊かな学習に結びつくように、教員側が教育研究推進の仕組み(体制)をどのように整え、運営すればよいかを究明する授業としたい。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	本授業科目の意図と内容構成 科目授業の意義 【準備学習】シラバスの確認
第2回	各人の勤務校の学校カリキュラム(リーダー)、検索した学校カリキュラム(プロコース)、特色ある学校カリキュラムの事例などの資料から、学校カリキュラムの理解を深める。 【準備学習】学校の教育経営資料の収集
第3回	学校カリキュラムの効果的経営原則(1) —個別児童・生徒対象の学習アセスメントの意義・方法— 【準備学習】配布資料の学習
第4回	学校カリキュラムの効果的経営原則(2) —指導担当教員対象のカリキュラム経営の意義・方法— 【準備学習】配布資料の学習とふりかえり
第5回	学校カリキュラムの効果的経営原則(3) —学校総体のカリキュラム経営の意義・方法— 【準備学習】配布資料の学習とふりかえり
第6回	学校カリキュラムの効果的な経営原則についてのディスカッション 【準備学習】1回から5回まで学習を踏まえた解題意識の明確化
第7回	校内教育研究推進体制の構造と運営(1) —学年単位での教育研究推進体制の場合— 【準備学習】勤務校の現状と取り組みの様子と課題の把握
第8回	校内教育研究推進体制の構造と運営(2) —教科領域を単位とする教育研究推進体制の場合— 【準備学習】勤務校の現状と取り組みの様子と課題の把握
第9回	校内教育研究推進体制の構造と運営(3) —学年・教科・領域を横断する教育研究推進体制の場合— 【準備学習】勤務校の現状と取り組みの様子と課題の把握
第10回	校内教育研究推進体制組織化の事例研究(1) 【準備学習】先進的な取り組みの事例研究
第11回	校内教育研究推進体制組織化の事例研究(2) 【準備学習】各人の課題研究とプレゼンの準備
第12回	校内教育研究推進体制組織化の事例研究(3) 【準備学習】各人の課題研究とプレゼンの準備、意見交流とふりかえり

第13回	校内教育研究推進体制組織化の事例研究(4) 【準備学習】各人の課題研究とプレゼンの準備、意見交流とふりかえり
第14回	校内教育研究推進体制組織化の事例研究(5) 【準備学習】各人の課題研究とプレゼンの準備、意見交流とふりかえり
第15回	本授業科目全般のまとめ 【準備学習】本科目授業を通して明らかになったこと考察についてのレポート

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

わが国の各学校における効果的なカリキュラム経営の原則についての的確な理解を得るとともに、その日常的展開のための適切な方策を活用でき、組織体制の構築を指導できる。

(現職教員)

わが国の各学校における効果的なカリキュラム経営の原則についての的確な理解を得るとともに、その日常的展開のための適切な方策を活用できる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

各学校における効果的なカリキュラム経営の原則についての冷静かつ的確な理解を得るとともに、その具体的な展開事例についての取材・分析・整理の作業を遂行する。

■評価方法

- (1) 第7回までの演習での質問・協議への参画状況
- (2) 各学校の効果的なカリキュラム経営に関する基本認識の的確性と事例研究での取り組み状況・成果を反映した最終レポートの充実度。

■使用教材

『教育経営と教育課程の編成・実施』 日本教育経営学会編 [日本教育経営第4巻]

ぎょうせい 1987

『子どもが自分を生きる授業—自己変革を促す校内研修』(富山市立堀川小学校) 明治図書

『授業記録による授業改革のプロセス』東海市小・中学校教師の挑戦

名古屋大学・東海市教育委員会教育実践問題支援プロジェクト編 黎明書房 2004

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	個に応じた指導のデザイン
■教員名	寺林 民子 ・ 小田 勝己
■授業概要	

個の理解について米国の事例、日本の事例から、「個」や、個の性質についての各人の捉え方について吟味する。次に日本における「個に応じた指導のとらえかたやその指導法」が導入された経緯を理解し、「個に応じた指導」を実現するためには、「個」の捉え方が規定として重要であることに理解を深め、それを実践に生かすことができる資質を養うことか目的である。そのため、演習を中心とした学びとする。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースオリエンテーション ・個の把握の教育における意味 ・各人の問題意識の掘さげ、個に関わる指導のイメージのとらえ方
第2回	「個に応じた指導」や「個の捉え方」をめぐるディスカッション 各人の課題意識の掘り起し① 【準備学習】「個の成長」の学習
第3回	子どもの全体像を描く 描写レビュー①(アメリカの実践) 【準備学習】『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編の学習
第4回	子どもの全体像を描く 描写レビュー①(アメリカの実践) 【準備学習】『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編の学習
第5回	子どもの全体像を描く 描写レビュー演習① 【準備学習】:演習からのふりかえり
第6回	子どもの全体像を描く 描写レビュー演習② 【準備学習】演習からのふりかえり
第7回	子どもの「個」の確立のために 個性追求の視点(日本) 【準備学習】『個性の見方育て方』重松鷹泰の学習
第8回	「個に応じた指導」諸外国の事例の比較 「個に応じた指導」や「個の捉え方」をめぐるディスカッション 各人の課題意識の掘り起し②
第9回	「個に応じた指導」が導入された経緯(日本)① 【準備学習】配布資料の学習
第10回	「個に応じた指導」が導入された経緯(日本)② 【準備学習】配布資料の学習
第11回	「個」の性質、「個」とは何か 【準備学習】『個性の見方育て方』重松鷹泰の学習、配布資料の学習
第12回	「個」をとらえるー幼児教育の事例からの考察 【準備学習】視聴資料のふりかえりと考察

第13回	演習:教育実践事例から個の学びをとらえる① 【準備学習】:配布資料の学習。 共同しての解釈のふりかえりと吟味
第14回	演習:教育実践事例から個の学びをとらえる② 【準備学習】配布資料の学習。 共同しての解釈のふりかえりと吟味
第15回	演習:教育実践事例から個の学びをとらえる③ 【準備学習】配布資料の学習。 共同しての解釈のふりかえりと吟味

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

指導法の違いによる影響や効果をふまえた上で、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方について体系的に理解するとともに、児童理解の規定である「個」の捉え方について個々の教員や学校単位での授業の計画と実践の場面において指導助言をすることができる。

(現職教員)

指導法の違いによる影響や効果をふまえたうえで、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方を理解するとともに、児童理解の基底である「個」の捉え方と課題の解決に向けた実施案を提案する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

指導法の違いによる影響や効果を踏まえたうえで、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方を理解し、計画・実施に必要な準備や条件等を整理するとともに、児童理解の基底である「個」の捉え方とに基づいて授業を計画する。

■評価方法

授業時のプレゼンテーションやレポート、最後にまとめとして提出するレポートを資料として総合的に判断する。

■使用教材

『子どもの学びと自己形成—子どもの危機を救うこれからの評価観』堀川小学校(明治図書)『個の成長—可能性の開発をめざして—』堀川小学校(明治図書)『個性の見方育て方』重松鷹泰(第三文明社)『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編(ミネルバ書房)『学校と教育』デューイ(岩波文庫)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	教科等の指導開発研究 A I (国語)
■教員名	長崎伸仁 ・ 石丸憲一
■授業概要	新学習指導要領でのキーワードの一つである「思考力・判断力・表現力」の育成を、文学教材の授業でどのように具体化するのか―理論と実践の往還の観点から展開する―

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	○目標と進め方を知る。(担当―長崎・石丸) ○後藤富士夫実践「ごんぎつね」のビデオを視聴し、感想等を交流する。 【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。
第2回	○後藤富士夫実践「かさこじぞう」のビデオを視聴し、「ごんぎつね」の授業との違いを中心に交流する。(担当―長崎・石丸) ●『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』の考察の分担(個人またはグループ)を決定。 【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。
第3回	○「読解と表現をつなぐ文学の授業」の理論(石丸) 【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。
第4回	○「読解と表現をつなぐ文学の授業」(長崎) 【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。
第5回	○読解と表現をつなぐ文学の授業(1年「おおきなかぶ」)の考察 ① 【準備学習】「おおきなかぶ」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(おおきなかぶ)』の考察。本授業の振り返り。
第6回	○読解と表現をつなぐ文学の授業(2年「スーホの白い馬」)の考察 ② 【準備学習】「スーホの白い馬」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(スーホの白い馬)』の考察。本授業の振り返り。
第7回	○読解と表現をつなぐ文学の授業(3年「おにたのぼうし」)の考察 ③ 【準備学習】「おにたのぼうし」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(おにたのぼうし)』の考察。本授業の振り返り。
第8回	○読解と表現をつなぐ文学の授業(4年「夏のわすれもの」)の考察 ④ 【準備学習】「夏のわすれもの」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(夏のわすれもの)』の考察。本授業の振り返り。
第9回	○読解と表現をつなぐ文学の授業(5年「大造じいさんとがん」)の考察 ⑤ 【準備学習】「大造じいさんとがん」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(大造じいさんとがん)』の考察。本授業の振り返り。
第10回	○読解と表現をつなぐ文学の授業(6年「やまなし」のどちらかの実践)の考察 ⑦ ●プレゼンの分担(個人またはグループ)を決定 【準備学習】「やまなし」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(やまなし)』の考察。本授業の振り返り。

第11回	○読解と表現をつなぐ文学の授業を構想するポイント(石丸・長崎) —「思考力・表現力・判断力」の育成を視野に入れ— 【準備学習】自身が構想する文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第12回	○「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに、読解と表現をつなぐ文学の授業の構想提案① 【準備学習】自身が構想する文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第13回	○「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに、読解と表現をつなぐ文学の授業の構想提案② 【準備学習】自身が構想する文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第14回	○「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに、読解と表現をつなぐ文学の授業の構想提案③ 【準備学習】自身が構想する文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第15回	○「思考力・判断力・表現力」の育成をテーマに、読解と表現をつなぐ文学の授業の構想提案④ 【準備学習】自身が構想する文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

従来の文学教材の指導法とこれからの指導法との違いを、「理論的」に明確にすることができる。

(現職教員)

従来の文学教材の指導法とこれからの指導法との違いを、「実践的」に明確にし、自らが積極的に実践を進めていくことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

国語科教育の意義と今後の方向性を自分なりにつかみ、それを基に教材研究に向かい、授業の構想を立てることができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言や振り返り)やプレゼン内容、そして、まとめのレポート等を総合して評価する。

■使用教材

*教科書 ①長崎伸仁・吉川芳則・石丸憲一『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』(学事出版)

*参考図書①石丸憲一『国語科教育』(創価大学)

②長崎伸仁『新国語科の具体と展望』(メディア工房ステラ)

③長崎伸仁・石丸憲一『表現力を鍛える文学の授業』(明治図書)

④長崎伸仁・調布市立富士見台小学校『「判断」でしかける発問で文学・説明文の授業をつくる』(学事出版)

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究A I (社会)

■教員名 宮崎 猛・吉田 和義

■授業概要

社会科について、小中高の社会科・社会科系教育を見通した上で、その指導目標・内容、教材、指導方法の特質等に理解を深め、自身の教育実践に活用することができる資質を養うために、学習指導要領、指導計画と指導案に理解を深め、事例研究を行う。

なお、参加者の関心や研究内容、本授業での検討内容によっては、ゲストティーチャーを招くこともある。

■授業計画・内容

回 数	内 容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	学習指導要領（小学校）の理解 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	学習指導要領（中学校）の理解と小学校、中学校社会科の連携 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	社会科学学習指導の基盤 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	社会科授業づくりのプロセスと社会科の目標 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	社会科の学習過程と学習形態、指導技術 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	社会科授業の事例研究：3・4年生 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	社会科授業の事例研究：5年生 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	社会科授業の事例研究：6年生 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	社会科の指導計画の特徴 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第11回	社会科の指導案の特徴 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	社会科の指導計画と指導案の作成① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	社会科の指導計画と指導案の作成② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	指導計画と指導案のプレゼンテーションとディスカッション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに学校現場における社会科教育の授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を育成する。

(現職教員)

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

社会科について、学習指導要領の理解ならびに授業づくりの方法、指導目標の特質等について理解を深め、自身の授業実践に活用することができる力量を培う。

■評価方法

○評価方法 振り返り 30% プレゼンテーション・レポート 30% 期末リサーチペーパー 40%

○評価基準 S: 90点以上 A: 80点以上 B: 70点以上 c: 60点以上 D (不合格): 59点以下

■使用教材

宮崎猛 (編著) 『社会科教育の創造 ― 基礎・理論・実践―』 教育出版 2009年

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究 AⅡ(国語)

■教員名 長崎 伸仁・石丸 憲一

■授業概要

新学習指導要領でのキーワードの一つである「思考力・判断力・表現力」の育成を、説明文教材の授業でどのように具体化するのか―理論と実践の往還の観点から構想する―

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	○目標と進め方を知る。(担当―長崎・石丸) ○長崎伸仁実践「色彩と暮らし」のビデオを視聴し、感想等を交流する。 【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。
第2回	○長崎伸仁実践「サクラソウとトラマルハナバチ」のビデオを視聴し、「色彩と暮らし」の授業との違いを中心に交流する。(担当―長崎・石丸) ●『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』の考察の分担(個人またはグループ)の決定。 【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。
第3回	○「読解と表現をつなぐ説明文の授業」の理論(長崎) 【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。
第4回	○「読解と表現をつなぐ説明文の授業」の理論(石丸) 【準備学習】教科書として使用する『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』を読む。本授業の振り返り。
第5回	○読解と表現をつなぐ説明文の授業(1年「どうぶつの赤ちゃん」)の実践の考察① 【準備学習】「どうぶつの赤ちゃん」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(どうぶつの赤ちゃん)』の考察。本授業の振り返り。
第6回	○読解と表現をつなぐ説明文の授業(2年「すみれとあり」)の実践の考察 ② 【準備学習】「すみれとあり」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(すみれとあり)』の考察。本授業の振り返り。
第7回	○読解と表現をつなぐ説明文の授業(3年「すがたをかえる大豆」)の実践の考察③ 【準備学習】「すがたをかえる大豆」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(すがたをかえる大豆)』の考察。本授業の振り返り。
第8回	○読解と表現をつなぐ説明文の授業(4年「くらしの中の和と洋」)の実践の考察④ 【準備学習】「くらしの中の和と洋」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(くらしの中の和と洋)』の考察。本授業の振り返り。
第9回	○読解と表現をつなぐ説明文の授業(5年「言葉と事実」)の実践の考察 ⑤ 【準備学習】「言葉と事実」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(言葉と事実)』の考察。本授業の振り返り。
第10回	○読解と表現をつなぐ説明文の授業(6年「自分の脳を自分で育てる」)の実践の考察 ⑥ 【準備学習】「自分の脳を自分で育てる」の教材研究。『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業(自分の脳を自分で育てる)』の考察。本授業の振り返り。

第11回	○読解と表現をつなぐ説明文の授業を構想するポイント(石丸・長崎) —「思考力・判断力・表現力」の育成を視野に入れ— ●プレゼン(個人またはグループ)の分担決定 【準備学習】自身が構想する説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第12回	○「思考力・判断力・表現力」を育成する説明文の授業提案① 【準備学習】自身が構想する説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第13回	○「思考力・判断力・表現力」を育成する説明文の授業提案② 【準備学習】自身が構想する説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第14回	○「思考力・判断力・表現力」を育成する説明文の授業提案③ 【準備学習】自身が構想する説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第15回	○「思考力・判断力・表現力」を育成する説明文の授業提案④ 【準備学習】自身が構想する説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

従来の説明文教材の指導法とこれからの指導法との違いを、「理論的」に明確にすることができる。

(現職教員)

従来の説明文教材の指導法とこれからの指導法との違いを、「実践的」に明確にし、自らが積極的に実践を進めていくことができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

国語科教育の意義と今後の方向性を自分なりにつかみ、それを基に教材研究に向かい、授業の構想を立てることができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言や振り返り)やプレゼン内容、そして、まとめのレポート等を総合して評価する。

■使用教材

*教科書 ①長崎伸仁・吉川芳則・石丸憲一『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』(学事出版)

*参考図書①石丸憲一『国語科教育』(創価大学)

②長崎伸仁『新国語科の具体と展望』(メディア工房ステラ)

③長崎伸仁『表現力を鍛える説明文の授業』(明治図書)

④長崎伸仁他『「判断」でしかける発問で文学・説明文の授業をつくる』(学事出版)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究 AⅡ (社会)

■教員名 宮崎 猛・吉田 和義

■授業概要

社会科の誕生の背景や本質を踏まえ、小中高の社会科・社会科系教育を見通した上で、社会科の評価について理解を深めるとともに、履修者の関心・関係のある校種、学年における社会科授業の教材開発を行い、各自が独自に1つの単元に焦点を当て、授業案の作成を試み、模擬的に実践する。なお、参加者の関心や研究内容、本授業での検討内容によっては、ゲストティーチャーを招くこともある。

■授業計画・内容

回 数	内 容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	社会科誕生の背景と歴史 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	初期社会科の実践とその本質 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	社会科の評価の内容と特質 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	社会科の教材開発の特質とその方法 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	教材開発の実際① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	教材開発の実際② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	各自（各グループ）が開発した教材の紹介（プレゼンテーション）とその振り返り 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	社会科授業案（指導計画・指導案）作成の実際① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	社会科授業案（指導計画・指導案）作成の実際② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第11回	社会科授業案（指導計画・指導案）作成の実際③ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	授業案（指導計画・指導案）のプレゼンテーションとディスカッション（模擬授業を含む）① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	授業案（指導計画・指導案）のプレゼンテーションとディスカッション（模擬授業を含む）② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	社会科の授業を担う力量と社会科担当教師に求められる資質 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補者）

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに学校現場における社会科教育の授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を育成する。

（現職教員）

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

社会科の本質ならびに現行学習指導要領の特質、社会科の評価の在り方を理解し、研究的なアプローチに基づいて自ら教材を開発し、展開することができる力量を育成する。

■評価方法

○評価方法 出席：30点（2×15） レポート・振り返り：30点、授業への参加意欲：20点、最終報告書・指導案20点

○評価基準 S：90点以上 A：80点以上 B：70点以上 c：60点以上 D（不合格）：59点以下

■使用教材

社会科教育の創造 ―基礎・理論・実践― 教育出版 （2009年）

■授業で使用する言語

（日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他）

■科目名 教科等の指導開発研究B I (算数)

■教員名 鈴木 将史 ・ 鈴木 詞雄

■授業概要

今期のテーマは「算数的活動にまじめに取り組もう」である。

「算数的活動」は平成 10 年の学習指導要領において初めて登場し、平成 20 年の現行の学習指導要領において、さらにその意義が強調された。今や各学年の各領域に必ず「算数的活動」が置かれ、あたかも一つの領域のように扱われている。

その一方で、「算数的活動」という言葉が広い範囲に及ぶことから、従来の活動との違いが必ずしも明確になっていなかったり、その意義が十分には認識されていなかったりする。

この授業では、学習指導要領に述べられている「算数的活動」を 1 つ 1 つ解き明かし、それらを十分に活用した指導法を考え、教材研究・模擬授業を行っていきたい。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	○オリエンテーション 授業のねらいを概観し、半期の進め方について話し合う。
第2回	○「学習指導要領」における「算数的活動」〔1〕 第 1 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第3回	○「学習指導要領」における「算数的活動」〔2〕 第 2 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第4回	○「学習指導要領」における「算数的活動」〔3〕 第 3 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第5回	○「学習指導要領」における「算数的活動」〔4〕 第 4 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第6回	○「学習指導要領」における「算数的活動」〔5〕 第 5 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第7回	○「学習指導要領」における「算数的活動」〔6〕 第 6 学年における「算数的活動」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第8回	○中間まとめ ここまでの分析について振り返り、後半へ向けての課題を明確にする。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第9回	○「算数的活動」授業例〔1〕 第 1 学年向け「算数的活動」の授業を提案し、討論を行う。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第10回	○「算数的活動」授業例〔2〕 第 2 学年向け「算数的活動」の授業を提案し、討論を行う。

	【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第11回	○「算数的活動」授業例[3] 第3学年向け「算数的活動」の授業を提案し、討論を行う。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第12回	○「算数的活動」授業例[4] 第4学年向け「算数的活動」の授業を提案し、討論を行う。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第13回	○「算数的活動」授業例[5] 第5学年向け「算数的活動」の授業を提案し、討論を行う。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第14回	○「算数的活動」授業例[6] 第6学年向け「算数的活動」の授業を提案し、討論を行う。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第15回	○まとめ 授業全体を振り返り、得られたことや課題をレポートにまとめて提出する。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

「算数的活動」の算数授業について、学習指導要領や各社の教科書の記述に基づいて評価することができる。

(現職教員)

実際の教室の現場でも利用できる、「算数的活動」に関する新しい授業案を開発することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学習指導要領や教科書の内容を深く理解し、児童の理解度をも考慮した「算数的活動」の授業分析、教材開発が行えるようになる。

■評価方法

授業への出席状況のほか、討論への積極的参加、模擬授業におけるプレゼンテーションや提出物のパフォーマンスなどによって総合的に判断する。

■使用教材

『学習指導要領解説算数編』、小学校算数の各種教科書に加え、必要に応じて適宜教材を配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究BⅠ(理科)

■教員名 桐山 信一

■授業概要

本授業では、学習者の科学的リテラシーを育てるための教材化について、粒子・エネルギー領域における今日的課題を踏まえて考察する。得られた成果から教材を作る教育的技能を養う。また、その教材の教育的有効性を評価する態度を養う。

その際、小中高の理科教育の繋がりを見通し、各学校段階で学習者にどのような科学的リテラシーが必要とされるかを検討する。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション、学習指導要領における小学校理科の目標と内容 【準備学習】使用教材①第1章
第2回	学習指導要領における中学校・高等学校理科の目標と内容 【準備学習】使用教材②序章第1節
第3回	小学校理科教育で求められる科学的リテラシーの検討 【準備学習】使用教材⑤pp30－33
第4回	中学校・高等学校理科教育で求められる科学的リテラシーの検討 【準備学習】使用教材②序章第2節、使用教材③pp24－31
第5回	エネルギー問題の現状と課題 【準備学習】使用教材②第6章第1節
第6回	粒子・エネルギー概念の基礎・基本Ⅰ－粒子と質量－ 【準備学習】使用教材①第4章第1節
第7回	粒子・エネルギー概念の基礎・基本Ⅱ－粒子と放射能－ 【準備学習】使用教材②第5章第1節
第8回	粒子・エネルギー概念の基礎・基本Ⅲ－原子力発電－ 【準備学習】使用教材②第5章第2節前半
第9回	粒子・エネルギー概念の基礎・基本Ⅳ－原発事故の環境影響－ 【準備学習】使用教材②第5章第2節後半
第10回	科学的リテラシーを育成する理科教育を目指してⅠ －LEDの原理と太陽電池（ソーラー）－ 【準備学習】使用教材②第6章第2節
第11回	科学的リテラシーを育成する理科教育を目指してⅡ －太陽電池（ソーラー）教材化に関する論文講読－ 【準備学習】使用教材⑤pp6－11
第12回	科学的リテラシーを育成する理科教育を目指してⅢ －太陽電池に関する諸実験の実施と教材化に向けた批判的検討－ 【準備学習】使用教材①第5章第3節
第13回	理科で実施する脱原発・エネルギー教育の教材化Ⅰ－教材作成－ 【準備学習】これまで学習した内容をふまえて教材を作るための作業
第14回	理科で実施する脱原発・エネルギー教育の教材化Ⅱ－発表と評価－ 【準備学習】作成した教材を模擬授業的に発表し相互に学びあうための作業

第15回	おわりにーまとめと課題提示ー 【準備学習】 これまで学習した内容を振り返り学習者自らの課題を追う作業
------	--

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

粒子・エネルギー領域における広範な理解を有し、作成した理科教材を用いて学習者に科学的リテラシーを育成するための指導を行うことができる。

(現職教員)

粒子・エネルギー領域における一般的な理解を有し、作成した理科教材を用いて学習者に科学的リテラシーを育成するための指導を行うことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

粒子・エネルギー領域における基本的な理解を有し、作成した理科教材を用いて学習者に科学的リテラシーを育成するための指導を行うことができる。

■評価方法

出席と授業時の学習態度（関心・意欲・積極性など）、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%（4点/回×15＝60）、課題と発表 40% とする。

■使用教材

教科書

- ①桐山信一：小学校理科「物理・天文分野」の指導、大学教育出版、2011年、2600円
- ②桐山信一：理科概論ーエネルギー科学基礎ー、創価大学、2014年、1000円
- ③長洲南海男ほか2名：全米科学教育スタンダード、梓出版社、2001年、2300円
- ④日本物理教育学会誌、第58巻、第1号(2010)、非売品
- ⑤慶應義塾機関誌：三田評論、2014年11月号、非売品

参考書

授業にて随時指示いたします。

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究BⅡ(算数)

■教員名 鈴木 将史・鈴木 詞雄

■授業概要

これまで数年間、算数の中で学習が難しいと言われる、いわゆる「難所」をどう指導していくかについて追求してきたが、算数の題材は多く、「難所」についても焦点がぼやけてしまった感が否めない。そこで今期は内容を絞り込んで、より深く指導法を研究してみたい。

今期のテーマは「割合の指導について」である。「割合」は「分数の割り算」と並んで、ここ数年最も多く取り上げられた「難所」のひとつである。この「割合」について、各教科書はどのように扱っているのか調べ、「何が難しいのか」を明らかにし、そして「どのように指導すればよいのか」について多くのアイデアを出し合っていきたい。

さらに模擬授業を通してアイデアを磨き、現場での指導にも大いに役立つ教材研究としていきたい。やがて実は「分数の割り算」も、同じ考えで指導できることがわかってくるであろう。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	○オリエンテーション 授業のねらいを概観し、半期の進め方について話し合う。
第2回	○「割合」に関する教科書の扱い[1] 各教科書における扱いを調べ、その相違について整理する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第3回	○「割合」に関する教科書の扱い[2] 前回に引き続き、各教科書における扱いを調べ、整理する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第4回	○「割合」指導の困難分析[1] 教科書の内容のどの部分が困難を生じるのか分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第5回	○「割合」指導の困難分析[2] 前回に引き続いて困難さを分析し、困難な項目を整理してまとめる。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第6回	○「割合」の授業研究[1] 世に紹介されている多くの指導法のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第7回	○「割合」の授業研究[2] 引き続き多くの指導法を研究し、その効果を検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第8回	○中間まとめ ここまでの実践について振り返り、後半へ向けての課題を明確にする 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第9回	○困難解消への工夫[1] 前半で明らかになった各困難項目を克服する新しい指導法を検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第10回	○困難解消への工夫[2] 引き続き新しい指導法を検討する。

	【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第11回	○「割合」についての模擬授業[1] 「割合」についてねらいを明確にした模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第12回	○「割合」についての模擬授業[2] 「割合」についてねらいを明確にした模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第13回	○「割合」から見る「比と比例」 「割合」に関連する単元として、「比と比例」を分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第14回	○「割合」から見る「分数の乗除」 「割合」に関連する単元として、「分数の乗除」を分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第15回	○まとめ 授業全体を振り返り、得られたことや課題をレポートにまとめて提出する。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

「割合」の単元に関する算数授業について、学習指導要領や各社の教科書の記述に基づいて評価することができる。

(現職教員)

実際の教室の現場でも利用できる、「割合」の単元に関する新しい授業案を、教科書の記述を生かしながら開発することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学習指導要領や教科書の内容を深く理解し、児童の理解度をも考慮した「割合」の授業分析、教材開発が行えるようになる。

■評価方法

授業への出席状況のほか、討論への積極的参加、模擬授業におけるプレゼンテーションや提出物のパフォーマンスなどについて総合的に判断する。

■使用教材

『学習指導要領解説算数編』、小学校算数の各種教科書に加え、必要に応じて適宜教材を配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究BⅡ(理科)

■教員名 桐山 信一

■授業概要

本授業では、学習者の科学的リテラシーを育てるための教材化について、生命・地球領域における今日的課題を踏まえて考察する。得られた成果から、防災教育・環境教育を視野に入れた教材を作る教育的技能を養う。また、その教材の教育的有効性を評価する態度を養う。その際、小中高の理科教育の繋がりを見通し、各学校段階で学習者にどのような科学的リテラシーが必要とされるかを検討する。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション、学習指導要領における小中高の理科の繋がり 【準備学習】使用教材①②から天文分野を例に小中高の学習内容を把握する
第2回	理科教育で育てる科学的リテラシーの検討 【準備学習】使用教材③序章
第3回	小学校理科における天文分野の指導と実際 【準備学習】使用教材③第5章第4節、第7章第4節
第4回	太陽の観察法Ⅰ－ 【準備学習】使用教材④
第5回	太陽の観察法Ⅱ－ 【準備学習】使用教材④
第6回	太陽望遠鏡による太陽表面・プロミネンス観測Ⅰ－ 【準備学習】使用教材④
第7回	太陽望遠鏡による太陽表面・プロミネンス観測Ⅱ－ 【準備学習】使用教材④
第8回	理科における防災教育Ⅰ－関東における竜巻の被害と実情－ 【準備学習】使用教材⑤
第9回	理科における防災教育Ⅱ－大気の様子－ 【準備学習】使用教材⑥
第10回	理科における防災教育Ⅱ－渦の発生メカニズム－ 【準備学習】使用教材⑥
第11回	理科における防災教育Ⅳ－渦を小中学校の実験室で再現する－ 【準備学習】使用教材⑦
第12回	理科における防災教育・環境教育を視野に入れた教材化Ⅰ－教材設計－ 【準備学習】これまで学習した内容をふまえて教材を設計するための情報収集
第13回	理科における防災教育・環境教育を視野に入れた教材化Ⅱ－教材作成－ 【準備学習】収集した情報をふまえて教材を作るための作業
第14回	理科における防災教育・環境教育を視野に入れた教材化Ⅱ－発表と評価－ 【準備学習】作成した教材を模擬授業的に発表し相互に学びあうための作業
第15回	おわりに－まとめと課題提示－ 【準備学習】これまで学習した内容を振り返り学習者自らの課題を追う作業

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

生命・地球領域における広範な理解を有し、作成した理科教材を用いて学習者に科学的リテラシーを育成するための指導を行うことができる。

(現職教員)

生命・地球領域における一般的な理解を有し、作成した理科教材を用いて学習者に科学的リテラシーを育成するための指導を行うことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

生命・地球領域における基本的な理解を有し、作成した理科教材を用いて学習者に科学的リテラシーを育成するための指導を行うことができる。

■評価方法

出席と授業時の学習態度（関心・意欲・積極性など）、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%（4 点/回×15＝60）、課題と発表 40% とする。

■使用教材

教科書

- ①文部科学省:中学校学習指導要領解説理科編、大日本図書、平成 20 年、200 円
- ②文部科学省:高等学校学習指導要領解説理科編、大日本図書、平成 21 年、350 円
- ③桐山信一:小学校理科「物理・天文分野」の指導、大学教育出版、2011 年、2600 円
- ④太陽望遠鏡添付資料
- ⑤藤田哲也:たつまき(上)、共立出版、1976 年、1100 円
- ⑥地学教育講座
- ⑦第 31 回日本物理教育学会発表予稿集

参考書

授業にて随時指示いたします。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究C(図工)

■教員名 小山 満

■授業概要

はじめにアメリカの美術教育で広く知られるローウェンフェルド(V.Lowenfeld)の美術理論、子どもの絵の発達段階について、この理論が生まれる背景と、その効果を探求し、今後の指導に生かすポイントをおさえる学習をしたい。つぎにチゼック(Franz Cizek)の美術教室について学び、最後にシュタイナー(R.Steiner)の「芸術としての教育」という理論について、現代の教育に生かす方途として妥当か否かを検討する。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	ローウェンフェルド(V.Lowenfeld)について紹介する。 【準備学習】ローウェンフェルド(V.Lowenfeld)について調べておく。
第2回	ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について理解する。 【準備学習】ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について調べておく。
第3回	ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について、疑問点を出し合い検討する。 【準備学習】ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階の問題点を調べておく。
第4回	ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について、院生によるプレゼンを聞き、問題点を検討する。 【準備学習】ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階の問題点を調べておく。
第5回	ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について、疑問点を纏める。 【準備学習】ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階の問題点を調べておく。
第6回	チゼックの美術教育について紹介する。 【準備学習】チゼックの美術教育について調べておく。
第7回	チゼックの美術教育について、質疑応答の記録を確認する。 【準備学習】チゼックによる美術教育の質疑応答の記録をチェックしておく。
第8回	チゼックの美術教育について院生がプレゼンをし、特色や優れた点を明らかにする。 【準備学習】チゼックの美術教育について調べておく。
第9回	チゼックの美術教育について行われたプレゼンの課題を明らかにする。 【準備学習】チゼックの美術教育と現代の関係を調べておく。
第10回	チゼックの美術教育について全体を纏める。 【準備学習】チゼックの美術教育と現代の関係を調べておく。
第11回	シュタイナーの芸術教育について紹介する。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育について調べておく。
第12回	シュタイナーの芸術教育について優れた点を明らかにする。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育について優れた点を調べておく。
第13回	シュタイナーの芸術教育について問題点を検討する。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育の問題点を調べておく。
第14回	シュタイナーの芸術教育について院生のプレゼンを聞き問題を整理する。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育の全体を把握しておく。
第15回	3人の先達の学びを振り返り纏める。 【準備学習】3人の先達について振り返っておく。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

現実の授業でこれらの理論が応用できるか否か、管理者として必要な事項を修得する。

(現職教員)

現実の授業でこれらの理論がいかに応用できるか、具体的な手法を見出す。

◇人間教育プロフェッショナルコース

現実の授業でこれらの理論がいかに応用できるか、理論的可能性を明らかにする。

■評価方法

授業の出席状況と取り組みの姿勢、そしてプレゼンテーションの内容で判断します。

■使用教材

V.Lowenfeld “Creative and Mental Growth” 竹内清・堀ノ内敏・武井勝雄共訳『美術による人間形成』黎明書房 1995。

W.Viola “Child Art” ヴィオラ・久保貞次郎・深田尚彦共訳『チゼックの美術教育』黎明書房 1999。

R.Steiner “Erziehungskunst Methodisch-Didaktischers” 高橋巖訳『ルドルフシュタイナー教育講座Ⅱ 教育芸術 1 方法論と教授法』筑摩書房 1989. 子安美知子・上松佑二『シュタイナー芸術としての教育』小学館 1988

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究C(体育)

■教員名 藤平田 英彦

■授業概要

体育は体を知ることから始まる。そこで科学的見地から体育の実技授業を考えることを主眼とする。

最初に学部で学んだ学校のこと、教育課程のこと等について再確認をする。

2回目以降は生理学の知見から実技授業を考え、13回目以降は実技授業の特性、授業構成を考える授業にする。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	授業の進め方と基本的な事項の確認。基本的な事項とは学部で学習した学習指導要領解説体育編で学んだ内容をどこまで把握しているかを確認することである。 【準備学習】学校教育法の第1条。小学校の教育課程。体育の領域。低・中・高学年の実技と保健の学習内容。等。
第2回	筋肉の構造、筋肉の名称、筋肉の働きを学んだ上で準備運動の生理的意味と準備運動の方法を考える。 【準備学習】上肢と下肢の部位の名称、その部位の骨の名称を事前に調べておく和良好的。
第3回	筋の収縮エネルギーと食事を考える。筋の収縮様式とトレーニング方法。筋のトレーニング効果から体育実技授業での応用を考える。 【準備学習】ATP とは何か。アイソトニックとアイソメトリックの意味を事前に調べておく和良好的。
第4回	① 呼吸系について。肺容量の区分。運動時の呼吸の生理的変化について学び体育実技授業での応用を考える。 【準備学習】肺の直接のガス交換組織である肺胞について事前に調べておく和良好的。
第5回	② ガス交換の仕組み。高地に行った時の呼吸の変化。水中での呼吸の変化を学ぶ。特に、富士山登山を例にして考える。 【準備学習】大気組成、1気圧のhPa、mmHg について事前に調べておく和良好的。
第6回	循環系について。肺循環と体循環、動脈と静脈のネーミングの違い。運動中の心拍数(脈拍数)の変化を学び体育実技授業での応用を考える。 【準備学習】心電図の波形、オームの法則(血圧に関係あり)を事前に調べておく和良好的。
第7回	神経系について。ニューロン、シナプス、運動、感覚、自律神経の違いについて学び、運動能力の差はどうして生じるのかを考え、能力アップの手立てを考える。 【準備学習】求心性神経、遠心性神経について事前に調べておく和良好的。
第8回	脳の発達(ニューロン、シナプスの発達)と保育・教育のあり方考える。 【準備学習】大脳皮質、大脳辺縁系について事前に調べておく和良好的。
第9回	肥満の定義。標準体重の算出、体脂肪率、LDLP 等について学び体育指導を考える。 【準備学習】BMI、インピーダンス、LDLP について事前に調べておく和良好的。
第10回	栄養素とそのカロリー、エネルギー代謝からダイエットを考える。 学校給食と栄養の摂取を考える。

	【準備学習】三大栄養素の1gのカロリー量を事前に調べておく和良好的。
第11回	体水分量、発汗、水分の蒸発による体温の低下等を学び運動で汗をかいたあとの処置を考える。 【準備学習】ヒトの発汗の方法を事前に調べておく和良好的。
第12回	体の発育の現状と体力・運動能力の発達の現状を学び「体づくり運動」を考える。 【準備学習】学習指導要領解説体育編の低・中・高学年の「体づくり運動」を学んでおく和良好的。
第13回	心技体は武道の言葉であるが、体育のみならず他の教科にもあてはまる事柄である。この心技体から体育実技授業への応用を考える。 【準備学習】練習とトレーニングの違いについて事前に調べておく和良好的。
第14回	体育実技の授業には他の教科の教科書に付随する教師用指導書はない。そこである教材について単元指導計画を考え、1時間の授業構成を考える。 【準備学習】高学年の運動領域を事前に調べておく和良好的。
第15回	体育の実技、学校行事で行う集団行動について実技を行う。 【準備学習】「体育における集団行動指導の手引き 旧文部省」を参考にすると良好的。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

科学的見地から教科の専門性を高め、教員の指導・助言にあたる。

(現職教員)

科学を基礎とした体育を学び今後の授業作りに役立てることができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

体育教科を、科学を主眼として観ることができる。

生理的な知識を身に付けることができる。

体の構造や機能を知った上で授業デザインができる。

■評価方法

授業の出席と発問と応答。

■使用教材

自作のパワーポイントを使用する。

必要時にプリント教材を渡す。

参考になるものを持参し提示する。

時には器具を用いて実験をすることもある。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究 D(生活・総合/小)

■教員名 寺林 民子

■授業概要

本科目は、「自らの問題解決のプロセスの探究と、生き方を探究する」生活科と総合的な学習の時間について、その意義と本質について理解を深め、具体的な実践の構想の資質を養う。①生活科は実践事例から、子どもが創る生活科、幼少連携の教育、総合的な学習の学びへの発展の視点から、生活科がはたす低学年の子どもの教育の可能性について探究する。②総合的な学習の時間は ESD(持続可能な社会と平和のための教育)の視点から実践事例を取り上げ考察する。③国際比較の視点から、日本の優れた生活科の実践にみる「子どもの学びの姿とその見取り」、ドイツの生活科やタイの環境学習の取り組みの違いから視座を得る。④学びを生かして授業モデルを作成し、参加者で吟味検討する。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースガイダンス 「生き方の探究」としての生活科、総合的な学習の時間の独自性 各人の問題意識、課題意識の方向 【準備学習】シラバスに目を通す
第2回	生活科創設 と 総合的な学習の時間の創設の経緯と趣旨 戦後40年経て、日本の教育改革の中で生まれた生活科。歴史的な経緯 新しい学力観、生きる力と個の確立 【準備学習】配布資料の学習と学習のふりかえり
第3回	生活科と総合的な学習の時間についての各人の課題の意識化 ディスカッション 【準備学習】生活科・総合的な学習の実践資料の準備(収集)
第4回	生活科の実践上の課題 実践報告(授業参観) 【準備学習】参観授業の感想
第5回	優れた実践事例からの考察① 子どもが生き方を探究する姿のとらえ方 教師の見取りと教師の単元構想とマネジメントの実際 【準備学習】実践事例資料の学習
第6回	優れた実践事例からの考察② 子どもが生き方を探究する姿のとらえ方 教師の見取りと教師の単元構想とマネジメントの実際 【準備学習】実践事例資料の学習
第7回	優れた実践事例からの考察③ 子どもが生き方を探究する姿のとらえ方 教師の見取りと教師の単元構想とマネジメントの実際 【準備学習】実践事例資料の学習、ふりかえりレポート
第8回	ドイツの生活科(事実教授)との実践対話① 参加型ドイツ教材の体験 「今！私の時間 ぼくの時間」① 【準備学習】実践事例資料の学習

第9回	ドイツの生活科(事実教授)との実践対話② 「今！わたしの時間、ぼくの時間」②子どもがつくる授業 単元構想 ビデオ・授業記 【準備学習】実践事例資料の学習、ふりかえり
第10回	ドイツの生活科(事実教授)との実践対話③ 「今！わたしの時間、ぼくの時間」③子どもの学びの意味 ポートフォリオの分析 【準備学習】実践事例資料(ポートフォリオ資料)の分析、ふりかえり
第11回	ESD から考える総合的学習の時間 【準備学習】ESD についての各人のリサーチレポート。配布資料の学習
第12回	総合的学習の時間と ESD(持続可能な社会と平和のための教育) 「環境」教育に着目して①事例研究 (日本の給食牛乳パックのリサイクル) 【準備学習】実践事例資料、考察
第13回	総合的学習の時間と ESD(持続可能な社会と平和のための教育) 「環境」教育に着目して②事例研究(バンコクの小学校マングローブの林の再生)【準備学習】配 付資料の学習
第14回	総合的学習の時間と ESD(持続可能な社会と平和のための教育) 地球市民育成に着目して③事例研究 【準備学習】配布資料の学習と考察
第15回	各人の単元構想についての吟味検討 【準備学習】単元構想図作成

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

生活科、総合的学習の時間の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質並びにその展開の在り方に対する見識をもち、それらをもとに学校現場における生活科教育の授業実践、実践研究を適正に指導することができる。

(現職教員)

生活科、総合的学習の時間の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質並びにその展開の在り方に対する見識をもち、それらをもとに自己の実践を省察・吟味することができる。また、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

生活科教育。総合的学習の時間について、その指導目標・内容、教材、指導方法、評価などの特質に理解を深め、自分で単元構想を描き、授業実践に活用することができる。生活科を通して子どもの学びの姿をとらえその理解を更新することができる。

■評価方法

ふり返しレポート 30 パーセント、
授業への参加意欲、プレゼン等 40 パーセント、
最終レポート・授業案 30 パーセント

■使用教材

小学校学習指導要領解説 生活科 平成 20 年度版

小学校学習指導要領解説 総合的学習の時間 平成 20 年度版

参考図書『21世紀の学校をひらく トピック別総合学習 ドイツの教育との実践対話』(北大路書房)、国立教育政策研究所紀要「世界の総合学習」などその他適宜、資料配布、図書紹介

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究 D(道徳)

■教員名 石丸 憲一

■授業概要

本科目は、子どもたちが一生をどう生きていくかの道標となる心のあり方あるいは道徳性、倫理観について考え、それらを学校教育のどのような場で育てていくかを考えるとともに、道徳の時間を 1 時間の授業として実践できることに終わらず、学校の教育活動の全体で実践できる能力を育てることを目標とする。道徳的実践力の育成に重点を置いた資料づくりや指導案や単元計画の作成、模擬授業やプレゼンにより実践的な評価を行い、生きた指導に結びつくようにする。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	「授業のねらい、授業計画の把握」 自分の中の道徳教育を振り返り、自分なりの課題をつかむ。 【準備学習】学習に期待すること、自信の道徳教育について振り返ってみる。
第2回	「道徳とは(特に学校教育において)」 新学習指導要領を読むことにより、道徳教育とは何か、何を求められているのかを考える。 【準備学習】学習指導要領道徳に目を通す。
第3回	「道徳の時間と学習指導要領」 昭和 33 年から平成 20 年までの学習指導要領における道徳の時間の変遷から道徳教育の不易と流行をつかむ。(グループ活動で検討する。) 【準備学習】学習指導要領道徳に目を通す。
第4回	「道徳の時間と学習指導要領」 第 3 回に検討した学習指導要領の変遷から読み取ることのできる道徳教育の不易と流行をグループごとにプレゼンテーションする。 【準備学習】グループのプレゼンの準備をする。
第5回	「読み物資料を使った道徳の授業」(講義と討議) 道徳の時間の授業で使用される資料について、その役割と生かし方を講義を通じて理解する。 【準備学習】各グループの発表を整理する。
第6回	「読み物資料を使った道徳の授業」(演習～読み物の分析～)① 読み物資料をどう読み、道徳の時間の授業でどう扱うかを実際の資料について授業を想定して考えることで、実践力を鍛える。 【準備学習】前回の配付資料を読み、意見をまとめておく。
第7回	読み物資料を使った道徳の授業 (演習～読み物の分析～)② 読み物資料をどう読み、道徳の時間の授業でどう扱うかを実際の資料について授業を想定して考えることで、実践力を鍛える。 【準備学習】前回に扱った読み物資料について、自分だったらどのように授業を作っていくかを考えてみる。
第8回	「読み物資料の開発」(講義と討議) 資料化されていない物語やノンフィクションをどのような観点で資料化し、どのように資料として利用するかを考える。 【準備学習】読み物資料の開発についてこれまでの実践等を振り返っておく。

第9回	「読み物資料の開発」(演習) 実際に読み物資料を授業することを前提として構想し、プレゼンテーションする。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第10回	内容項目の検討(講義と討議) 道徳教育で扱われている内容項目について分析、考察することで、今後の道徳教育のあるべき姿を考える。 【準備学習】プレゼンの振り返りをしておく。
第11回	内容項目の検討(プレゼンテーション①) 友情について考える。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第12回	内容項目の検討(プレゼンテーション②) 思いやり・親切について考える。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第13回	内容項目の検討(プレゼンテーション③) 郷土愛・愛国心について考える。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第14回	内容項目の検討(プレゼンテーション④) 敬虔・畏敬の念について考える。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第15回	まとめと振り返り 【準備学習】プレゼンの振り返りをしておく。

■到達目標

◇人間教育プロフェッショナルコース

- 道徳教育を何のために行うのかをいろいろな視点から考える中で確立し、それを具現化する資料の扱いや授業の方法を身につける。

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

- プロフェッショナルコースの目標に到達すると同時に、自分自身のこれまでの道徳教育を振り返り、どのように若手教員にアドバイスしたらよいかを考えることができる。

(現職教員)

- プロフェッショナルコースの目標に到達すると同時に、自分自身のこれまでの道徳教育を振り返り、よりよい道徳の授業を作るための改善点を見出すことができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言)やプレゼンテーション、まとめのレポートを総合して評価する。

■使用教材

主としてプリントを用意する。必要に応じて参考文献などを指定する。

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究E(外国語活動)

■教員名 近藤 茂代・三津村 正和

■授業概要

『小学校学習指導要領外国語活動編』で概説されている小学校外国語活動の目標・内容を理解し、当該活動の効果的な指導法を体験的に習得し、楽しみながら外国語活動が行えるようになることを目標とする。具体的には、小学校第5・6学年に在籍する児童が、外国語を通した①言語・文化の体験的理解、②コミュニケーションを図ろうとする能動的な態度の涵養、③コミュニケーション能力の素地の育成を図る上での効果的な学習活動についての教授理論・実践の両面を体系的に学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内 容	
第1回	オリエンテーション	
	【リーダーコース】 (第2～8回担当:近藤/第9～15回担当:三津村)	【プロフェッショナルコース】 (第2～8回担当:三津村/第9～15回担当:近藤)
第2回	所属校での外国語活動の現状と課題 Classroom English/ALTとの英会話表現 【準備学習】所属校の外国語活動についてまとめる。	小学校外国語活動の目標と基本理念 【準備学習】使用教材②の指定されたページを読む。
第3回	Hi! Friends! を活用した模擬授業・協議① 英語の歌の活用 【準備学習】指導案の作成・英語の歌調べ	小学校外国語活動の授業づくり:教育工学の視点 【準備学習】使用教材②の指定されたページ及び配布資料を読む。
第4回	Hi! Friends! を活用した模擬授業・協議② 英語のゲームの活用 【準備学習】指導案の作成・英語のゲーム調べ	様々な外国語活動①:協同学習と外国語活動(1) 【準備学習】使用教材③の指定されたページ及び配布資料を読み、課題を達成する。
第5回	Hi! Friends! を活用した模擬授業・協議③ 英語の絵本の活用 【準備学習】指導案の作成	様々な外国語活動②:協同学習と外国語活動(2) 【準備学習】使用教材③の指定されたページ及び配布資料を読み、課題を達成する。
第6回	Hi! Friends! を活用した模擬授業・協議④ 異文化紹介 【準備学習】指導案の作成 紹介する異文化調べ	様々な外国語活動③:ICTと外国語活動 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第7回	連携協力校(予定)での外国語活動 【準備学習】指導案の作成	様々な外国語活動④:演劇と外国語活動 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第8回	連携協力校での外国語活動の振り返り 【準備学習】授業参観の記録をまとめる。	プレゼンテーション 【準備学習】プレゼンテーションに備える。
第9回	小学校外国語活動の目標と基本理念 【準備学習】使用教材②の指定されたページを読む。	実習校での外国語活動の現状と課題 Classroom English/ALTとの英会話表現 【準備学習】実習校の外国語活動についてまとめる。
第10回	小学校外国語活動の授業づくり:教育工学の視点 【準備学習】使用教材②の指定されたページ及び配布資料を読む。	Hi! Friends! を活用した模擬授業・協議① 英語の歌の活用 【準備学習】指導案の作成・英語の歌調べ

第11回	様々な外国語活動①:協同学習と外国語活動(1) 【準備学習】使用教材③の指定されたページ及び配布資料を読み、課題を達成する。	Hi! Friends! を活用した模擬授業・協議② 英語のゲームの活用 【準備学習】指導案の作成 英語のゲーム調べ
第12回	様々な外国語活動②:協同学習と外国語活動(2) 【準備学習】使用教材③の指定されたページ及び配布資料を読み、課題を達成する。	Hi! Friends! を活用した模擬授業・協議③ 英語の絵本の活用 【準備学習】指導案の作成
第13回	様々な外国語活動③:ICTと外国語活動 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。	Hi! Friends! を活用した模擬授業・協議④ 異文化紹介 【準備学習】指導案の作成 紹介する異文化調べ
第14回	様々な外国語活動④:演劇と外国語活動 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。	連携協力校(予定)での外国語活動 【準備学習】指導案の作成
第15回	プレゼンテーション 【準備学習】プレゼンテーションに備える。	連携協力校での外国語活動の振り返り 【準備学習】研究授業の記録をまとめる。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)小学校外国語活動の目標及び内容等を十分に理解し、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。

(現職教員)小学校外国語活動の目標及び内容等を十分に理解し、授業の改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

小学校外国語活動の目標及び内容等を十分に理解し、授業の改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

①個人課題(※準備学習):30%、②プレゼン(※模擬授業):30%、③授業参加(※授業内活動への積極的な参加):30%、④その他:10%

※出席規定:全授業への出席を基本とする。1回の欠席につき、-10%。遅刻2回で、欠席1回とする。

※シラバスの内容に変更が生じる際は、事前に通知し了承を得る。

■使用教材

①文部科学省『Hi, Friends! 1・2(市販版児童用テキスト)』(2012年、東京書籍、各95円)、②樋口忠彦他『小学校英語教育法入門』(2013年、研究社、2,000円)、③江利川春雄『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』(2012年、大修館書店、2,000円)、※その他、授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名	特別活動と生徒指導																						
■教員名	長島 明純 ・ 近藤 茂代																						
■授業概要	本授業科目では、特別活動の意義・課題、生徒指導の今日的諸課題の理解と対応を中心に、生徒指導とキャリア教育、特別活動と道德教育との関連についても、開発的な援助という側面を大切にしながら、受講者の問題関心に添いつつ有機的に学ぶ。																						
■授業計画・内容	<table> <tr> <th>回数</th><th>内 容</th></tr> <tr> <td>第 1 回</td><td> オリエンテーション（自己紹介を含む） 本科目の意図・内容構成 他 概説 1 特別活動の意義と課題 【準備学習】「学習指導要領解説 特別活動」および「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談」の特別活動の箇所を読む。 </td></tr> <tr> <td>第 2 回</td><td> プレゼンテーション① 学級活動（係り・生活班・学習班の決め方等） リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】リーダーコースは所属校での標記の内容についてまとめる。 プロコースは参考図書で該当部分を読む。 </td></tr> <tr> <td>第 3 回</td><td> プレゼンテーション② 児童会活動の現状と課題 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第 2 回と同じ </td></tr> <tr> <td>第 4 回</td><td> プレゼンテーション③ クラブ活動の現状と課題 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第 2 回と同じ </td></tr> <tr> <td>第 5 回</td><td> プレゼンテーション④ 学校行事（運動会）の現状と課題 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第 2 回と同じ </td></tr> <tr> <td>第 6 回</td><td> プレゼンテーション⑤ 学校行事（卒業式）の現状と課題 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第 2 回と同じ </td></tr> <tr> <td>第 7 回</td><td> 概説 2 児童生徒の心理と児童生徒理解 各グループでのディスカッション、検討を踏まえ、全体で検討・協議 【準備学習】参考図書の該当部分を読む。 </td></tr> <tr> <td>第 8 回</td><td> 概説 3 よりよい人間関係づくりのための取組（演習） ー 教育相談活動と構成的グループエンカウンター ー 【準備学習】学校における構成的グループエンカウンターの活用について文献等をもとに整理しておく。 </td></tr> <tr> <td>第 9 回</td><td> プレゼンテーション⑥ いじめ問題の現状、解決のための取組みと課題 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】プロコースは文献等をもとに標記の内容についてまとめる。 リーダーコースは参考図書の該当部分を読み、所属校の取組を振り返る。 </td></tr> <tr> <td>第 10 回</td><td> プレゼンテーション⑧ 不登校問題の現状、解消のための取組と課題 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント </td></tr> </table>	回数	内 容	第 1 回	オリエンテーション（自己紹介を含む） 本科目の意図・内容構成 他 概説 1 特別活動の意義と課題 【準備学習】「学習指導要領解説 特別活動」および「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談」の特別活動の箇所を読む。	第 2 回	プレゼンテーション① 学級活動（係り・生活班・学習班の決め方等） リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】リーダーコースは所属校での標記の内容についてまとめる。 プロコースは参考図書で該当部分を読む。	第 3 回	プレゼンテーション② 児童会活動の現状と課題 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第 2 回と同じ	第 4 回	プレゼンテーション③ クラブ活動の現状と課題 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第 2 回と同じ	第 5 回	プレゼンテーション④ 学校行事（運動会）の現状と課題 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第 2 回と同じ	第 6 回	プレゼンテーション⑤ 学校行事（卒業式）の現状と課題 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第 2 回と同じ	第 7 回	概説 2 児童生徒の心理と児童生徒理解 各グループでのディスカッション、検討を踏まえ、全体で検討・協議 【準備学習】参考図書の該当部分を読む。	第 8 回	概説 3 よりよい人間関係づくりのための取組（演習） ー 教育相談活動と構成的グループエンカウンター ー 【準備学習】学校における構成的グループエンカウンターの活用について文献等をもとに整理しておく。	第 9 回	プレゼンテーション⑥ いじめ問題の現状、解決のための取組みと課題 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】プロコースは文献等をもとに標記の内容についてまとめる。 リーダーコースは参考図書の該当部分を読み、所属校の取組を振り返る。	第 10 回	プレゼンテーション⑧ 不登校問題の現状、解消のための取組と課題 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント
回数	内 容																						
第 1 回	オリエンテーション（自己紹介を含む） 本科目の意図・内容構成 他 概説 1 特別活動の意義と課題 【準備学習】「学習指導要領解説 特別活動」および「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談」の特別活動の箇所を読む。																						
第 2 回	プレゼンテーション① 学級活動（係り・生活班・学習班の決め方等） リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】リーダーコースは所属校での標記の内容についてまとめる。 プロコースは参考図書で該当部分を読む。																						
第 3 回	プレゼンテーション② 児童会活動の現状と課題 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第 2 回と同じ																						
第 4 回	プレゼンテーション③ クラブ活動の現状と課題 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第 2 回と同じ																						
第 5 回	プレゼンテーション④ 学校行事（運動会）の現状と課題 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第 2 回と同じ																						
第 6 回	プレゼンテーション⑤ 学校行事（卒業式）の現状と課題 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第 2 回と同じ																						
第 7 回	概説 2 児童生徒の心理と児童生徒理解 各グループでのディスカッション、検討を踏まえ、全体で検討・協議 【準備学習】参考図書の該当部分を読む。																						
第 8 回	概説 3 よりよい人間関係づくりのための取組（演習） ー 教育相談活動と構成的グループエンカウンター ー 【準備学習】学校における構成的グループエンカウンターの活用について文献等をもとに整理しておく。																						
第 9 回	プレゼンテーション⑥ いじめ問題の現状、解決のための取組みと課題 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】プロコースは文献等をもとに標記の内容についてまとめる。 リーダーコースは参考図書の該当部分を読み、所属校の取組を振り返る。																						
第 10 回	プレゼンテーション⑧ 不登校問題の現状、解消のための取組と課題 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント																						

	【準備学習】第9回と同じ
第11回	プレゼンテーション⑨ 生徒指導とキャリア教育 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第9回と同じ
第12回	プレゼンテーション⑩ 情報化社会における生徒指導の課題と対応 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第9回と同じ
第13回	プレゼンテーション⑪ 児童養護施設、福祉施設等、関係諸機関との連携 プロコースの発表、全体で検討・協議 教員によるコメント 【準備学習】第9回と同じ
第14回	特別講師による講話 「児童擁護施設にかかわって(サレジオ学園)」 東京サレジオ学園長 野口重光先生特別講師による講話を受け、その内容に基づき質疑・検討 【準備学習】第9回と同じ
第15回	まとめ・振り返り。 学びの発表。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

特別活動・生徒指導に関する今日的課題(関連する道徳教育やキャリア教育も含め)について、深く考察し理解するとともに、関係機関とも連携しながら、組織的な対応ができるよう、他の教員に専門性をもって適切に指導助言できる。

(現職教員)

特別活動・生徒指導に関する今日的課題(関連する道徳教育やキャリア教育も含め)について、その意義など整理し理解するとともに、関係機関との連携や組織的な対応について、他の教員に自身の実践事例を踏まえ提案することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

特別活動・生徒指導に関する今日的課題(関連する道徳教育やキャリア教育も含め)について、その意義や課題を理解するとともに、それを教育現場での組織的な取り組みや関係機関との連携などに生かすことができる。

■評価方法

- (1)授業中での質問・協議への参画状況・小レポートの内容。
- (2)生徒指導などに関する研究報告・講義・協議を踏まえたレポートの充実度。

■使用教材

参考図書：「小学校学習指導要領 特別活動編」文部科学省, 東洋館出版社
「中学校学習指導要領 特別活動編」文部科学省, 東洋館出版社
「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談」有村久春著, 金子書房
「生徒・進路指導論」吉川成司編著, 創価大学通信教育部
「生徒指導提要」文部科学省, 教育図書。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	学校カウンセリングの現状と課題
■教員名	長島 明純 ・ 高野 久美子
■授業概要	

本授業科目では、学校カウンセリングに関する演習や事例検討を中心にして、受講者の問題関心に添いながら、学校カウンセリングに関する今日的課題について整理すると共に、校内支援体制や関係諸機関との連携などの進め方などについても理解を深める。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	教員からの本授業科目の意図の内容構成に関する提示。子どもの症状とその意味概説。 受講生の学校カウンセリングに関する問題関心について整理・共有。 【準備学習】学校カウンセリングについての問題関心を整理しておく(参考図書：石隈 利紀著「学校心理学―教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス」 誠信書房)。授業を振り返る。
第2回	カウンセリングの基本を概説。誘発線法を実際に体験し、カウンセリングにおける両者の関係性についての理解を深める。 【準備学習】カウンセリングの基本について調べておく(参考図書：石佐治守夫・飯長喜一郎編「ロジャーズ クライエント中心療法 新版 --カウンセリングの核心を学ぶ」有斐閣)。授業を振り返る。
第3回	傾聴についての概説とロールプレイ。相手の話を「聴かない」ロールプレイと相手の話を「聴く」ロールプレイ。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。
第4回	教育的ニーズのある子どもの保護者理解について解説。「保護者との面談について①」教育的ニーズのある子どもの保護者との面談についてロールプレイを体験する。教師役・保護者役・観察者二人の4人一組で、役割を交代して実習を行う。 【準備学習】教育的ニーズのある子どもの保護者に関して調べておく(参考図書：中田洋二郎著「発達障害と家族支援―家族にとっての障害とはなにか」学習研究社)。授業を振り返る。
第5回	教育的ニーズのある保護者への対応について、具体的な事例をもとに検討。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。
第6回	「不登校」「引きこもり」について概説。 【準備学習】「不登校」「引きこもり」について調べておく(参考図書：藤岡 孝志「不登校臨床の心理学」誠信書房、「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」厚生労働省)。授業を振り返る。
第7回	「児童生徒との面談について①」友達関係の悩みから不登校ぎみになっている児童生徒との相談をロールプレイで体験する。 第4回と同様の手順で行う。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。
第8回	学校における「不登校」「引きこもり」への対応の在り方などについて、具体的な事例をもとに検討。(事例検討)

	【準備学習】「不登校」「引きこもり」の事例への対応について検討しておく。授業を振り返る。
第9回	「いじめ」について概説。「保護者との面談について②」いじめ被害者の保護者との面談についてロールプレイを体験する。第4回と同様の手順で行う。 【準備学習】「いじめ」について調べておく（参考図書：森田洋司著「いじめとは何か―教室の問題、社会の問題」中央公論新社）。授業を振り返る。
第10回	「児童虐待」について概説。 【準備学習】「児童虐待」について調べておく（参考図書：川崎二三彦著「児童虐待―現場からの提言」岩波書店）。本授業の内容を振り返る。
第11回	学校における「児童虐待」への対応の在り方などについて、具体的な事例をもとに検討。 【準備学習】「児童虐待」の事例への対応について検討しておく。授業の内容を振り返る。
第12回	現在の学校カウンセリングの大きな課題の一つである「非行」「暴力」について、特別講師より現在の状況など講話していただく。 【準備学習】近年の「非行」「暴力」の傾向について、国の研究調査などで確認しておく。授業の内容を振り返る。
第13回	関係者会議の在り方とチームシートについて概説。校内や学校外の多様な関係機関とのネットワークについても概説。 【準備学習】学校におけるチーム支援について調べておく（参考図書：石隈 利紀・田村節子著「石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門―学校心理学・実践編」図書文化社）。授業の内容を振り返る。
第14回	チームシートを活用して、事例をもとにした校内におけるチーム連携を具体的な事例をロールプレイ。（事例検討） 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。
第15回	学校における危機管理・危機介入の在り方について概説。これまでの授業の整理・まとめ。 【準備学習】危機管理・危機介入の在り方について調べておく（参考図書：窪田由紀他著「学校コミュニティへの緊急支援の手引き」金剛出版）。これまでの授業での学びを整理しておく。本授業の内容を振り返る。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補）

教育相談にあたる教員や学校に対して、専門性をもって適切に指導助言したり、関係諸機関や地域と連携した相談体制を組織したり、校内の支援体制の活用も含め学校における教育相談の進め方や関係諸機関との連携の在り方について整理することができる。

（現職教員）

教育相談技能を高めるとともに、校内支援体制の活用や保護者・地域・関係機関との連携を視野に入れた教育相談の在り方について考察し理解を深めことができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教育相談の基礎的な内容や方法、校内支援体制の活用や関係諸機関との連携などについて理解と習得を深め、現場で主体的に実践することができる。

■評価方法

- (1)授業の中での・演習・事例検討・ディスカッションなどへの参画状況。
- (2)学校カウンセリングに関する諸問題についてのレポートの充実度。

■使用教材

随時、資料をプリントして配布。その他、随時、授業の中で紹介します。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 特別支援教育の現状と課題

■教員名 長島 明純 ・ 藤原 義博

■授業概要

- ・本授業科目では、『きみは・・・』との受講者自身への問いかけにより、特別支援教育の現状と課題に迫る。それによって、自らの課題意識や現実の課題に添いながら障害観を育み、学校現場での特別支援教育の実践力を身につける。
- ・基本的な特別支援教育に関する知識を基に、課題解決の視点から、教育学や心理学等の知見を学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	『きみは、特別支援教育から何を学ぶか？』オリエンテーション ・教員からの本授業科目の目的と内容について提示し、受講者より「特別支援教育」に関する関心について表明。(発表担当決定) ・受講者の関心や課題意識について意見交換し、整理・共有。(グループ討議・発表) 【準備学習】特別支援教育に関する関心について整理しておく。
第2回	『きみの知っている気にかかる子は？』 ・自らの経験等を通して、通常学級に在籍する障害児、特別支援学級や特別支援学校等に在籍するさまざまな障害児、書籍や各種メディア等に登場する障害児(者)等について発表。 ・課題とその解決について意見交換し、考察・整理。(グループ討議) 【準備学習】これまで出会った気にかかる子について振り返り、課題について整理しておく。
第3回	『きみは、特殊教育から特別支援教育の流れを理解しているか？』 ・世界的障害観の動向から、我が国の特殊教育から特別支援教育への教育制度の流れを捉え、現在の「特別支援教育とは何か？」と条約・法規、基礎知識を確認・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】特別支援教育への流れの概要を学んでおく。
第4回	『きみは、特別支援学校・特別支援学級を知っているか？』 ・特別支援教育の理念・目的から、学習指導要領を基に、特別支援学校・特別支援学級の教育目的、教育課程、指導内容を確認・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】特別支援教育に関する学習指導要領について学んでおく。
第5回	『きみは、特別支援教育コーディネーターができるか？』 ・特別支援教育コーディネーター・学級担任等の役割(個別指導計画作成、関係機関との連携等)の考察・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】特別支援教育コーディネーターの役割について学んでおく。
第6回	『きみは、特別支援教育の現状と課題を知っているか？』 ・これまでの本授業での学びを基に、現職教員より経験に基づく現場の話を聞き、自らの考えを整理・深化。(グループ討議) 【準備学習】第1回から5回までの本授業での学びを整理しておく。
第7回	『きみは、障害のある児童生徒の行動・教育支援を正しく理解できているか？』 ・応用行動分析学を基盤に、障害のある子どもの行動上の問題の理解と包括的な教育的支援、授業づくりの在り方の要点を学ぶ。 【準備学習】応用行動分析学の概要を学んでおく。

第8回	『きみは、障害のある児童生徒の行動を正しく理解できているか？』 ・発達障害のある児童生徒事例について、“困った”行動の機能分析とそれを基にした教育的支援などを考察・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】発達障害児の行動問題への支援事例を学んでおく。
第9回	『きみは、LD や ADHD の児童を指導できるか？』 ・LD や ADHD の児童事例について、個のニーズに応じた課題解決のための適切な指導・環境整備等、本人・保護者への基本的な対応について考察・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】LD や ADHD の児童について学んでおく。
第10回	『きみは、自閉症スペクトラムの児童の指導ができるか？』 ・自閉症スペクトラムの児童事例について、個のニーズに応じた課題解決のための適切な指導・環境整備等、本人・保護者への基本的な対応について考察・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】自閉症スペクトラムの児童について学んでおく。
第11回	『きみは、発達障害児への各発達段階での援助ができるか？』 ・乳幼児期の発達障害と援助を中心に、学童期・青年期以降の発達障害への援助についても考察・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】発達障害児の発達段階に応じた援助を学んでおく。
第12回	『きみは、発達障害児への授業がつくれるか？ 1』 ・発達障害児への「分かって動ける授業づくり」(支援環境、支援ツール等)を検討・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】「分かって動ける授業づくり」について学んでおく
第13回	『きみは、発達障害児への授業がつくれるか？ 2』 ・授業における発達障害のある児童生徒への個別的・集団的支援の工夫を検討・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】発達障害児への個別的・集団的支援について学んでおく。
第14回	『きみは、発達障害児への授業がつくれるか？ 3』 ・発達障害児への学習プロセス(単元学習、授業展開等)における工夫を検討・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】発達障害児への学習プロセスについて学んでおく。
第15回	『きみは、これまでの学びを学校現場でどのように活かすのか？』 ・これまでの講義内容を整理・考察し、今後の学校教育現場で果たすべき自らの役割の在り方を整理・考察。 【準備学習】本授業での学びを整理しておく。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

- ・特別支援教育に関する今日的課題について深く理解考察することができる。
- ・発達障害児等への対応、校内支援体制づくりや関係諸機関との連携等について、専門性をもって適切に指導・助言できる。

(現職教員)

特別支援教育に関する今日的課題について理解考察することができる。

・特別支援教育コーディネーターとして、発達障害児等への対応、校内支援体制の活用、関係諸機関との連携等ができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・特別支援教育に関する今日的課題について理解考察することができる。
- ・発達障害等の適切な対応ができる。授業や生徒指導で活用することができる。

■評価方法

- (1) 特別支援教育に関する諸問題についての研究の報告
- (2) 授業の中での質問・協議への参画状況。
- (3) 授業の内容を踏まえたレポートの充実度。

■使用教材

- ・「教師のための気になる・困った行動から読み解く子ども支援ガイド」
(藤原・平澤 編著), 学苑社, 2011
- ・「特別支援教育における授業づくりのコツーこれならみんな分かって動ける」
(藤原 監修・著), 学苑社, 2012
- ・「知的障害教育総論」(太田・藤原編著), 放送大学教育振興会, 2015

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

子どもの人権を保障する学校文化の形成

■教員名

三津村 正和

■授業概要

本科目の到達目標は、次の通りである。①いじめに関する先行研究に精通し、各研究者のいじめ観を比較する、②過去のいじめ事例を考察し、いじめの構造を分析する、③「いじめ防止プログラム」を設計・開発する。これらを通して、「いじめが起こったらどうするか」という従来の対処療法的なアプローチから脱却し、いじめは基本的人権への重大な侵害行為にあたるとの認識のもと、「いじめを起こさない」主体的な学校文化を創出するための理論・実践を体系的に学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション：いじめ研究への導入
第2回	いじめの定義、いじめ調査研究の歴史 【準備学習】配布資料を読む。
第3回	「いじめ防止対策推進法」といじめ防止基本方針 【準備学習】「いじめ防止対策推進法」及び配布資料を読む。
第4回	いじめにどう立ち向かうか(1)：人間教育といじめ 【準備学習】共通教材①の指定されたページを読み、討論に備える。
第5回	いじめ先行研究の考察(1)：森田洋司のいじめ観 【準備学習】共通教材②の指定されたページを読み、討論に備える。
第6回	いじめ先行研究の考察(2)：内藤朝雄のいじめ観 【準備学習】共通教材③の指定されたページを読み、討論に備える。
第7回	いじめ先行研究の考察(3)：尾木直樹のいじめ観 【準備学習】共通教材④の指定されたページを読み、討論に備える。
第8回	いじめ先行研究の考察(4)：いじめ言説の脱構築 【準備学習】共通教材⑤の指定されたページを読み、討論に備える。
第9回	いじめの構造(1)：被害者と傍観者のエンパワーメント 【準備学習】共通教材⑥の指定されたページを読み、討論に備える。
第10回	いじめの構造(2)：加害者と聴衆の心理 【準備学習】共通教材⑥の指定されたページを読み、討論に備える。
第11回	いじめにどう立ち向かうのか(2)：いじめ予防の視点 【準備学習】選択教材の指定されたページを読み、討論に備える。
第12回	「いじめ予防プログラム」国内・国外例 【準備学習】選択教材の指定されたページを読み、討論に備える。
第13回	いじめ予防プログラムの設計・開発① 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第14回	いじめ予防プログラムの設計・開発② 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第15回	プレゼンテーション 【準備学習】プレゼンテーションに備える。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

いじめ根絶への主体的な学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。

(現職教員)

いじめ根絶への主体的な学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、学級経営、授業、特別活動等の改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

いじめ根絶への主体的な学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、学級経営、授業、特別活動などの改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

毎回の授業への参加態度、プレゼンテーション、課題レポートにより、総合的に評価する。

※シラバスの内容に変更が生じる際は、事前に通知し了承を得る。

■使用教材

【共通教材】①中嶋博行『君を守りたい:いじめゼロを実現した公立中学校の秘密』(2006年、朝日新聞社、1,000円)、②森田洋司『いじめとは何かー教室の問題、社会の問題』(2010年、中央公論新社、740円)、③内藤朝雄『いじめの構造:なぜ人が怪物になるのか』(2009年、講談社、800円)、④尾木直樹『いじめ問題をどう克服するか』(2013年、岩波書店、720円)、⑤森口朗『いじめの構造』(2007年、新潮社、680円)、⑥山脇由貴子『教室の悪魔:見えない「いじめ」を解決するために』(2006年、ポプラ社、880円)、※他、適宜プリントを配布する。

【選択教材(1冊を選択)】●ダン・オルヴェウス他『オルヴェウス・いじめ防止プログラム:学校と教師の道しるべ』(2013年、現代人文社、2,500円)、●武田さちこ『子どもと学ぶいじめ・暴力克服プログラム:想像力・共感力・コミュニケーション力を育てるワーク』(2009年、合同出版、1,700円)、●栗原慎二編『いじめ防止6時間プログラム:いじめ加害者を出さない指導』(2013年、ほんの森出版、2,000円)、●砂川真澄編『いじめの連鎖を断つーあなたでもできる「いじめ防止プログラム」』(2008年、富山房インターナショナル、1,600円)、●キャロル・グレイ『発達障害といじめ:“いじめに立ち向かう”10の解決策』(2008年、クリエイツかもがわ、2,800円)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教育行政・学校経営の現状と課題

■教員名 大崎 素史 ・ 近藤 茂代

■授業概要

教育行政・学校経営についての実情を学び、実務としてそれを活かす能力の育成の基礎を修得できるようにするため、基礎的な制度・理論の状況を提示する。

第2回～第9回は、基礎的な制度・理論の学修、学校現場の実情の学修(プレゼン 45分程度。小グループ別討議などを含む)を行う。判例紹介をできるだけ採り入れる。

第10回～第14回は、文部科学省等の行政職員、校長の講義による学修を行う。

なお、第2回～第14回の毎回授業時の最後に「振り返り・要望」記入の時間を設ける(この内容について、次の授業の冒頭にコメントする)。

■授業計画・内容

回 数	内 容
第1回	①ガイダンス(授業計画について／自己紹介) ②「自分の目標」の明確化(各自が書く)。③第2回～第9回のプレゼン担当者を決定する。一人ではなく複数人可。 【準備学習】本授業の履修によってどのように自分を向上したいのか、予め考えをまとめておくこと。／どのプレゼン担当を行うか、予め考えておくこと。できるだけ最低1回は担当すること。なお、リーダーコースの方のプレゼンは、第7回、第8回、第9回とする。 大崎 近藤
第2回	個人情報の保護の法制度と実際について 【準備学習】個人情報問題になる事例を予め考え、また少しでも調べておくのが望ましい。守秘義務との関係も調べておくこと。個人情報保護法が基本。 ▶プレゼン担当者(45分程度) ⇒ 大崎 近藤
第3回	著作権について 【準備学習】著作権問題になる事例を予め考え、また少しでも調べておくのが望ましい。文化庁のホームページも調べておくこと。著作権法が中心になります。 ▶プレゼン担当者(45分程度) ⇒ 大崎 近藤
第4回	いじめ問題の実状と課題について 【準備学習】文部科学省の通知、いじめ克服の実例体験を入手できるとよい。 ▶プレゼン担当者(45分程度) ⇒ 大崎 近藤
第5回	懲戒と体罰について 【準備学習】学校教育法第11条、同法施行規則第26条、文部科学省通知を調べておくこと。 ▶プレゼン担当者(45分程度) ⇒ 大崎 近藤
第6回	安全教育と安全管理の法制度・実際・課題について NHK シンサイミライ学校の紹介を行う(ビデオ又はDVD)(30分) 【準備学習】学校保健安全法を調べておくこと。 ▶プレゼン担当者(45分程度) ⇒ 大崎 近藤
第7回	教育委員会の機構・教育目標・教育方針等について 【準備学習】教育委員会制度について概略把握しておくこと。 ▶プレゼン担当者＝リーダーコース(45分程度) ⇒ 大崎 近藤
第8回	学校教育目標・学校経営方針・学校運営組織等について 【準備学習】教育基本法第1条・第2条、学校教育法の各学校の目的・目標を予め調べてお

	くこと。 ▶プレゼン担当者＝リーダーコース(45分程度) ⇒ 大崎 近藤
第9回	学校管理規則(運営規則)の規定と運用実際について 【準備学習】「教育委員会規則」の法的規定(地方教育行政の組織及び運営に関する法律)を予め概略調べておくこと。 ▶プレゼン担当者＝リーダーコース(45分) ⇒ 大崎 近藤
第10回	教育行政・学校経営についての文部科学省の施策と実状について 【準備学習】文部科学省のホームページを予め概観しておくこと。 ▶文部科学省職員による講義／感想文を1週間以内に提出すること。
第11回	教育行政・学校経営についての東京都教育委員会の施策と実状について 【準備学習】各人の出身地の道府県教育委員会のホームページで、教育方針などを概観しておくのが望ましい。東京都と比較するために。 ▶東京都指導主事による講義／感想文を1週間以内に提出すること。
第12回	教育行政・学校経営についての八王子市教育委員会の施策と実状について 【準備学習】各人の出身地の市町村教育委員会のホームページで、教育方針などを概観しておくのが望ましい。八王子市と比較するために。 ▶八王子市指導主事による講義／感想文を1週間以内に提出すること。
第13回	中学校の学校経営の実情と課題について 【準備学習】第4回の授業内容を振り返っておくこと。 ▶中学校校長又は元校長の講義／感想文を1週間以内に提出すること。
第14回	小学校の学校経営の実情と課題について ⑩授業の終わりに、第15回総括のための宿題(自分が考える教育行政・学校経営の改善のあり方について、1枚ペイパー程度の記述)をす。 【準備学習】第4回の授業内容を振り返っておくこと。 ▶小学校校長又は元校長の講義／感想文を1週間以内に提出すること。
第15回	教育行政・学校経営の現状と課題と対応についての総括 第14回の終わりに出された宿題内容を各グループに分かれて発表し合う(グループ別討議形式・45分程度)。その後、各グループ代表による討議内容の紹介と全体質疑応答を行う(1グループにつき10分まで)。 大崎 近藤 【準備学習】宿題の1枚ペイパーの記述に取り組むこと。当然、第1回からの振り返りになる。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職)

校長・副校長・教頭の学校管理・経営者として、教育法規の専門的教養と、実務遂行能力の基礎を修得する。

(現職教員)

スクールリーダーとして必要な職務を遂行するため、教育法規の専門的教養と、実務遂行能力の基礎を修得する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学校管理・経営について、教育法規の専門的教養と教育学的理論と、実務遂行能力を修得する。

■評価方法

プレゼン担当発表の努力度、毎時の授業への貢献度、毎時の振り返り、感想文(5回分)の内容、出席率を総合的に評価する。

■使用教材

指定のものはなし。その都度案内する。

ただし、次のものは、予め参考書として掲げる。

- ① 教育法規集(どの出版社のものでもよいが、最近年度版にすること)
- ② 窪田眞二・小川友次著『教育法規便覧』(最近年度版・学陽書房)
- ③ 大崎素史著『教育行財政学』(創価大学通信教育部、平成25年4月1日発行)
- ④ 大崎素史編著『四権分立の研究—教育権の独立—』(第三文明社、平成26年3月16日発行)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

<注意> 感想文提出は、授業出席者である(公欠者や欠席者は、提出しなくてよい)。

文字数は、1000字前後。大崎と近藤の下記アドレス宛に同時にメール送信してください。

大崎素史 mosaki@soka.ac.jp

近藤茂代 kshigeyo@soka.ac.jp

■科目名 学級のデザインと子ども同士の関係づくり

■教員名 西 穰司・田村 修一

■授業概要

前半は、主に教育学の視点から学級経営に関する原理、思想と方法について学ぶ。後半は、心理学的視点から日本における学級経営の現代的課題を理解する。そして、学級担任に必要な学級集団のアセスメント技法(Q-U)と、学級経営のコンサルテーション技法(K-13法)について演習を通して学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション <本授業の概要と進め方、評価方法についての説明> 【準備学習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	学級経営の原理(1) 学級経営の意義と領域 (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	学級経営の原理(2) 学校段階別異同と学級担任の役割 (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第4回	学級経営の思想と方法(1) 管理主義的学級経営論 (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第5回	学級経営の思想と方法(2) 準拠集団志向の学級経営論 (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第6回	学級経営の思想と方法(3) 自己組織性論的学級経営論 (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第7回	日本の学級経営の現代的課題(1) ★(学生によるプレゼン) 【準備学習】 プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第8回	日本の学級経営の現代的課題(2) ★(学生によるプレゼン) 【準備学習】 プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第9回	学級集団の育成(1) 教師のクラス・マネジメント (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第10回	学級集団の育成(2) 学級集団のアセスメント:Q-Uの活用 (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第11回	学級集団の育成(3) 学級経営コンサルテーション(K-13法)① (演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第12回	学級集団の育成(4) 学級経営コンサルテーション(K-13法)② (演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第13回	学級集団の育成(5) 学級経営コンサルテーション(K-13法)③ (演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第14回	学級集団の育成(6) 学級経営コンサルテーション(K-13法)④ (演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第15回	新しい学級経営の試み:学級力向上プロジェクト ★(学生によるプレゼン) 【準備学習】 プレゼンの準備。全15回の授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

学級経営に関する基本的な理論と技法を身につけ、学校内の全教員に対して、効果的な学級経営のあり方や具体的な方法について指導・助言ができる。

(現職教員)

学級経営に関する基本的な理論と技法を身につけ、効果的な学級経営のあり方や具体的な方法について、同僚教員に適切な助言をすることができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

安定した学級経営ができるための基本的な理論と技法を身につける。

■評価方法

平常点(授業の参加態度)、プレゼンテーション、課題レポートにより、総合的に評価する。

■使用教材

【西 担当】

学術論文 『学校経営における自己組織性論の意義と展望ーある小学校の教育課程例を踏まえてー』 西 穰司 著 教育経営研究, 3, 102-109. 1997 年

『自己組織化する学級』 蘭 千壽・高橋知己 著 誠信書房 2008 年

【学生によるプレゼンの基本資料】

『日本の学級集団と学級経営』 河村茂雄 著 図書文化 2010 年

『学級力向上プロジェクト』 田中博之 編著 金子書房 2014 年

【田村 担当】

『教師のためのクラス・マネジメント入門』 岡本 薫 著 日本標準 2008 年

『Q-Uによる学級経営スーパーバイズ・ガイド』 河村茂雄 著 図書文化 2004 年

『集団の発達を促す学級経営』 河村茂雄 他 著 図書文化 2012 年

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	教員研修実務研究
■教員名	若井 幸子 ・ 近藤 茂代
■授業概要	教員研修の歴史・目的・内容・方法・運営・評価に関する理論と技法を講義と演習を通して学び、各種教育委員会（東京都・八王子市）が主催する教員研修会の実務経験を通し教員研修に関する学びを深める。リーダーコースは所属校での経験を生かす研修とする。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション 本授業の概要と進め方 評価方法についての説明 教員研修の歴史
第2回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討① （講義・討議） 【準備学習】所属校の校内研修・資料をまとめる。 振り返りをまとめる
第3回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討② （講義・討議・提案） 【準備学習】所属校の校内研修・資料をまとめる。 振り返りをまとめる
第4回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討③ （講義・討議・提案） 【準備学習】所属校の校内研修・資料をまとめる。 振り返りをまとめる
第5回	八王子市教育委員会における研修事業の概要 （ゲスト講師による講義）
第6回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討④ （講義・討議・提案） 【準備学習】所属稿の校内研修・資料をまとめる。 振り返りをまとめる
第7回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討⑤ （講義・討議・提案） 【準備学習】所属校の校内研修・資料をまとめる。 振り返りをまとめる
第8回	東京都教職員研修センターにおける研修事業の概要 （ゲスト講師による講義）
第9回	八王子市教育センターにおいて実務研修① 【準備学習】研修記録を書く
第10回	八王子市教育センターにおける実務研修の振り返りと課題検討
第11回	八王子教育センターにおける実務研修② 【準備学習】研修記録を書く
第12回	東京都教職員研修センターにおける実務研修① 研修記録作成 校内研修(案)の作成
第13回	東京都教職員研修センターにおける実務研修② 研修記録作成 校内研修(案)の作成
第14回	東京都教職員研修センターにおける実務研修③ 研修記録作成 校内研修(案)の作成
第15回	実務研修感想 レポート作成 校内研修(案)の発表 プレゼン・討議 等

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

校長・副校長・指導主事として総合的な立場から教員研修を計画し、運営する能力を身につける。

(現職教員)

スクールリーダーとして、同僚教師達の実践的指導力を高められる校内研修を計画し、運営する能力を身につける。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教員研修の目的・内容・方法・運営・評価について理解し、校内研修を計画・運営するための基礎的技能を身につける。

■評価方法

毎回の授業の参加態度、リアクションペーパー、校内研修案や討議、プレゼン、学期末レポートなどを通して総合的に評価する。

■使用教材

『教師改革のゆくえ』 東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター編 創風社 2006 年

『研修の効果的な運営のための知識・技術(3訂版)』 独立行政法人教員研修センター編 2001 年

その他 必要に応じて提供する

教科書は使用しない

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割

■教員名 坂本 辰朗 ・ 鈴木 詞雄 ・ 三津村 正和

■授業概要

現代の学校と教員の役割が、生涯学習・国際化・情報化社会の進展に伴い、どのように変容しつつあるかについて認識すること、さらにその変容に適切に対応するためには、学校と教員はどのような課題を解決していくべきかを理解する。本コースには討議・発表など種々の授業形態が組み込まれているが、その詳細については第1回目の授業で説明する。なお、本年度は、国際化・情報化社会における教育課題を中心に実施する予定である。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション 社会変化の中における教育課題
第2回	学習および教育の問題としての生涯学習・国際化・情報化社会 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第3回	生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割① 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第4回	生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割② 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第5回	生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割③ 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。
第6回	生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割④ 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第7回	生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割⑤ 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第8回	生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割⑥ 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第9回	生涯学習・国際化・情報化社会と教育課題① 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第10回	生涯学習・国際化・情報化社会と教育課題② 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第11回	生涯学習・国際化・情報化社会と教育課題③ 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第12回	生涯学習・国際化・情報化社会と教育課題④ 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第13回	生涯学習・国際化・情報化社会と教育課題⑤ 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第14回	生涯学習・国際化・情報化社会と教育課題⑥ 【準備学習】課題文献を読み、討議・発表に備える。
第15回	社会変化と教育課題（総括的討議） 【準備学習】総括的討議に備える。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

生涯学習・国際化・情報化社会状況の中で、学校と教員の役割がどのように変貌しつつあるか、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。

(現職教員)

生涯学習・国際化・情報化社会状況の中で、学校と教員の役割がどのように変貌しつつあるかを理解し、学級経営、授業、特別活動などの改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

生涯学習・国際化・情報化社会状況の中で、学校と教員の役割がどのように変貌しつつあるかを理解し、学級経営、授業、特別活動などの改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

現代の学校と教員の役割が、生涯学習・国際化・情報化社会状況の中で、どのように変貌しつつあるか、授業で取り上げた基礎概念を使用しつつ説明できるか、最終レポート及び授業における報告内容とコース総括における討論の内容を総合して評価する。

■使用教材

授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **子ども理解・保護者理解**

■教員名 **田村 修一**

■授業概要

日々の教育実践の中で、教師が自らの「人間観」「子ども観」「教師観」について考えを深めていくことは大変重要なことである。また、教師には子どもや保護者の援助ニーズを的確につかみ、効果的な援助できるための技術(スキル)も必要である。このような子どもや保護者に対する「アセスメント能力」や「指導・援助サービスのスキル」の向上に役立つ学問として「学校心理学」が注目されている。そこで本科目は、「学校心理学」の理論と技法を基盤として、子どもや保護者に対する「アセスメント能力」を高め、賢いアセスメントに基づいた「心理・教育的援助サービス」を学校で十分に展開できる能力を培う授業としたい。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション <本授業の概要と進め方、評価方法についての説明> 生涯発達の観点から、現代の子ども達の育ちについて考える（講義・討議） 【準備学習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	人間理解のための心理学(1) 心理学研究の3つのアプローチ ①「精神分析理論」②「行動主義理論」③「人間性心理学」（講義・討議） 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	人間理解のための心理学(2) 学校心理学概論① 学校心理学の定義と必要性、世界の学校心理学の動向 （講義・討議） 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第4回	人間理解のための心理学(3) 学校心理学概論② 心理教育的援助サービスの基礎概念、三段階の援助サービス(講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第5回	子どもの環境としての教師自身のアセスメント(1) 「リフレーミング」「ABCDE理論」の活用 (演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第6回	子どもの環境としての教師自身のアセスメント(2) オランダの教師教育から学ぶ: 「子ども観」「教育観」の省察 (演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第7回	子どもの環境としての教師自身のアセスメント(3) 教師のメンタルヘルス・チェック (演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第8回	子ども理解(1) 学習面のアセスメント① 知能検査(WISC)の活用 (講義) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第9回	子ども理解(2) 学習面のアセスメント② 知能検査(DAM)の活用 (講義・演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第10回	子ども理解(3) 心理・社会面のアセスメント① 描画法(バウムテスト)の活用 (演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。

第11回	子ども理解(4) 心理・社会面のアセスメント② 描画法(星と波・ワルテッグ)の活用 (演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第12回	保護者理解(1) エゴグラム(交流分析): 自己の養育態度の省察 (演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第13回	保護者理解(2) 「苦情を申し立てる保護者」の理解と対応(ロールプレイ) (演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第14回	保護者理解(3) 障害をもつ子どもの保護者の理解とかかわり (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第15回	まとめ: 多角的視点からのアセスメントと「チーム援助」 「チーム援助会議」の体験(ロールプレイ) (演習) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

子ども理解・保護者理解のための学校心理学の基本的な理論と技法の習得。ならびに、様々な保護者の考えや思い、学校への要望に対する柔軟な対処能力や、保護者との適切な接し方に関する技能を習得し、他の教職員に適切に指導・助言ができる。

(現職教員)

子ども理解・保護者理解のための学校心理学の基本的な理論と技法の習得。ならびに、様々な保護者の考えや思い、学校への要望に対する柔軟な対処能力や、保護者との適切な接し方に関する技能を習得する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

子ども・保護者を正確に理解できる能力、感受性を培い、学校心理学の基本的な理論と技法の習得。ならびに、学校や保護者の立場に柔軟に対応できるスキルを習得する。

■評価方法

平常点(出席・授業の参加態度)、および「課題レポート」により、総合的に評価する。

■使用教材

『よくわかる学校心理学』 水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 編著

ミネルヴァ書房 2013 年

『教師教育学: 理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』 フレット・コルトハーヘン

(武田信子・今泉友里 訳) 2010 年

『生涯発達の中のカウンセリングⅡ: 子どもと学校を援助するカウンセリング』 石隈利紀・

藤生英行・田中輝美 編 サイエンス社 2013 年

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

人間的成長に関する理論と実践

■教員名

長島 明純

■授業概要

人間的成長に関する発達心理学や精神分析などの知見、自己理解を深める演習などの学びを通して、児童生徒やその保護者への理解を深めると共に、教員としての自らの生き方・在り方についても検討する。各々の人間観・教育観を深めながら、現在の学校教育の課題を克服するための方途を探る。

■授業計画・内容

回数	内 容
第 1 回	授業のねらいや全授業の流れ、進め方などオリエンテーションする。本授業に関する受講者の関心や課題意識について意見を表明してもらう。人間的な成長に関して検討し、人間的成長に関する視点を豊かにする。 【準備学習】本授業に関する関心や課題意識を整理しておく。人間的な成長とは何か発達との関係も含め考えておく。本授業内容を振り返る。
第 2 回	自己理解と他者理解との関係について検討する。人と人との‘間’に生きている人間の特性や自己理解と他者理解の相互的な関係など概説する。 【準備学習】自己理解と他者理解との関係について考えておく。前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第 3 回	相互なぐり描き法(一人が紙になぐり描きをし、続いてもう一人が、そのなぐり描きの線から連想した絵を描く。この過程を、順序を交替して数回繰り返す。)の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第 4 回	個人の無意識や集団の無意識に関して、個人と組織・社会のシステムとの関係も含めて概説する。その際、精神分析の投影や取り入れ、巻き込みなどの知見なども紹介する。学校における児童生徒や教職員の集団づくりについて検討する。 【準備学習】参考図書などから精神分析の投影の概念など調べておく。前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第 5 回	人間としての基盤を形成している、生物が地球に誕生してからの軌跡に関するビデオを見る。人間に関する行動主義心理学や人間性心理学などの知見を紹介しながら、教育という営みへの視点を豊かにする。人間の基盤にある動物的な要素など、ビデオを視聴しての感想も含め話し合う。 【準備学習】三木成夫の書籍などから人間の生物が地球に誕生してからの軌跡に関して調べておく。本授業内容を振り返る。
第 6 回	発達心理学の知見を参考にしながら、私の成立に関係する一者の世界、二者の世について概説する。外的対象と内在化、内的対象と対象恒常性などの精神分析の知見も紹介し、私の成立に関する視点を豊かにする。世代間伝達など生涯を通じた親子の相互作用についても紹介する。先に学んだ投影や本授業の内在化などの知見を参考にしながら、教師と児童生徒の関係が難しくなる要因について検討する。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第 7 回	基本的信頼関係と愛着、自立と依存の問題を、発達心理学や精神分析の母子相互作用やグッドイナフマザーなどの知見を紹介しながら概説する。分析心理学の元型の概念に関連する母なるもの・父なるものや内なる子どもなどの知見も紹介する。本授業の知見など参考にしながら

	ら家庭環境があまりよくない児童生徒の自立のための支援について検討する。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第8回	私の成立に関係する三者の世界について、情動の共有、情動的コミュニケーションと知的コミュニケーション、共同注視、世界の敷き写しなどの発達心理学の知見を紹介しながら概説する。移行対象や自閉対象などの精神分析の知見も紹介しながら、私の成立に関する視点を豊かにする。本授業の知見など参考にしながら自閉的な児童生徒への支援について検討する。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第9回	コラージュ法(自分で選んだ雑誌や広告などから写真や絵などを切抜き、台紙に貼る)と相互コラージュ法(自分が選んだ雑誌や広告などから、自分がほしいだろうと思う写真や絵などを相手が選ぶ。その選んだくれた切抜きの幾つかを台紙に貼る。)の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。コラージュ法で使う雑誌などを集めておく。本授業内容を振り返る。
第10回	分析心理学のシャドーや個性化などの知見を紹介しながら検討し、人間的成長についての視点を豊かにする。嫌なものの処理に関する、精神分析の防衛や転移、抑圧や乖離などの知見も紹介し、人間的成長に関する理解を深める。本授業の知見など参考にしながら発達に特性があり反抗的な児童生徒への支援について検討する。 【準備学習】自分にとって苦手なものについて整理しておく。本授業内容を振り返る。
第11回	特別講師による「自己成長と気づき」の演習を通して自己省察を行い、教師自身の人間的成長および今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第12回	特別講師による「自己成長と気づき」の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第13回	相互なぐり描き法で描いた絵を用いて物語を作る演習を行う。言葉の力や物語ることの意味について検討する。発達心理学の一次的なことばと二次的なことばについての知見なども紹介する。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第14回	風景構成法(川や山などの風景のアイテムを指示された順番に描いていく)の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第15回	人間の脳の特性について、記憶と忘却を中心に概説する。心的外傷ストレスやフラッシュバックについても紹介する。改めて人間的な成長を促す教育の営みを問い直す。これまでの授業を踏まえ、今後の学校教育でどのような工夫が必要なのか、そのために教員自らの在り様について、どのような配慮が大切なのかなど検討し整理する。 【準備学習】全授業を振り返り、ここでの学びを整理しておく。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

- ・人間的成長に関する諸課題について整理し理解を深めるとともに、教育の場での児童生徒への指導助言について、専門性をもって他の教員に対して適切に指導助言することができる。

- ・人間的成長という視点から教育実践などを深く考察し、現場の対応について他の教員に専門性をもって適切に指導助言できる。

(現職教員)

- ・人間的成長に関する諸課題について整理し理解するとともに、教育の場での児童生徒への指導助言について、他の教員に対して提案することができる。
- ・人間的成長という視点から教育実践などを適切に考察し、現場の対応について他の教員に提案したり助言したりすることができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・人間的成長に関する諸課題について理解するとともに、教育の場での児童生徒への指導助言などに生かすことができる。
- ・人間的成長という視点から教育実践などを考察し、現場の対応に適切に生かすことができる。

■評価方法

- (1)授業の中での質問・協議への参画状況。
- (2)人間的成長に関する諸問題についての講義や協議(ワークショップ)を踏まえたレポートの充実度。

■使用教材

参考図書

小此木啓吾・河合隼雄著『フロイトとユング』(講談社学術文庫)、講談社、886 円。

三木成夫著『生命とリズム』(河出書房新書)、河出書房新社 918 円。

浜田寿美男著『「私」とは何か』(講談社選書メチエ)、講談社、1944 円。

大藪泰他編『人間関係の生涯発達心理学』丸善出版 2592 円。

※ 随時、教員が資料を準備したり、参考書を紹介したりもする。

■授業で使用する言語

(**日** ・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教員の服務等と教育法規

■教員名 大崎 素史

■授業概要

教員(本授業では、国公立の幼・小・中・高・中等教育学校・特別支援学校の教員を対象とする。ただし、校長等の管理職を含む)の服務を中心に、法制度論としての教員のあり方を教育法規の規定、文部科学省の通達・通知等、裁判所の判例などの事例を学習し、課題を見つけ、課題解決のあり方を考察していくことをねらいとする。

毎回の授業は、いわゆるプレゼン担当者によるプレゼン⑥を中心編成する(終わりには科目担当者・大崎のコメントが入る。時間配分は随時対応する)。

⑥60～80分。これには、プレゼンだけでなく、小グループ別討議・発表を含む。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	4/6 ガイダンス ①授業計画について ②履修者の自己紹介→出身地・身分等現立場の紹介、自己の研究への具体的なジャンル・テーマ等の抱負、授業へ期待を簡単に発表する。 大崎 【準備学習】自己紹介について、各自が予め考えておくこと。
第2回	4/13 「教員」の種類・定義・任務についての法制度を確認する。 大崎 【準備学習】学校の種類も含めて、学校教育法、同法施行令、同法施行規則、教育職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法の「教員」に関する規定内容を概観しておくのが望ましい。
第3回	4/20 教育基本法第9条(教員)の規定を中心に、「教員」についての原理的な解釈・意義を学習する。→「全体の奉仕者」(憲法)、「使命」「研究と修養」「待遇の適正」「養成と研修の充実」(教育基本法)について。ただし、これらの内、一つ、二つなどのように選択して調べ、紹介してよい。 院生1人ないしは複数 【準備学習】教育基本法第9条に関する解説などを予め調べておくこと。また、学校現場での事例、体験談を予め入手し、本時で紹介(プレゼン担当以外の方も)していただけるとありがたい。
第4回	4/27 いわゆる教師論について、歴史上の学説・事例などから取り上げ、今日におけるあるべき教師論を考える。 (その1)聖職教師論(自民党など)、労働者教師論(日教組、共産党など)、専門職教師論(牧口論、ILO・ユネスコなど)などについて。 院生1人ないしは複数 【準備学習】プレゼン担当以外の方も、日教組、全教、その他の教職員組合の情報を予め入手し、本時において紹介していただけるとありがたい。日教組の歴史はできるだけ調べておくのが望ましい。
第5回	5/11 いわゆる教師論について、歴史上の学説・事例などから取り上げ、今日におけるあるべき教師論を考える。 (その2)八大教育主張、吉田松陰、福沢諭吉、牧口常三郎、大村はま、武田鉄矢(?), ないしは文部科学省や各教育委員会などの教師像について(いずれかを選択してプレゼンする。なお、これ以外の人物等を調べてのプレゼンでも可)。 院生1人ないしは複数 【準備学習】自己の恩師などの良き思い出や見聞してきたことを予め思い出しておくこと。

第6回	5/18 地方公務員法の服務規定の研究 【その1】法令等及び上司の職務上の命令に従う義務について(法的根拠と事例、理論などについて) 院生 1 人ないしは複数 【準備学習】どのようなケース(事例)があるか、あったかを思い起こして本時に臨むとよい。
第7回	5/25 地方公務員法の服務規定の研究 【その2】職員会議論について(法的根拠と事例、理論などについて) 院生 1 人ないしは複数 【準備学習】どのようなケース(事例)があるか、あったかを思い起こして本時に臨むとよい。
第8回	6/1 地方公務員法の服務規定の研究 【その3】秘密を守る義務について(法的根拠と事例、理論などについて) 院生 1 人ないしは複数 【準備学習】どのようなケース(事例)があるか、あったかを思い起こして本時に臨むとよい。
第9回	6/8 地方公務員法の服務規定の研究 【その4】信用失墜行為の禁止について(法的根拠と事例、理論などについて) 院生 1 人ないしは複数 【準備学習】どのようなケース(事例)があるか、あったかを思い起こして本時に臨むとよい。
第10回	6/15 地方公務員法等の服務規定の研究 【その5】セクハラ、パワハラの実例(法的根拠と事例、理論などについて) 院生 1 人ないしは複数 【準備学習】どのようなケース(事例)があるか、あったかを思い起こして本時に臨むとよい。
第11回	6/22 地方公務員法等の服務規定の研究 【その6】政治的行為・選挙活動の制限について(法的根拠と事例、理論などについて) 院生 1 人ないしは複数 【準備学習】どのようなケース(事例)があるか、あったかを思い起こして本時に臨むとよい。
第12回	6/29 教育基本法等の服務規定の研究(法的根拠と事例、理論などについて) 【その7】宗教教育・宗教的活動と宗教的中立性について。 院生 1 人ないしは複数 【準備学習】どのようなケース(事例)があるか、あったかを思い起こして本時に臨むとよい。
第13回	7/6 教育基本法等の研修規定の研究(法的根拠と事例、理論などについて) 院生 1 人ないしは複数 【準備学習】どのようなケース(事例)があるか、あったかを思い起こして本時に臨むとよい。
第14回	7/13 教育公務員の服務と学校経営・管理一校長又は指導主事等による服務管理の講義—講義担当者→ (未定) 【準備学習】教育委員会や学校の管理職の任務や立場について、簡単な理解・情報、考え・想いを抱いて本時に臨むことが望ましい。
第15回	7/20 総括:法的根拠を基に教員の服務を中心とした望ましい教師像のあり方について、全員で各自の考えを発表し、討論する。なお、発表内容は、予めペーパーにして本時の終わりに提出する。 発表要領等については、事前に案内する(7/6予定)。 【準備学習】発表要領に即し、予め発表内容を作成し、提出できる状態で本時に臨むこと。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教員の服務について、その背景となっている教育法規(法令)と法学・法律学・行政学・教育学等の理論を学習し、以て教員としての実務遂行能力の一層の向上をめざす。

(現職教員)

教員の服務について、その背景となっている教育法規(法令)と法学・法律学・行政学・教育学等の理論を学習し、以て教員としての実務遂行能力の一層の向上をめざす。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教員の服務について、その背景となっている教育法規(法令)と法学・法律学・行政学・教育学等の理論を学習し、以て教員としての服務遂行についての基礎的認識を身に付けることをめざす。

■評価方法

授業の出席率、プレゼンテーションの努力度、授業における意見など授業への貢献度、最終時における提出ペーパーの内容、教育現場に対する実践的理論的貢献度(あくまでも可能性について)を主に基準にして、総合的に評価する。 ㊟試験は、行わない

■使用教材

指定なし。

参考書、資料などは、予め授業の2週間前などに紹介する。なお、次のものは、予め参考書として掲げる。

①教育法規(法令)集: どの出版社のものでもよい。ただし、最近年度版であること。

②窪田眞二・小川友次著『教育法規便覧』(学陽書房、最近年度版)

③大崎素史著『教育行財政学』(創価大学通信教育部、平25年4月初版)

④大崎素史編著『四権分立の研究—教育権の独立—』(第三文明社、平成26年3月初版)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

分野別科目

■科目名
教育実践研究方法Ⅰ
■教員名

田村 修一 / 寺林 民子 (オムニバス形式)

■授業概要

本科目は、教育実践を対象とした研究法の習得を目的とする。具体的には、前半(田村担当)では、とくに量的研究法に焦点をあて、統計学の基礎、調査研究法、実験研究法について、その概要を学ぶ。後半(寺林担当)では、質的研究法に焦点をあて、授業研究の中核となる授業分析の方法について、授業分析のねらい、授業分析の原理、観察法、記録の整理、分析の手順についてその概要を学び、分析の演習を通してより実践的な力量を高める。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション <本授業の概要と進め方、評価方法についての説明> テーマ「教育実践と教師による研究」に関するディスカッション (田村・寺林) 【準備学習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	教育実践研究とは：①「モードⅡ」の研究、②教育学研究と教育実践研究の相違、③「サイエンティスト・プラクティショナーモデル」、④質的研究と量的研究の相違、⑤先行研究の整理の重要性 (田村) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第3回	調査研究法(1) 質問紙調査とインタビュー調査 (田村) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第4回	調査研究法(2) ①質問紙の作成 ②データ収集 ③データ分析(量的・質的) (田村) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第5回	実験研究法 ①実験デザイン ②データ収集と分析 (田村) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第6回	統計学の基礎的理論 ①記述統計 ②仮説検定 ③相関、度数の比較、平均値の比較 (田村) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第7回	統計解析ソフト(SPSS)の演習(1) ①データ入力と加工 ②相関分析 (田村) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第8回	統計解析ソフト(SPSS)の演習(2) ① χ^2 (カイ)二乗検定 ②t検定 (田村) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第9回	授業の研究と授業分析のねらい 授業の研究と科学性 教師自身の自立と授業分析 (寺林) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第10回	授業の研究のすすめ方① 子どもの把握と実践的研究 授業分析の原理 (寺林) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。

第11回	授業の研究のすすめ方② 授業分析の計画:事前研究から事後研究、解釈 (寺林) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第12回	授業の研究のすすめ方③ 授業の観察:観察法と演習 (寺林) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第13回	授業の研究のすすめ方④ 記録の整理: 記録の用件、個別の記録と総合の記録、演習 (寺林) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第14回	分析の演習① 分析の手順:分節、授業の構造、分節の選択(演習) (寺林) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第15回	分析の演習② (寺林) 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教育実践を対象とした量的研究法(調査研究法・実験研究法)の習得、および授業分析に関する理論と技能を習得するとともに、他の教職員にも適切に指導・助言ができる。

(現職教員)

教育実践を対象とした量的研究法(調査研究法・実験研究法)の習得、および授業分析に関する理論と技能を習得する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教育実践を対象とした量的研究法(調査研究法・実験研究法)の習得、および授業分析に関する理論と技能を習得する。

■評価方法

毎回の授業への参加態度と課題レポートにより、総合的に評価する。

■使用教材

【田村 担当】

『心理学マニュアル質問紙法』鎌原雅彦他 著 北大路書房 1998 年

『SPSSによる統計処理の手順(第7版)』石村貞夫・石村光資郎 著 東京図書 2013 年

【寺林 担当】

『授業分析の方法』重松鷹泰 明治図書 1976 年

『授業記録による授業改革のプロセス:東海市小・中学校教師の挑戦』名古屋大学・東海市教育委員会教育実践問題支援プロジェクト編 黎明書房 2004 年

『授業の研究—子どもの思考を育てるために』富山市立堀川小学校 重松鷹泰 明治図書 1959 年

『子どもの学びと自己形成』富山市立堀川小学校 明治図書 2006 年

『授業の研究 教師の学習』秋田喜代美 キャサリン・ルイス 明石書房 2008 年

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教育実践研究方法Ⅱ（Aグループ）

■教員名

桐山 信一 ・ 田村 修一

■授業概要

本科目は、「教育実践研究方法Ⅰ」（基礎コースの位置づけ）を履修し、既に量的分析法の基礎を習得している学生を対象に授業を行う。つまり、「教育実践研究方法Ⅱ」は、量的分析法の発展コースとして授業を行う。授業では、より複雑な量的分析法について、統計解析ソフトSPSSの実習を通して学ぶ。具体的には、前半で「分散分析」「重回帰分析」「因子分析」について学ぶ。後半は、各自の研究課題に関し、実際に収集したデータを用いて、統計分析を行う（個別指導）。尚、学生の希望があれば、「共分散構造分析」（AMOS使用）も取り扱う。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション ＜本授業の概要と進め方、評価方法についての説明＞ 各自の「教職課題研究論文」のテーマ・研究構想の確認 （講義・討議） 【準備学習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	「研究テーマ・研究計画・データ収集と分析の進捗状況」の報告、およびデータ分析上の疑問点や課題について確認する。 （プレゼン） 【準備学習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第3回	「相関・ χ^2 （カイ）二乗検定・t検定」の復習、「ノンパラメトリック検定」 （講義：田村） 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第4回	「分散分析」① 「分散分析」の理論的理解 （講義：桐山） 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第5回	「分散分析」② 統計解析ソフト（SPSS）の実習 （演習） 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第6回	「重回帰分析」① 「重回帰分析」の理論的理解 （講義：桐山） 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第7回	「重回帰分析」② 統計解析ソフト（SPSS）の実習 （演習） 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第8回	「因子分析」① 「因子分析」の理論的理解 （講義：田村） 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第9回	「因子分析」② 統計解析ソフト（SPSS）の実習 （演習） 【準備学習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第10回	各自の研究課題に関するデータ処理（個別指導）① 【準備学習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。

第11回	各自の研究課題に関するデータ処理(個別指導)② 【準備学習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。
第12回	各自の研究課題に関するデータ処理(個別指導)③ 【準備学習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。
第13回	各自の研究課題に関するデータ処理(個別指導)④ 【準備学習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。
第14回	各自の研究課題に関するデータ処理(個別指導)⑤ 【準備学習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。
第15回	各自の研究課題に関するデータ処理(個別指導)⑥ 【準備学習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教育実践を対象とした量的研究法(調査・実験)の理論と分析法を習得するとともに、他の教職員にも適切に指導・助言ができる。

(現職教員)

教育実践を対象とした量的研究法(調査・実験)の理論と分析法を習得する。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教育実践を対象とした量的研究法(調査・実験)の理論と分析法を習得する。

■評価方法

毎回の授業への参加態度と課題レポートにより、総合的に評価する。

■使用教材

『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 著 ミネルヴァ書房 2004 年

『心理尺度のつくり方』 村上宣寛 著 北大路書房 2006 年

『心理学マニュアル質問紙法』 鎌原雅彦他 著 北大路書房 1998 年

『超初心者向けSPSS統計解析マニュアル』 米川和雄他 著 北大路書房 2010 年

『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 第2版』 小塩真司 著 東京図書 2011 年

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教育実践研究方法Ⅱ(Bグループ)

■教員名 寺林 民子・三津村 正和

■授業概要

『教育実践研究方法Ⅱ』では、「質的研究」と「授業研究」の2つの研究法について学ぶ。まず「質的研究」では、質的研究デザイン、参与観察、質的インタビュー調査、質的データ解析のそれぞれの方法について、体験的に学ぶ。次に「授業研究」では、授業研究の目的と方法、中核となる授業分析について演習を通して学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション 「質的研究」、「授業研究」とは何か？
第2回	質的研究①：質的研究のデザイン 【準備学習】使用教材を読む。
第3回	質的研究②：質的研究例 【準備学習】使用教材と配布資料を読む。
第4回	質的研究③：エスノグラフィー 【準備学習】使用教材を読む。
第5回	質的研究④：参与観察・質的インタビュー調査 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第6回	質的研究⑤：質的データ解析（コーディング） 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第7回	質的研究⑥：質的データ解析（グラウンデッドセオリー） 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第8回	質的研究⑦：質的研究の結果提示 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第9回	質的研究⑧：プレゼンテーション 【準備学習】プレゼンテーションに備える。
第10回	授業研究①：授業研究の独自な方法論探究とその意味目的 【準備学習】使用教材を読み、課題を達成する。
第11回	授業研究②：授業研究と教師の共同的学び 【準備学習】使用教材を読み、課題を達成する。
第12回	授業研究③：目的と方法、資料収集 【準備学習】使用教材を読み、課題を達成する。
第13回	授業研究④：授業分析（演習） 【準備学習】使用教材を読み、課題を達成する。
第14回	授業研究⑤：授業分析（演習） 【準備学習】使用教材を読み、課題を達成する。
第15回	授業研究⑥：授業分析（演習） 【準備学習】使用教材を読み、課題を達成する。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

授業研究及び質的調査研究法の理論・技能を習得し、他の教職員にも適切に指導・助言ができる。

(現職教員)

授業研究及び質的調査研究法の理論・技能を習得する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

授業研究及び質的調査研究法の理論・技能を習得する。

■評価方法

毎回の授業への参加態度と課題レポートにより、総合的に評価する。

■使用教材

- ①佐藤郁哉『質的データ分析法：原理・方法・実践』（2008年，新曜社，2,100円）
- ②小田博志『エスノグラフィー入門：＜現場＞を質的研究する』（2010年，春秋社，3,000円）
- ③重松鷹泰『授業分析の方法』（1961年，明治図書出版）
- ④秋田喜代美・キャサリンレイス『授業の研究 教師の学習』（2008年，明石書店）
- ⑤日本教育方法学会『日本の授業研究』（2009年，学文社）

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	学習指導の方法研究Ⅰ(A、B、Cグループ)
■教員名	(A)長崎 伸仁・三津村 正和 (B)石丸 憲一・若井 幸子 (C)鈴木 詞雄・近藤 茂代
■授業概要	

教育実習前に、教師として身に付けるべき基本、学習指導の進め方の基本・授業研究の基本、そして、学級経営の基本等を学ぶとともに、教職大学院での自身の研究テーマを明確にし、後期からの「実習研究」に備える。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション(教師として身に付けるべき基本について) 教職大学院生に求められる能力(「評価表」を基に) 【準備学習】「教師として身に付けるべき能力表A」を参考にして、教員としての資質について考える。授業内容を振り返る。
第2回	教師として身に付けるべき能力についての討議① 【準備学習】「教師として身に付けるべき能力表B」を参考にして、教員としての資質について考える。授業内容を振り返る。
第3回	教師として身に付けるべき能力についての討議② 【準備学習】「教師として身に付けるべき能力表C」を参考にして、教員としての資質について考える。授業内容を振り返る。
第4回	教師として身に付けるべき能力についての討議③ 【準備学習】「教師として身に付けるべき能力表D」を参考にして、教員としての資質について考える。授業内容を振り返る。
第5回	教師として身に付けるべき能力についての討議④ 【準備学習】「教師として身に付けるべき能力表E」を参考にして、教員としての資質について考える。授業内容を振り返る。
第6回	教師として身に付けるべき能力についての討議⑤ 【準備学習】「教師として身に付けるべき能力表F」を参考にして、教員としての資質について考える。授業内容を振り返る。
第7回	教員から教材(道徳)を提示→教材研究→指導案作成作業(同一教材) *『20年版学習指導要領(道徳)』参照 【準備学習】道徳教材の教材研究⇒指導案作成に向けての取り組み。授業内容を振り返る。
第8回	作成した指導案を基に討議① 【準備学習】道徳教材の教材研究⇒指導案作成に向けての取り組み。授業内容を振り返る。
第9回	作成した指導案を基に討議② 【準備学習】道徳教材の教材研究⇒指導案作成に向けての取り組み。授業内容を振り返る。
第10回	個人で作成した教科等の指導案(総案)のプレゼン①→討議 *4人の場合は、プレゼンを工夫すること。 【準備学習】研究授業を想定した教科の学習の教材研究⇒指導案作成に向けた取り組み。授業内容を振り返る。
第11回	個人で作成した教科等の指導案(総案)のプレゼン②→討議 【準備学習】研究授業を想定した教科の学習の教材研究⇒指導案作成に向けた取り組み。授業内容を振り返る。

第12回	個人で作成した教科等の指導案(総案)のプレゼン③→討議 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。
第13回	個人の研究テーマと研究計画のプレゼン①→質疑応答 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。
第14回	個人の研究テーマと研究計画のプレゼン②→質疑応答 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。
第15回	個人の研究テーマと研究計画のプレゼン③→質疑応答 【準備学習】授業内容を振り返る。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

(現職教員)

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職の専門性を理解し、その資質としての個人的職能と組織的職能を高め、望ましい教師の在り方を身に付けることができる。

■評価方法

「教師として身に付けるべき能力」等についての討議や、指導案作成・プレゼン等をとおして、総合的に評価する。

■使用教材

適宜配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学習指導の方法研究Ⅱ(A、B、Cグループ)

■教員名 (A)長崎・長島・田村・寺林 (B)桐山・吉川・鈴木・若井(C)宮崎・石丸・近藤・三津村

■授業概要

前期の「学習指導の方法研究Ⅰ」で学んだことの実践版が本授業での内容である。「教育実習Ⅰ・Ⅱ」の期間でもあり、実習中の課題(例—子ども対応、学習指導の進め方、授業研究の在り方 等)を浮き彫りにし、自身の研究テーマとの関連を明確にする。なお、本授業の期間は、原則として、実習研究Ⅱを終えるまでとする。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション(授業の進め方等について話し合う) * 授業の内容を工夫する—例えば、15 回の半分程度は、担当教員だけの指導(個別指導)としたり、毎回 30～45 分程度を個別指導に当てたり等。 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第2回	実習中の課題(例—子ども対応、学習指導の進め方、授業研究の在り方 等)についての討議① 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第3回	実習中の課題(例—子ども対応、学習指導の進め方、授業研究の在り方 等)についての討議② 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第4回	実習中の課題(例—子ども対応、学習指導の進め方、授業研究の在り方 等)についての討議③ 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第5回	実習中の課題(例—子ども対応、学習指導の進め方、授業研究の在り方 等)についての討議④ 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第6回	(授業研究①—交流・討議) —極力、ビデオ・逐語記録を基に行う— 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第7回	(授業研究②—交流・討議) —極力、ビデオ・逐語記録を基に行う— 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第8回	(授業研究③—交流・討議) —極力、ビデオ・逐語記録を基に行う— 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。

	本授業内容を振り返る。
第9回	(授業研究④—交流・討議) —極力、ビデオ・逐語記録を基に行う— 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。 本授業内容を振り返る。
第10回	今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討① 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。
第11回	今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討② 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。
第12回	今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討③ 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。
第13回	今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討④ 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。
第14回	今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討⑤ 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。
第15回	まとめ 【準備学習】本授業内容と実習全般を振り返る。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

(現職教員)

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教育実習中の種々の事例や学習指導を通して、教師としての資質を身に付けることができるとともに、自身の研究テーマと関連付けて研究を深めることができる。

■評価方法

事例研究、授業研究、教材研究・指導案検討、研究テーマの発表等を通して、総合的に評価する。

■使用教材

適宜、提供・配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学習活動の組織化とその評価

■教員名 石丸 憲一・関田 一彦

■授業概要

『学習活動の組織化とその評価』は、アクティブラーニングの設計と“21世紀型スキル”など新しい能力評価の基本について学び合う授業です。

学期の前半はクラス全員でアクティブラーニングの基本的なところを学び合ってもらいます。後半は、リーダーコースの学生は石丸の指導の下、夢の授業づくりに挑戦してもらい、プロコースの学生は関田の下で、アクティブ・ラーニングとしての協同学習の技法について学んでもらいます。

学習活動の評価については、毎時間のジャーナルや学習物をポートフォリオに保管し、はじめの段階に作成したルーブリックを使用し評価を行う活動を授業に位置づけています。この活動により、本科目の評価を行いながら、評価の仕方を学習することができます。

■授業計画・内容

回数	内 容	
第1回	オリエンテーション 【準備学習】学習の見通しをもって授業に臨む	
第2回	アクティブ・ラーニング導入(推奨)の理由 【準備学習】ジャーナルの作成／当該文科省 HP の閲覧	
第3回	アクティブ・ラーニングの特長(タイプと構造) 【準備学習】ジャーナルの作成／配付資料のポイント整理(山地論文など)	
第4回	活動の組織化と学習者特性 【準備学習】ジャーナルの作成／配付資料のポイント整理(多重知能など)	
第5回	活動の組織化と学習者特性 【準備学習】ジャーナルの作成	
第6回	アクティブ・ラーニングの評価 【準備学習】ジャーナルの作成／配付資料のポイント整理(関田コラムなど)	
第7回	アクティブ・ラーニングの評価 【準備学習】ジャーナルの作成	
第8回	中間振り返り 【準備学習】ジャーナルの作成／中間振り返りシート記入	
第9回	リーダーコース(石丸クラス)	プロフェッショナルコース(関田クラス)
	夢の授業をつくろう1 【準備学習】ジャーナルの作成	協同学習の基本1 【準備学習】ジャーナルの作成 ／配付資料のポイント整理
第10回	夢の授業をつくろう2 【準備学習】ジャーナルの作成	協同学習の基本2 【準備学習】ジャーナルの作成
第11回	夢の授業をつくろう3 【準備学習】ジャーナルの作成、 夢の授業の構想作成、発表準備	協同学習の基本3 【準備学習】ジャーナルの作成、 事例収集
第12回	夢の授業をつくろう4 【準備学習】ジャーナルの作成、	協同学習の基本4 【準備学習】ジャーナルの作成、

	夢の授業の構想作成、発表準備	事例収集
第13回	夢の授業をつくろう5 【準備学習】ジャーナルの作成、 夢の授業の構想作成、発表準備	協同学習の基本5 【準備学習】ジャーナルの作成、 協同学習を取り入れた授業案作成
第14回	成果交流 【準備学習】ジャーナルの作成／成果ポイントまとめ	
第15回	学期末振り返り 【準備学習】ジャーナルの作成、振り返りとまとめ、ポートフォリオの整理	

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

- アクティブラーニングの設計及び“21世紀型スキル”など新しい能力評価の基本について理解する。
- 自身の過去の実践を踏まえた先進的な授業を構想することができる。
- 学習内容を基にして同僚・後輩に効果的なアドバイスをしたり、指導的な立場でのコメントをしたりすることができる。

(現職教員)

- アクティブラーニングの設計及び“21世紀型スキル”など新しい能力評価の基本について理解する。
- 自身の過去の実践を踏まえた先進的な授業を構想することができる。
- 学習内容を基にして同僚・後輩に効果的なアドバイスができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- アクティブラーニングの設計及び“21世紀型スキル”など新しい能力評価の基本について理解する。
- 学習者の参加を促す協同学習の基本について理解する。

■評価方法

レポート・ジャーナル・プレゼンテーションなど日常の活動をポートフォリオにして、総合評価する。

■使用教材

参考書：

グリフィン・マクゴー・ケア編(2014)『21世紀型スキルー学びと評価の新たなカタチー』北大路書房。
 ジェイコブス、パワー、イン(2005)『先生のためのアイデアブック』ナカニシヤ出版。
 バークレイ、クロス、メジャー(2009)『協同学習の技法』ナカニシヤ出版。
 本田恵子(2006)『脳科学を活かした授業をつくるー子どもが生き生きと学ぶために』日能研。
 松下佳代編(2010)『＜新しい能力＞は教育を変えるー学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房。
 松下佳代編(2014)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 授業力育成のための理論と方法

■教員名 長崎 伸仁 ・ 吉川 成司

■授業概要

自己の授業力の向上、若手教員の授業力育成や各学校の授業研究の推進がテーマである。すなわち、指導方法・指導技術等についての理解と習得を始め、それらについて理論的・体系的に整理して、同僚教員の授業について検討し助言したり、各学校の授業研究について専門的な見地から指導する資質の育成を目的とする。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コース・オリエンテーション:授業の進め方について説明するとともに、「授業力を構成する要素」を検討し、問題意識の明確化を図る。 【準備学習】シラバスを読んで確認しておくこと
第2回	映像資料を視聴し、授業力を身につけるために必要な事柄を討議する。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第3回	「わかる授業のための授業力とは」(仮)との研究テーマについて、映像資料をふまえて討議する。プレゼンテーションに向けて小グループを編成する。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第4回	教科・領域の授業ビデオを視聴し、小グループで討議する①(教科・領域は未定)。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第5回	教科・領域の授業ビデオを視聴し、小グループで討議する②(教科・領域は未定)。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第6回	「わかる授業のための授業力とは」(仮)をテーマにしたプレゼンテーションの進め方について全体で検討する。 【準備学習】プレゼンテーションのためのテーマを検討しておくこと
第7回	教科・領域の授業ビデオの視聴し、小グループで討議する③(教科・領域は未定)。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと、プレゼンテーションのためのテーマを検討しておくこと
第8回	教科・領域の授業ビデオの視聴し、小グループで討議する④(教科・領域は未定)。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと、プレゼンテーションのためのテーマを検討しておくこと
第9回	「わかる授業のための授業力とは」(仮):プレゼンテーション①(質疑応答を含む、2～3人)。 【準備学習】プレゼンテーションに向けて、その内容等をグループで検討しておくこと
第10回	「わかる授業のための授業力とは」(仮):プレゼンテーション②(質疑応答を含む、2～3人)。
第11回	「わかる授業のための授業力とは」(仮):プレゼンテーション③(質疑応答を含む、2～3人)。 【準備学習】プレゼンテーションに向けて、その内容等をグループで検討しておくこと
第12回	「わかる授業のための授業力とは」(仮):プレゼンテーション④(質疑応答を含む、2～3人)。 【準備学習】プレゼンテーションに向けて、その内容等をグループで検討しておくこと
第13回	「わかる授業のための授業力とは」(仮):プレゼンテーション⑤(質疑応答を含む、2～3人)。 【準備学習】プレゼンテーションに向けて、その内容等をグループで検討しておくこと

第14回	「わかる授業のための授業力とは」(仮):プレゼンテーション⑥(質疑応答を含む、2～3人)。 【準備学習】プレゼンテーションに向けて、その内容等をグループで検討しておくこと
第15回	まとめに代えて:「説明文教材の学習指導論と国語科授業力との連関」、その他 【準備学習】授業全体を復習しておくこと

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

教育指導上の課題をとらえ、指導方法や指導技術等について理論的・体系的に分析・整理し、発達段階に応じた指導方法や指導技術に関して高い専門性をもって主幹教諭等に対して指導・助言することができる。

授業力向上のための先進的事例や学校における課題を整理し、組織を生かした取り組みを指導助言できる。

(現職教員)

教育的な効果という面から、自己の指導方法や指導技術等について理論的・体系的に分析・整理するとともに、他者の授業について検討し、助言したり、新たな提案を行ったりすることができる。

授業記録等の分析から、授業力向上に関する課題を明らかにし、新たな校内研修を組織することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

児童・生徒の状況及び各教科等の特性に応じた多様な指導方法・指導技術等についての理解と習得をはかり、授業実践を行うことができる。

「授業力」を構成する要素や学校における授業力向上の取り組みについて理解し、自己の実践を適切に評価し、改善することができる。

■評価方法

「わかる授業のための授業力とは」についてのプレゼンテーションとレポートを成績評価の資料とする。

■使用教材

使用しない。

参考書や参考資料等については、適宜紹介する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅰ

■教員名 宮崎 猛・平井 康章・鈴木 詞雄

■授業概要

本授業「家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅰ・Ⅱ」では学校、家庭、地域の連携とキャリア教育のあり方について実践上の立場から考察する。このうち「Ⅰ」では学校、家庭、地域（以下三者）の連携に焦点をあて、三者が連携することの今日的意義と課題を理論的な側面、制度的な側面、歴史的な側面から考察する。その上で、今日、学校、家庭、地域が連携している事例を実地踏査などを含めて調査し、その内容、方法、意義、課題等について分析する。

それらの研究成果をもとに、参加者の所属校、実習校等で実施可能な三者連携の具体的なあり方の検討したり、モデルなどを作成したりするとともに、そこにおけるキャリア教育との関わりを考察する。

■授業計画・内容

回 数	内 容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	学校・家庭・地域が連携することの意義や必要性 -現代の社会的課題、教育的課題と三者の連携- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、不明な点等を事前に調査し、理解を進めるとともに、自らの問題意識に依拠しつつ、本授業において明らかにすべき課題を明確にすること。
第3回	学校・家庭・地域が連携にかかわる教育施策 -「開かれた学校」「コミュニティスクール」など- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	学校・家庭・地域の連携にかかわる理論的考察、歴史的考察 -デューイやオルセン等の諸文献、郷土教育などを事例として- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	学校・家庭・地域の連携についての比較研究 -アメリカ「サービスマーケティング」などを事例として- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	キャリア教育の概要 -概念、意義、内容などの把握- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	学校・家庭・地域の連携の実践について -コミュニティスクールや学校運営協議会などについての事例研究- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第8回	学校・家庭・地域の連携の実際について -コミュニティスクールや学校運営協議会などの実地調査（フィールドワーク）- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	学校・家庭・地域の連携の実際について -事例研究、フィールドワークの調査内容の分析・検討- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	勤務校、実習校等で活用可能な連携プログラムやモデルの作成① -カリキュラムの作成と教師の役割、あり方- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	勤務校、実習校等で活用可能な連携プログラムやモデルの作成② -カリキュラムの作成と教師の役割、あり方- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	勤務校、実習校等で活用可能な連携プログラムやモデルの作成③ -カリキュラムの作成と教師の役割、あり方- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	作成した連携プログラムやモデルの検討 -プレゼンテーションと相互評価- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	学校、家庭、地域の連携とキャリア教育のかかわり -グループ討議- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ、ポートフォリオの作成 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育リーダーコース （管理職候補者） 学校・家庭・地域が連携することの今日的意義や課題を幅広い視野から捉え、学校現場において、三者連携のカリキュラム、プログラム、教師の役割、サービス等に関して適切に指導、助言を行うことができる力量を身につける。 （現職教員） 学校・家庭・地域が連携することの今日的意義や課題を幅広い視野から捉え、勤務校等の学校現場において、三者連携の中心的な担い手として、カリキュラムの作成や運営等の役割を担うことができる力量を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学校・家庭・地域が連携することの今日的意義と課題を幅広い視野から捉え、そのあり方を実践上の立場から理解し、カリキュラムの作成や運営に携わることができる知見や実践力を獲得する。

■評価方法

○評価方法 出席：30点（2×15） レポート・振り返り：30点、授業への参加度：20点、最終
報告書・授業案 20点

○評価基準 S：90点以上 A：80点以上 B：70点以上 C：60点以上 D（不合格）：59点以下

■使用教材

上記授業計画に示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。

■授業で使用する言語 日本語

（ 日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他 ）

■科目名 学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅱ

■教員名 宮崎 猛・平井 康章・鈴木 詞雄

■授業概要

本授業「家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅰ・Ⅱ」では学校、家庭、地域の連携とキャリア教育のあり方について実践上の立場から考察する。このうち「Ⅱ」では学校、家庭、地域の連携を前提として展開するキャリア教育の意義や内容、方法等について、事例研究やフィールドワークなどを通して理解する。また、学校現場で実践可能なキャリア教育のカリキュラムやプログラムを作成し、その内容を討議する。

本授業進行の過程で、キャリア教育の方法原理として位置づけることができるPBL（プロジェクトベースラーニング）やSL（サービスマーケティング）、協同学習などの指導法についても本授業の参加者間での実践を通して身につけていく。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	学校、家庭、地域の連携とキャリア教育の関わりについての理解 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	学習指導要領やキャリア教育にかかわる各種答申の理解・検討 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	キャリア教育推進校の事例検討① -グループによる調査、プレゼンテーション- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	キャリア教育推進校の事例検討② -グループによる調査、プレゼンテーション- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	キャリア発達、キャリア教育の理論 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	キャリア教育先進校への実地調査（フィールドワーク）事前準備 -都内公立小・中学校- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	キャリア教育先進校へのフィールドワーク -都内公立小・中学校- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第9回	キャリア教育先進校フィールドワークの分析・検討（振り返り） -当該校の担当者を招聘して- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	キャリア教育のカリキュラム作成① -所属校や実習校で実施可能なモデルとして- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	キャリア教育のカリキュラム作成② -所属校や実習校で実施可能なモデルとして- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	キャリア教育のカリキュラム作成③ -所属校や実習校で実施可能なモデルとして- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	作成したカリキュラムの検討① プレゼンテーションと相互評価 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	作成したカリキュラムの検討② プレゼンテーションと相互評価 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ、ポートフォリオの作成 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育リーダーコース

（管理職候補者）

キャリア教育の内容、意義、方法、理論等を幅広い視野から捉え、学校現場において、キャリア教育の理論、カリキュラム、教師の役割等に関して適切に指導、助言を行うことができる力量を身につける。

（現職教員）

キャリア教育の内容、意義、方法、理論等を幅広い視野から捉え、学校現場において、勤務校等の学校現場において、キャリア教育の中心的な担い手として、カリキュラムの作成や運営等の役割を担うことができる力量を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

キャリアの教育内容、意義、方法、理論等を幅広い視野から捉え、そのあり方を実践的な立場から理解し、カリキュラムの作成と運営に携わることができる知見や実践力を身につける。

■評価方法

- | | | |
|-------|---|--|
| ○評価方法 | 出席：30 点（2×15） | レポート・振り返り：30 点、授業への参加度：20 点、最終
報告書・授業案 20 点 |
| ○評価基準 | S：90 点以上 A：80 点以上 B：70 点以上 c：60 点以上 D（不合格）：59 点以下 | |

■使用教材

上記授業計画に示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。

■授業で使用する言語 日本語

（ 日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他 ）

■科目名 総合学習と社会参加学習論

■教員名 桐山 信一・宮崎 猛

■授業概要

時代の進展とともに学校教育が提供する教育内容が系統化・専門化が進むことは避けて通ることができない。しかし、それによって学校教育の学習は、学習者の学ぶ必要性や必然性から乖離していくことになる。学校教育が生まれて以降、今日まで間断なく繰り返されてきた経験主義と系統主義との間の揺れ、自由教育と管理教育、進歩派と保守派と間での対立の背景である。本授業では、系統化・専門化が進むことを前提として、学ぶことの意味や意義をどのように取り戻すか、学校の学習と現実社会をどのようにに関連させるか、といった本質的な課題に対して、学習の総合化(総合学習)、ならびに学習の社会との架橋化(社会参加学習)を手がかりに追究していく。その際、それらを実践的に考察することが、学習指導要領上の要請でもあり、グローバル化に対応する人材育成においても重要であることを確認することになる。それらへの検討を踏まえ、各学校において展開可能な教育実践や授業モデルを考案するが、特に本授業では、理科教育を専門とする教員と社会科教育を専門とする教員のティームティーチングで行われることから、理科と社会の統合化や関連が具体的事例として取り上げられながら進められることになる。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースオリエンテーション、参加者の関心領域と本授業の目標、内容 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	総合的な学習の創設の経緯、内容、課題 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	総合的な学習の意義：系統主義と経験主義—デューイの議論などを通して 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	学ぶこと、身に付くとはどのようなことか—社会構成主義や状況学習論を通して 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	クロスカリキュラムの意義と概要 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	クロスカリキュラムの方法 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	社会参加学習の意義と方法 サービス・ラーニングを事例として 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	振り返りの方法と理論 サービス・ラーニングを事例として 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第9回	総合的な学習の時間の実践事例の検討 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	生きる力の育成と総合的な学習① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	生きる力の育成と総合的な学習② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	クロスカリキュラムと社会参加学習に基づく総合的な学習の構想① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	クロスカリキュラムと社会参加学習に基づく総合的な学習の構想② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	クロスカリキュラムと社会参加学習に基づく総合的な学習の構想とその検証 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	本授業全体の振り返りと総括 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

総合学習とそこにおける社会参加学習の今日的意義を、学習指導要領の重点項目やその背景となっているグローバル社会に求められる力量形成－各国間で求められている学力水準－などの観点から理解するとともに、その展開の在り方に対する識見をもち、学校現場における総合的な学習の時間等における授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を身に付ける。

(現職教員)

総合学習とそこにおける社会参加学習の今日的意義を、学習指導要領の重点項目やその背景となっているグローバル社会に求められる力量形成－各国間で求められている学力水準－などの観点から理解するとともに、その展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を身に付ける。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

総合学習とそこにおける社会参加学習の今日的意義を、学習指導要領の重点項目やその背景となっているグローバル社会に求められる力量形成－各国間で求められている学力水準－などの観点から理解するとともに、その展開の在り方に対する識見をもち、指導目標・内容、教材、指導方法、評価等の特質に理解を深め、自身の授業実践に活用することができる力量を身に付ける。

■評価方法

出席:30点(2×15) レポート・振り返り:30点、参加意欲:20点、最終報告書・授業案 20点
S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

上記授業計画に提示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。

参考書・参考資料等)

『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成20年版』(文部科学省 東洋館出版社) 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成20年版』(文部科学省 教育出版)

桐山信一著:

宮崎猛編著:『教師のための現代社会論』(教育出版)『高校「総合的な学習」研究と実践の手引き』(明治図書出版)『進路でつくる高校総合的な学習』(小学館)『必ず成功するボランティア・奉仕活動オール実践ガイド』(明治図書出版)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	ICTを活用した教育活動
■教員名	鈴木 詞雄 ・ 三津村 正和
■授業概要	

本授業の到達目標は、次の通りである。①電子黒板をはじめとするデジタル機器を利用した授業を展開できる、②電子教科書をはじめとするデジタル教材の有効な活用法を考えることができる、③PCを使って自作の画像教材を作成することができる。これらのスキルの育成を図りながら、ICTを活用した効果的な授業設計に関する理論・実践を体験的に学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション、ICT教育の動向
第2回	ICTを活用した様々な授業 【準備学習】使用教材を読み、課題を達成する。
第3回	ICTを活用した授業づくり：教育工学の視点 【準備学習】使用教材と配布資料を読み、課題を達成する。
第4回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり①：電子教科書の使用 【準備学習】配付資料を読む。
第5回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり②：電子教科書の有効利用 【準備学習】配付資料を読み、問題点を考える。
第6回	ICTスキルの育成①：効果的なプレゼン 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第7回	ICTスキルの育成②：ポスター、学級新聞づくり 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第8回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり③：課題の設定 【準備学習】配付資料を読み、問題点を考える。
第9回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり④：デジタル教材の開発 【準備学習】配付資料を読み、課題を考える。
第10回	ICTスキルの育成③：画像教材の作成（1） 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第11回	ICTスキルの育成④：画像教材の作成（2） 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第12回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり⑤：デジタル教材の開発 【準備学習】配付資料を読み、課題を達成する手段を考える。
第13回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり⑥：デジタル教材の開発 【準備学習】配付資料を読み、課題を達成する。
第14回	プレゼンテーション① 【準備学習】プレゼンテーションに備える。
第15回	プレゼンテーション② 【準備学習】プレゼンテーションに備える。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

I C Tを活用した教育活動に関する理論・実践を体系的に整理し、学校や教員に対して、中長期的な視点に立って適切な指導助言をすることができる。

(現職教員)

I C Tを活用した教育活動に関する理論・実践を体系的に整理し、所属校等の教員に提案するなど学校組織の中で活用して貢献することができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

I C Tを活用した教育活動に関する理論・実践を体系的に整理し、学校現場での自らの実践に生かすことができる。

■評価方法

授業への参加態度、プレゼンテーション、課題レポートにより、総合的に評価する。

※自由聴講は、原則不可。

※シラバスの内容に変更が生じる際は、事前に通知し了承を得る。

■使用教材

中川一史『I C T教育：100 の実践・事例集』（2012 年，フォーラム・A，2,400 円）

※他、適宜プリントを配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

人間教育実践分析研究

■教員名

宮崎 猛 ・ 小田 勝己

■授業概要

人間教育とはいかなるものであるのかを教科・領域、校種を通底した見地から解明することが本授業の目標である。そのために教育学にかかわる先哲の思想や主要な教育理論を取り上げ、人間教育の視点から分析する。それらの分析をもとに、学校教育の現状・現実を前提として、人間教育の立場から、学校教育の在り方や授業改善の方途について参加者間で討議し、明らかにしていく。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースオリエンテーション 参加者間での課題意識の交流と担当教員の専門領域1(社会参加学習論) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	担当教員の専門領域2 一人ひとりの可能性を引き出す MI 理論と相互理解を深めるポートフォリオ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	人間教育を考察する前提① 学校教育、教師への社会的要請とその背景 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	人間教育を考察する前提② 学校現場と学校教師の現状、社会的要請への批判的考察 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	人間教育を考察する前提③ 各自における人間教育の仮定義(参加者の教育経験を踏まえた意見交流) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	人間教育を目指す教育理論① 「学びを問い続けて」佐伯胖 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	人間教育を目指す教育理論② 「学びを問い続けて」佐伯胖 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	人間教育を目指す教育理論③ 「学びを問い続けて」佐伯胖 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第9回	人間教育を目指す教育理論④ 「民主主義と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	人間教育を目指す教育理論③ 「民主主義と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	人間教育を目指す教育理論④ 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	人間教育を目指す教育理論⑤ 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	人間教育を目指す教育理論と教職経験⑥ 参加者からの問題提起 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	人間教育を目指す教育理論と教職経験⑥ 参加者からの問題提起 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育リーダーコース

人間教育について理論研究・比較研究等の多面的・多角的な視野から探究し、人間教育の視座を獲得するとともに、鳥瞰的な視野から授業改善や教育改革に資する事項を自分なりの考えをもって表明することができる。

■評価方法

出席:30点(2×15) レポート・振り返り:30点、授業への参加意欲:20点、最終報告書・授業案 20点
S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

参考文献)

上記授業計画に提示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	人間教育実践分析研究
■教員名	田村 修一
■授業概要	本科目は、「子どもにとっての幸福とは」「子どもと教師の望ましい関係とは」「教師に必要な資質・能力とは」など、教育実践の前提となる教師自身の教育哲学・思想について、国内外の教育学や心理学の文献の熟読を通して、また受講者同士の議論を通して、これらの重要なテーマについて、考察を深めていく授業としたい。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション＜本授業の概要と進め方・評価方法についての説明＞ 討議テーマ：現在の自分の教育実践上の悩みと課題 【準備学習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	「人間の幸福」について考える(1)・・・「ウェルビーイング」 課題図書：『ポジティブ心理学の挑戦』(マーティン・セリグマン) 【準備学習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	「人間の幸福」について考える(2)・・・「幸せの創造」 課題図書：『ポジティブ心理学の挑戦』(マーティン・セリグマン) 【準備学習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第4回	「人間の幸福」について考える(3)・・・「ポジティブ教育」 課題図書：『ポジティブ心理学の挑戦』(マーティン・セリグマン) 【準備学習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第5回	「人間の幸福」について考える(4)・・・「フロー体験①」 課題図書：『フロー体験：喜びの現象学』(チクセントミハイ) 【準備学習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第6回	「人間の幸福」について考える(5)・・・「フロー体験②」 課題図書：『フロー体験・喜びの現象学』(チクセントミハイ) 【準備学習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第7回	「人間の幸福」について考える(6) ★学生によるプレゼン 「ポジティブ心理学」を教育実践にいかす私のアイデア 【準備学習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第8回	「教師と子どもの関係性」について考える(1)・・・「日のあたる子・影の子」 課題図書：『教師と子どもの関係づくり』(近藤邦夫) 【準備学習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第9回	「教師と子どもの関係性」について考える(2)・・・「子どもの成長を阻む教師」 課題図書：『教師と子どもの関係づくり』(近藤邦夫) 【準備学習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第10回	「教師と子どもの関係性」について考える(3) ★学生によるプレゼン 発表テーマ：教師として「一皮むけた体験」の私のエピソード 【準備学習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第11回	「教師の実践知」について考える(1)・・・実践知とは・熟達者とは 課題図書：『実践知』(金井壽宏・楠見 孝 編) 【準備学習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。

第12回	「教師の実践知」について考える(2)・・・熟達化のメカニズム 課題図書:『実践知』(金井壽宏・楠見 孝 編) 【準備学習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第13回	「教師の実践知」について考える(3)・・・実践知の継承とリーダーシップ 課題図書:『実践知』(金井壽宏・楠見 孝 編) 【準備学習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第14回	「教師の実践知」について考える(4)・・・教育実践と教師の成長・発達 課題図書:『実践知』(金井壽宏・楠見 孝 編) 【準備学習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第15回	「教師の実践知」について考える(5) ★学生によるプレゼン 発表テーマ: 私が獲得した「実践知」 【準備学習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教育学・心理学理論の知見や枠組みを活用して、「人間教育」の観点から自己や他者の教育実践を省察し、教育実践の改善に結びつけることができる能力を培う。また、学校内の全教員に対する適切な指導・助言力を身につける。

(現職教員)

教育学・心理学理論の知見や枠組みを活用して、「人間教育」の観点から自己や他者の教育実践を省察し、教育実践の改善に結びつけることができる能力を培う。

■評価方法

毎回の授業の参加態度、およびプレゼン(課題レポート)により、総合的に評価する。

■使用教材

「ポジティブ心理学の挑戦: 幸福から持続的幸福へ」 マーティン・セリグマン 著 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2014年
「フロー体験・喜びの現象学」 M・チクセントミハイ 著 世界思想社 1996年
「教師と子どもの関係づくり」 近藤邦夫 著 東京大学出版会 1994年
「実践知: エキスパートの知性」 金井壽宏・楠見 孝 著 有斐閣 2012年

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間教育実践分析課題研究

■教員名 宮崎 猛・小田 勝己

■授業概要

本授業では、前期「人間教育実践分析研究」における研究成果を継承・発展させ、人間教育という視座からの社会の在り方、すなわち教育のための社会とはどのようなものであるかを論考していく。さらにその論考を各自の教育実践、研究テーマ・内容、問題関心領域に適応、環流させ、具現化を図る。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	人間教育の視座からの社会の在り方① シューマッハー「スモールイズビューティフル」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	人間教育の視座からの社会の在り方② 佐伯伴「学びを問い続けて」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	人間教育の視座からの社会の在り方③ アダム・スミス「道徳感情論」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	人間教育の視座からの社会の在り方④ イリイチ「脱学校論」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	人間教育の視座からの社会の在り方⑤ トインビー・池田大作「21世紀の対話」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	前半のまとめ 「教育のための社会」とは 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	諸外国における教育と社会 フィンランド等を事例として 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	諸外国における教育と社会 米国、中国等を事例として

	【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	各自の研究テーマと人間教育① プレゼンテーションと討議 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	各自の研究テーマと人間教育② プレゼンテーションと討議 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	各自の研究テーマと人間教育③ プレゼンテーションと討議 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	各自の研究テーマと人間教育④ プレゼンテーションと討議 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	各自の研究テーマと人間教育⑤ プレゼンテーションと討議 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育リーダーコース

人間教育とはいかなるものかについて、理論、実践の両面から自分なりの識見をもち、他者に対し実証的に説明することができるようになる。また、その識見を自身の教育実践に具体的な内容、方法等として適用・応用することができるようになり、教師のキャリア形成において不断に更新するための基盤を獲得する。

■評価方法

出席:30点(2×15) レポート・振り返り:30点、授業への参加意欲:20点、最終報告書・授業案 20点
S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

参考文献)

上記授業計画に提示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間教育実践分析課題研究

■教員名 田村 修一

■授業概要

本科目は、自己の教育実践を省察するための理論や分析法を学びながら、現在の学校教育における様々な課題を解決できる能力(実践知)を身につけ、自分の職場で「人間教育」を十分に展開できる基礎的な能力を培う授業としたい。具体的には、他者や自分自身の「教育実践(成功例・失敗例)」について、様々な分析方法を用いて、多角的に分析し、客観的に整理された「教育実践記録」を書く能力を培いたい。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	教育実践記録(1)……………「教育実践記録」を書く意義・目的・構成要素 【準備学習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	教育実践記録(2)……………「教育実践記録」の分析的な読み方 【準備学習】 事前に配付資料を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	教育実践記録(3)……………教師の学び合い「教育実践カンファレンス」 【準備学習】 事前に配付資料を読んでおく。討議の振り返り。
第4回	教育実践記録(4)……………(演習)「教育実践カンファレンス」の体験 【準備学習】 事前に配付資料を読んでおく。演習の振り返り。
第5回	授業分析の理論……………授業研究に関する主な理論と分析法 【準備学習】 事前に配付資料を読んでおく。討議の振り返り。
第6回	授業の分析(1)……………(演習)映像記録を活用した授業分析① 【準備学習】 事前に配付資料を読んでおく。演習の振り返り。
第7回	授業の分析(2)……………(演習)映像記録を活用した授業分析② 【準備学習】 事前に配付資料を読んでおく。演習の振り返り。
第8回	授業の分析(3)……………(演習)映像記録を活用した授業分析③ 【準備学習】 事前に配付資料を読んでおく。演習の振り返り。
第9回	授業の分析(4)……………(演習)映像記録を活用した授業分析④ 【準備学習】 事前に配付資料を読んでおく。演習の振り返り。
第10回	「心理教育的援助サービス」の分析(1)……………1次的援助サービス① 課題図書:「学校での効果的な援助をめざして」(石隈・水野 他) 【準備学習】 事前に課題図書を読んでおく。討議の振り返り。
第11回	「心理教育的援助サービス」の分析(2)……………1次的援助サービス② 課題図書:「学校での効果的な援助をめざして」(石隈・水野 他) 【準備学習】 事前に課題図書を読んでおく。討議の振り返り。
第12回	「心理教育的援助サービス」の分析(3)……………2次的援助サービス① 課題図書:「学校での効果的な援助をめざして」(石隈・水野 他) 【準備学習】 事前に課題図書を読んでおく。討議の振り返り。
第13回	「心理教育的援助サービス」の分析(4)……………2次的援助サービス② 課題図書:「学校での効果的な援助をめざして」(石隈・水野 他) 【準備学習】 事前に課題図書を読んでおく。討議の振り返り。

第14回	「心理教育的援助サービス」の分析(5)……………3次の援助サービス① 課題図書：「学校での効果的な援助をめざして」(石隈・水野 他) 【準備学習】 事前に課題図書を読んでおく。討議の振り返り。
第15回	「心理教育的援助サービス」の分析(6)……………3次の援助サービス② 課題図書：「学校での効果的な援助をめざして」(石隈・水野 他) 【準備学習】 事前に課題図書を読んでおく。討議の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

自己の教育実践を客観的に記録できる能力と、「教育実践」を多角的に分析でき、今後の教育実践の改善に活用できる能力を身につける。また、教育実践に対する分析能力を活用して、他者の教育実践の改善・向上を指導・援助できる能力を身につける。

(現職教員)

自己の教育実践を客観的に記録できる能力と、「教育実践」を多角的に分析でき、今後の教育実践の改善に活用できる能力を身につける。

■評価方法

毎回の授業の参加態度、および「プレゼン」、「課題レポート」を総合的に評価する。

■使用教材

<学術論文>

高橋早苗(2007)「反省的实践家としての教育実践記録の意義と活用」教育方法学研究, 33, 49-60.

「学校での効果的な援助をめざして:学校心理学の最前線」石隈利紀・水野治久 編

ナカニシヤ出版 2009年

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	人間教育事例分析研究
■教員名	桐山 信一
■授業概要	

本講義では、人間教育を科学技術・科学教育との関連において次のように考える

第一段階：人間についての教育（前期） Human being in the technology

人類の平和を最も脅かす存在である核兵器、その燃料をつくる原発。これらは科学技術の産物である。科学技術は人間の社会や生活とどう関係するのかという科学論と科学的思考を阻む心理論から、青少年に真実をどう伝えるかという教育論を探る。

第二段階：人間のための教育（後期） Science education for human beings

子どもの科学的思考はどのように発展していくのかという人の学習論と実践例、教育格差など現代学校教育の社会的実態を学びながら、学校における科学教育を核に据えた4教科の革新を提案する。

※授業においてはどのような些細なことであっても、参加者が納得いくまで議論し、オープンエンドの結論と課題を刻むことを原則とする。

※実地見学などが必要になった場合はその都度実施する。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	人間教育全体オリエンテーション 【準備学習】教職大学院パンフレットから担当教員の専門を確認する
第2回	コース選択 【準備学習】説明会で各担当から出された資料を検討する
第3回	コースオリエンテーション、学習の概要・進め方・話題提供者の決定など 【準備学習】使用教材①まえがき
第4回	科学の基本理解Ⅰ－科学はどのようにして生まれたか－ 【準備学習】使用教材①pp69－96
第5回	科学の基本理解Ⅱ－現代科学の特徴－ 【準備学習】使用教材①pp97－116
第6回	科学の基本理解Ⅲ－技術と安全 【準備学習】使用教材②第2章
第7回	科学技術と人間社会Ⅰ－科学と倫理－ 【準備学習】使用教材②第5章
第8回	科学技術と人間社会Ⅱ－科学と教育－ 【準備学習】使用教材②第6章
第9回	科学的態度を阻む心と行動Ⅰ－非合理的なものを信じる－ 【準備学習】使用教材③第1章
第10回	科学的態度を阻む心と行動Ⅱ－見たものをそのまま信じる－ 【準備学習】使用教材③第2章
第11回	科学的態度を阻む心と行動Ⅲ－体験したものをそのまま信じる－ 【準備学習】使用教材③第3章
第12回	科学的態度を阻む心と行動Ⅳ－確証バイアスの仕組み－ 【準備学習】使用教材③第4章

第13回	科学的態度を阻む心と行動Ⅴ－確率論的見方の大切さ－ 【準備学習】使用教材③第5章
第14回	科学的態度を阻む心と行動Ⅵ－体験のあやうさ－ 【準備学習】使用教材③第6章
第15回	おわりに－まとめと課題提示－ 【準備学習】これまで学習した内容を振り返り学習者自らの課題を追う作業

■到達目標

◇人間教育プロフェッショナルコース

科学技術の本性と社会的影響を理解し、これらを青少年の教育の問題として各自の考えを持ち表明することができる。また、教材化の糸口をつかむことができる。

■評価方法

出席と授業時の学習態度（関心・意欲・積極性など）、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%（4点/回×15＝60）、課題と発表 40% とする。

■使用教材

教科書

①池内 了：科学の考え方・学び方、岩波書店、1997年、630円

②村上陽一郎：科学の現在を問う、講談社、2000年、740円

③菊池 聡：超常現象の心理学、平凡社、2008年、860円

参考書

授業にて随時指示いたします。

■授業で使用する言語

（日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他）

■科目名	人間教育事例分析研究
■教員名	吉川 成司
■授業概要	人間教育の理念を追究することを基軸として、教職大学院で学びつつある内容を統合することがねらいである。具体的な教育実践の事例を取り上げ、それらについて考察し検討することを通じて、人間教育の理念を実践に展開する視座を培う。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースオリエンテーション:人間教育とは、戸田城外著『推理式指導読方』の概要 【準備学習】シラバスを確認しておく
第2回	計画の策定 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおく
第3回	教育実践研究事例①を把握するとともに、協議を通じて考察する。 (戸田城外著『推理式指導読方』) 【準備学習】『推理式指導読方』の指定箇所を読んでおく
第4回	教育実践研究事例②を把握するとともに、協議を通じて考察する。 【準備学習】『推理式指導読方』に関する眞部・坂岡レポートを読んでおく
第5回	教育実践研究事例③を把握するとともに、協議を通じて考察する。 【準備学習】『推理式指導読方』に関する奥田・佐野レポートを読んでおく
第6回	教育実践研究事例④を把握するとともに、協議を通じて考察する 【準備学習】『指導読方』に関する土居・荒井論文(指定箇所)を読んでおく
第7回	教育実践研究事例④を把握するとともに、協議を通じて考察する 【準備学習】『指導読方』に関する土居・荒井論文(指定箇所)を読んでおく
第8回	教育実践研究事例⑤を把握するとともに、協議を通じて考察する 【準備学習】『指導読方』に関する川島論文(指定箇所)を読んでおく
第9回	教育実践研究事例⑤を把握するとともに、協議を通じて考察する 【準備学習】『指導読方』に関する川島論文(指定箇所)を読んでおく
第10回	教育実践研究事例⑤を把握するとともに、協議を通じて考察する 【準備学習】『指導読方』に関する川島論文(指定箇所)を読んでおく
第11回	教育実践研究事例⑤を把握するとともに、協議を通じて考察する 【準備学習】『指導読方』に関する川島論文(指定箇所)を読んでおく
第12回	人間教育論に関するプレゼンテーションを行いディスカッションする(1) 【準備学習】プレゼンテーションに向けて資料を作成する
第13回	人間教育論に関するプレゼンテーションを行いディスカッションする(2) 【準備学習】プレゼンテーションに向けて資料を作成する
第14回	全体を通じての成果を話し合うとともに、後期の授業に向けた研究課題を検討する(1) 【準備学習】研究課題をまとめた資料を作成する
第15回	全体を通じての成果を話し合うとともに、後期の授業に向けた研究課題を検討する(2) 【準備学習】研究課題をまとめた資料を作成する

■到達目標

◇人間教育プロフェッショナルコース

教師としての各自の実践や活動を人間教育の理念から省察するとともに、人間教育の理念に基づいて校内での研究を中心的に推進しうる資質を培う。

■評価方法

プレゼンテーション 50%

レポート 50%

■使用教材

テキストは使用しない。参考資料等は適宜紹介する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間教育事例分析研究

■教員名 若井 幸子

■授業概要

本講義では創立精神に掲げられている「人間教育」を学び、教師として教育現場で「児童の幸福」を目指す教育実践とはなにかを追求する。本学は建学の精神として「人間教育の最高学府たれ」との命題を掲げ、創立者の理念と実践に学び、世界の平和に貢献する人材の育成をめざしている。本学に学ぶ一人ひとりにとって、「人間教育」という視座に基づく教育とはいかなる実践なのか、学校現場の教師として教育実践にどのように取り組んだら良いのか、「人間教育」を実践する教師のありようをさぐり、実践的力量を養う。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	人間教育全体オリエンテーション ガイダンス
第2回	研究課題の検討・学習の進め方 話題提供者の話し合い 【準備学習】自身の研究課題を検討してくる。振り返りをまとめる。
第3回	創造的人間とは ①全体性・創造性・国際性 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第4回	②青少年観・児童観 認識と評価 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第5回	③実践事例検討 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第6回	④実践事例検討 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第7回	教育のための社会めざして ①学校の教育力向上 教育力の復権 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第8回	②創価一貫教育 教科教育 読書教育 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第9回	③実践事例検討 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第10回	④実践事例検討 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第11回	人間教育への新しき潮流 ①生涯教育と人間の成長 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第12回	②自律的な学び 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第13回	② 実践事例検討 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第14回	1回から13回までの授業をふりかえり、成果課題を検討する。① 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第15回	まとめ 後期の研究課題設定にかかわる検討 今までの授業をふりかえり、成果・課題を検討する。②

	【準備学習】前期を振り返るレポートを作成する。
--	-------------------------

■到達目標

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・教師としての各自の実践や活動を人間教育の理念から省察するとともに、人間教育の理念に基づいて実践できる資質を養う。(現職教員 10年未満)
- ・人間教育の理念に基づいた教育実践を理解し、各自の考えを深めていくことができる。(ストレートマスター)

■評価方法

授業のプレゼンテーションや討論への参加、最終レポート

■使用教材

参考図書

「人間教育への新しき潮流」池田大作・ジムガリソン・ラリーヒックマン
「教育の目指すべき道ー私の所感」1984年8月24日
「教育提言」2000年9月29日30日・2001年1月9日
コロンビア大学記念講演「地球市民」教育への一考察 1996年6月13日
「わが教育者に贈る」2012年2月1日
新・人間革命「人間教育の章」「栄光の章」「若芽の章」「創価大学の章」
「創立の精神を学ぶ」創価大学創価教育研究所
「創価教育学体系」牧口常三郎全集
「教育学をつかむ」有斐閣
「民主主義と教育」j・デューイ 岩波書店
教育実践記録など参考資料は適宜紹介する。
教科書は使用しない

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間教育事例分析課題研究

■教員名 桐山 信一

■授業概要

本講義では、人間教育を科学技術・科学教育との関連において次のように考える

第一段階：人間についての教育（前期） Human being in the technology

人類の平和を最も脅かす存在である核兵器、その燃料をつくる原発。これらは科学技術の産物である。科学技術は人間の社会や生活とどう関係するのかという科学論と科学的思考を阻む心理論から、青少年に真実をどう伝えるかという教育論を探る。

第二段階：人間のための教育（後期） Science education for human beings

子どもの科学的思考はどのように発展していくのかという人の学習論と実践例、教育格差など現代学校教育の社会学的課題を学びながら、学校における科学教育を核に据えた4教科の革新を提案する。

※授業においてはどのような些細なことであっても、参加者が納得いくまで議論し、オープンエンドの結論と課題を刻むことを原則とする。

※実地見学などが必要になった場合はその都度実施する。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースオリエンテーション、学習の概要・進め方・話題提供者の決定など 【準備学習】使用教材①まえがき
第2回	子どもの科学的な思考Ⅰ—その普遍性と重要性— 【準備学習】使用教材①第1章
第3回	子どもの科学的な思考Ⅱ—論理的思考の誕生— 【準備学習】使用教材①第2章
第4回	子どもの科学的な思考Ⅲ—低学年の数的思考— 【準備学習】使用教材①第3章第1、2節
第5回	子どもの科学的な思考Ⅳ—中学年の量・時間的思考— 【準備学習】使用教材①第3章第3、4節
第6回	子どもの科学的な思考Ⅴ—高学年因果的思考— 【準備学習】使用教材①第3章第5、6節
第7回	子どもの科学的思考をどう育成するかⅠ—理科・算数を視野に— 【準備学習】使用教材①第4章第1節
第8回	子どもの科学的思考をどう育成するかⅡ—社会科・国語を視野に— 【準備学習】使用教材①第4章第2、3節
第9回	教育格差の問題Ⅰ—学校間・生徒間の格差— 【準備学習】使用教材②第2章
第10回	教育格差の問題Ⅱ—教員間の格差— 【準備学習】使用教材②第3章
第11回	教育格差の問題Ⅲ—校内暴力とモラルの格差— 【準備学習】使用教材②第4章
第12回	教育格差の問題Ⅳ—いじめと共感力の格差— 【準備学習】使用教材②第5章

第13回	教育格差の問題Ⅴ—男女の格差— 【準備学習】使用教材②第6章
第14回	おわりに、まとめと課題提示Ⅰ —科学的態度を育成する内容教科「理科」「社会科」の革新を提案する— 【準備学習】これまで学習した内容を振り返り学習者自らの課題を追う作業科
第15回	おわりに、まとめと課題提示Ⅱ —科学的態度の基盤となる用具教科「国語」「算数」の革新を提案する— 【準備学習】これまで学習した内容を振り返り学習者自らの課題を追う作業科

■到達目標

◇人間教育プロフェSSIONALコース

科学的思考の発達と学校教育における格差などの実態を理解し、これらを青少年の教育の問題として各自の考えを持ち表明すること、および実践の糸口をつかむことができる。

■評価方法

出席と授業時の学習態度（関心・意欲・積極性など）、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%（4点/回×15＝60）、課題と発表 40% とする。

■使用教材

教科書

①波多野完治ほか：子どものものの考え方、岩波新書、1977年、280円

②増田ユリヤ：新しい「教育格差」、講談社、2009年、720円

参考書

授業にて随時指示いたします。

■授業で使用する言語

（日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他）

■科目名	人間教育事例分析課題研究
■教員名	吉川 成司
■授業概要	

人間教育の理念を追究することを基軸として、教職大学院で学んできた内容を統合することがねらいである。具体的な教育実践の事例を取り上げ(学習指導と生活指導の両面から)、それらについて考察し検討することを通じて、人間教育の理念を実践に展開する視座を培う。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】シラバスを確認しておくこと
第2回	前期「人間教育事例分析研究」の復習と研究計画の策定 【準備学習】: 研究課題とその計画をまとめておくこと
第3回	研究課題の検討(1) 【準備学習】研究課題とその計画をまとめておくこと
第4回	研究課題の検討(2) 【準備学習】研究課題とその計画をまとめておくこと
第5回	研究課題の検討(3) 【準備学習】研究課題とその計画をまとめておくこと
第6回	教育実践研究事例を把握するとともに、協議を通じて考察する(1) 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと、中間発表のためのレポートを作成する
第7回	教育実践事例を把握するとともに、協議を通じて考察する(2) 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと、中間発表のためのレポートを作成する
第8回	教育実践事例を把握するとともに、協議を通じて考察する(3) 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと、中間発表のためのレポートを作成する
第9回	研究レポートについて中間発表を行い検討する(1) 【準備学習】中間発表のためのレポートを作成する
第10回	研究レポートについて中間発表を行い検討する(2) 【準備学習】中間発表のためのレポートを作成する
第11回	研究レポートについて中間発表を行い検討する(3) 【準備学習】中間発表のためのレポートを作成する
第12回	完成した研究レポートをプレゼンテーションする(1) 【準備学習】研究レポートを完成させる
第13回	完成した研究レポートをプレゼンテーションする(2) 【準備学習】研究レポートを完成させる
第14回	完成した研究レポートをプレゼンテーションする(3) 【準備学習】研究レポートを完成させる
第15回	授業全体を通じて、人間教育論の課題と展望に関して協議する 【準備学習】授業全体の復習をしておく

■到達目標

◇人間教育プロフェッショナルコース

教師としての各自の実践や活動を人間教育の理念から省察するとともに、人間教育の理念に基づいて校内での研究を中心的に推進しうる資質を培う。

■評価方法

プレゼンテーション 50%

レポート 50%

■使用教材

テキストは使用しない。参考資料等は適宜紹介する。

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間教育事例分析課題研究

■教員名 若井 幸子

■授業概要

本講義では創立精神に掲げられている「人間教育」を学び、教師として教育現場で「児童の幸福」を目指す教育実践とはなにかを追求する。本大学は建学の精神として「人間教育の最高学府たれ」との命題を掲げ、創立者の理念と実践に学び、世界の平和に貢献する人材の育成をめざしている。本学に学ぶ一人ひとりにとって、「人間教育」という視座に基づく教育とはいかなる実践なのか、学校現場の教師として教育実践にどのように取り組んだらいいのか、「人間教育」を実践する教師のありようをさぐり、実践的力量を養う。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースガイダンス 前期「人間教育事例分析研究」の復習と各自の研究計画の策定
第2回	各自の研究課題の検討・学習の進め方 話題提供者の話し合い 【準備学習】各自の研究課題を検討してくる。振り返りをまとめる。
第3回	「人間教育」へのアプローチ(試論作成)にあたって 議論・協議・検討① 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第4回	「人間教育」へのアプローチ(試論作成)にあたって 議論・協議・検討② 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第5回	「人間教育」へのアプローチ(試案作成)にあたって 議論・協議・検討③ 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第6回	各自の課題進捗状況の確認 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第7回	今までの議論をもとに「人間教育」の試論を発表する① 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第8回	①をもとに討議し深める 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第9回	今までの議論をもとに「人間教育」の試論を発表する② 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第10回	②をもとに討議し深める。 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第11回	今までの議論をもとに「人間教育」の試論を発表する③ 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第12回	③もとに討議し深める 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第13回	1回から12回までの授業をふりかえり、成果課題を検討する。① 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第14回	1回から12回までの授業をふりかえり、成果課題を検討する。② 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第15回	各自の「人間教育」(試論)レポートを仕上げる。

■到達目標

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・教師としての各自の実践や活動を人間教育の理念から省察するとともに、人間教育の理念に基づいて実践できる資質を養うとともに、自身の「人間教育」について試論を提言する。(現職教員 10年未満)
- ・人間教育の理念に基づいた教育実践を理解し、各自の考えを深め、自身の「人間教育」の試論をまとめる。(ストレートマスター)

■評価方法

授業のプレゼンテーションや討論への参加、最終レポート

■使用教材

参考図書

「人間教育への新しき潮流」池田大作・ジムガリソン・ラリーヒックマン

「教育の目指すべき道ー私の所感」1984年8月24日

「教育提言」2000年9月29日30日・2001年1月9日

コロンビア大学記念講演「地球市民」教育への一考察 1996年6月13日

「わが教育者に贈る」2012年2月1日

新・人間革命「人間教育の章」「栄光の章」「若芽の章」「創価大学の章」

「創立の精神を学ぶ」創価大学創価教育研究所

「創価教育学体系」牧口常三郎全集

「教育学をつかむ」有斐閣

「民主主義と教育」j・デューイ 岩波書店

教育実践記録など参考資料は適宜紹介する。

教科書は使用しない

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Aグループ)

■教員名 長崎 伸仁・石丸 憲一

■授業概要

本授業は、教職課題研究論文の作成に至るまでの理論と実践との融合を目指す「基礎的な研究」という位置付けである。そのため、自身の研究テーマの決定→「理論的研究→←実践的検討」を重ねながら、具体と展望、そして、そこから見えてくる課題等を洗い出す。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	全体ガイダンス
第2回	配属調整中
第3回	配属調整中
第4回	オリエンテーション(自己紹介・研究テーマについての概略の交流) 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の見通し。本授業の振り返り。
第5回	石丸の専門分野からの提案→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の見通し。本授業の振り返り。
第6回	長崎の専門分野からの提案→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。本授業の振り返り。
第7回	研究テーマの具体と展望① プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。本授業の振り返り。
第8回	研究テーマの具体と展望② プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第9回	研究テーマの具体と展望③ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第10回	研究テーマの具体と展望④ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第11回	研究テーマの深化と課題① プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第12回	研究テーマの深化と課題② プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第13回	研究テーマの深化と課題③ プレゼンテーション→討議

	【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第14回	研究テーマの深化と課題④ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第15回	まとめ 【準備学習】後期の授業に向けての今後の見通し。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補）

自身のこれまでの実践や経験を客観的に洞察し、的確な指導・助言に生かしていける力量を養うことができる。

（現職教員）

自身のこれまでの実践や経験を生かしながら、「理論と実践との融合」の観点からの研究を進め、今後の教育実践に生かすことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院での「学校における実習」等とこれまでの授業等で培った理論的な側面とのマッチングを図りながら、自身の研究テーマを確定し、教育のプロとしての自覚を持つことができる。

■評価方法

- ①出席点
- ②プレゼン力
- ③研究深化力 等を総合的に判断する。

■使用教材

必要に応じて、適宜、配布する。

■授業で使用する言語

（ 日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他 ）

* 夏期または秋期合宿研修会

7月または11月頃に集中合宿研修を行う。会場は、奥多摩または伊豆方面の民宿の予定。

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Bグループ)**■教員名** 桐山 信一・宮崎 猛**■授業概要**

下記の授業概要は教職課題研究Ⅰ・Ⅱ(Bグループ)に共通するものである。

前期(Ⅰ)は研究テーマの設定までのプロセス・研究計画に、後期(Ⅱ)は研究の遂行プロセスに重点を置いた指導を行う。

教育実践の場と関連した自己の研究課題を明確にし、教育(学)についての研究を進めていく過程において探究的態度を培い、教育研究者としての資質(の基礎)を身に付ける。そして、研究の内容を何らかの形式(内外の研究会での発表、学会発表、投稿論文作成など)で公表して成果として残すことを義務づける。最後に、それらの研究成果を、教職課題研究論文としてまとめる。

なお、本コースでは、社会科学系教員(国際政治学/社会科教育学)と理工系教員(理科教育/環境物理)の協働により、教科教育学的研究などを視野に入れた多角的な角度から教育(学)研究を推進するものとする。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	全体オリエンテーションⅠー科目の説明・各ゼミの研究についての説明ー 【準備学習】各コースのシラバスを読んでおく。
第2回	全体オリエンテーションⅡーコース選択ー 【準備学習】シラバスや事前の聞き取りなどを参考に、希望のコースを選択できる情報を集める。
第3回	コースオリエンテーションー本コースの各回の概要説明ー 【準備学習】オリエンテーション時の資料を読みその周辺を調べる。
第4回	大学院の学び(研究)についてー修士課程の学びと研究レベルとはー 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	教育(学)研究の在り方Ⅰー教育実地調査のデザイン 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	教育(学)研究の在り方Ⅱー教育研究データのデザインー 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	研究の現場からー担当教員の研究(内容・方法)を建設的に批判するⅠー 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	研究の現場からー担当教員の研究(内容・方法)を建設的に批判するⅡー 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	教育(学)研究の方法と内容Ⅰー人文・社会科学の研究方法を参考にー 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第10回	教育(学)研究の方法と内容Ⅱ－自然科学の研究方法を参考に－ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	研究テーマ設定に向けての探索Ⅰ－個人研究－ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	研究テーマ設定に向けての探索Ⅱ－個人研究－ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	研究テーマ及び設定理由の公表・質疑及び討論 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	研究計画の立案・実施プランの策定Ⅰ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	研究計画の立案・実施プランの策定Ⅱ、前期のまとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

専門性を高め、教育(学)研究方法と探究的態度を培い、教育現場あるいは教育行政における研究指導者としての技能と力量を身に付ける。

(現職教員 10年以上)

専門性を高め、教育(学)研究方法と探究的態度を培い、教育現場における研究指導者としての技能と力量を身に付ける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

(現職教員 10年未満)

専門性を高め、教育(学)研究方法の基礎と探究的態度を培い、教育現場における研究指導者としての資質を身に付ける。

(ストレートマスター)

専門性を高め、教育(学)研究方法の基礎と探究的態度を培い、将来教育現場における研究指導者となり得る基礎的資質を身に付ける。

■評価方法

出席と研究意欲・態度 60% (4点/回×15=60)、振り返りレポート 40% を目安にした総合評価とする。

■使用教材

参考文献:秋田喜代美、恒吉僚子、佐藤学著「教育研究のメソドロジー」:東京大学出版会

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	教職課題研究Ⅰ(Cグループ)
■教員名	長島 明純・吉川 成司
■授業概要	生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育などを中心に、教育に関する現代の諸課題への理解を深めながら、その教育の場で生かしていける資質を磨く。とともに、後期に書き上げる「教職課題実地研究」論文をまとめていくための基礎的な力量を育成する。
■授業計画・内容	
回数	内 容
第1回	本授業のねらい、大まかな全授業の流れ、進め方などをオリエンテーション。受講者の問題関心についての表明。(ディスカッション) 【準備学習】シラバスを読んで確認しておくこと
第2回	受講者の課題意識と研究したいテーマについての発表。各受講者の論文についての計画を確認。それに関する協議検討。① 【準備学習】研究課題意識や研究テーマについてまとめておくこと
第3回	受講者の課題意識と研究したいテーマについての発表。各受講者の論文についての計画を確認。それに関する協議検討。② 【準備学習】研究課題意識や研究テーマについてまとめておくこと
第4回	研究の方法、研究論文の作成方法など概説。① 【準備学習】前時指定の資料を読んでおくこと
第5回	研究の方法、研究論文の作成方法など概説。② 【準備学習】前時指定の資料を読んでおくこと
第6回	研究の方法、研究論文の作成方法など概説。③ 【準備学習】前時指定の資料を読んでおくこと
第7回	「教職課題研究」論文の構成の概要を報告。(受講者による論文のアウトラインについてのプレゼンテーション、ディスカッション) ① 【準備学習】論文のアウトラインについてまとめておくこと
第8回	「教職課題研究」論文の構成の概要を報告。(受講者による論文のアウトラインについてのプレゼンテーション、ディスカッション) ② 【準備学習】論文のアウトラインについてまとめておくこと
第9回	「教職課題研究」論文の構成の概要を報告。(受講者による論文のアウトラインについてのプレゼンテーション、ディスカッション) ③ 【準備学習】論文のアウトラインについてまとめておくこと
第10回	「教職課題研究」論文の構成の概要を報告。(受講者による論文のアウトラインについてのプレゼンテーション、ディスカッション) ④ 【準備学習】論文のアウトラインについてまとめておくこと
第11回	教職課題研究論文に関する課題を整理。参考となる文献も含め報告。(受講者プレゼンテーション、ディスカッション) ① 【準備学習】研究課題に関連する資料を収集し整理しておくこと
第12回	教職課題研究論文に関する課題を整理。参考となる文献も含め報告。(受講者プレゼンテーション、ディスカッション) ②

	【準備学習】研究課題に関連する資料を収集し整理しておくこと
第13回	教職課題研究論文に関する課題を整理。参考となる文献も含め報告。（受講者プレゼンテーション、ディスカッション）③ 【準備学習】研究課題に関連する資料を収集し整理しておくこと
第14回	後期の「教職課題研究Ⅱ」までの研究活動計画を確認。（受講者プレゼンテーション、ディスカッション）① 【準備学習】夏期休業中の課題を考え研究計画をまとめておくこと
第15回	後期の「教職課題研究Ⅱ」までの研究活動計画を確認。（受講者プレゼンテーション、ディスカッション）② 【準備学習】夏期休業中の課題を考え研究計画をまとめておくこと

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補者）

- ・学び合いを通して、生徒指導や特別支援教育などの課題について、整理し理解するとともに、教育の場で、専門性をもって他の教員に対して適切に指導助言することができる力を身につける。
- ・生徒指導や特別支援教育などの課題について、整理理解し、論文としてまとめ上げる事ができるとともに、他の教員に対して、専門性をもって適切な論文指導をすることができる力の基礎を培う。

（現職教員）

- ・学び合いを通して、生徒指導や特別支援教育などの課題について、適切に考察し、現場の対応について、他の教員に提案したり助言したりすることができる力を身につける。
- ・自分のこれまでの実践を踏まえながら、生徒指導や特別支援教育などの課題について、深く考察し、それを論文として、まとめ上げることができる力の基礎を培う。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・学び合いを通して、生徒指導や特別支援教育などの課題について、十分に考察し、現場での対応に生かすことができる力を身につける。
- ・生徒指導や特別支援教育の課題などを論文として構成しまとめることができる力の基礎を培う。

■評価方法

各々の課題に関する発表、互いの発表に関する討議など、総合的に評価する。

■使用教材

参考図書：

「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談」有村久春著, 金子書房, 2008.

「生徒・進路指導論」吉川成司編著, 創価大学通信教育部, 2013.

■授業で使用する言語

（日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他）

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Dグループ)

■教員名 田村 修一 ・ 近藤 茂代

■授業概要

本科目の目的は、教育実践に関する科学的論文を書く力を培うことである。具体的には、①研究テーマの設定と練り上げ、②先行研究の調べ方と読み方、③質的研究と量的研究の概要と相違点、④論文の構成とプロポーザル(研究計画書)の書き方について、講義・実習・討議を通して学ぶ。そして、可能な限り夏季休業中から自分の研究のデータ収集に取り組めるように、プロポーザルを前期の最終回までに必ず完成させたい。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション<本授業の概要と進め方、評価方法についての説明> 「教師が研究をする意味」「自分の関心テーマについて」 (講義・討議)
第2回	研究テーマの設定(1) 自問自答① (進捗状況の報告) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第3回	研究テーマの設定(2) 自問自答② (進捗状況の報告) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第4回	プロポーザル(研究計画書)の作り方 (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読む。討議の振り返り。
第5回	研究構想発表会 ★(プレゼン) 【準備学習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第6回	先行研究の調べ方・論文の読み方 (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読む。討議の振り返り。
第7回	量的研究法の概要 (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読む。討議の振り返り。
第8回	質的研究法の概要 (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読む。討議の振り返り。
第9回	自分の研究テーマに関する先行研究の整理(1) ★(プレゼン) 【準備学習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第10回	自分の研究テーマに関する先行研究の整理(2) ★(プレゼン) 【準備学習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第11回	自分の研究テーマに関する先行研究の整理(3) ★(プレゼン) 【準備学習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第12回	プロポーザル(研究計画書)の作成(1) (進捗状況の報告) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第13回	プロポーザル(研究計画書)の作成(2) (進捗状況の報告) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第14回	プロポーザル(研究計画書)の作成(3) (進捗状況の報告) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第15回	プロポーザル(研究計画書)発表会 ★(プレゼン) 【準備学習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。また、校内の全教員に対して、科学的な研究論文の書き方を指導・助言できる力を身につける。

(現職教員)

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。

■評価方法

「授業への参加態度」「プロポーザル(研究計画書)」の内容(完成度)を総合的に評価する。

■使用教材

プリントを配布する。参考書は、授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	教職課題研究Ⅰ(Eグループ)
■教員名	寺林 民子・三津村 正和
■授業概要	

「教職研究論文」の作成に向けて指導する。テーマを選定し、教職大学院での研究、実習の成果を研究論文としてまとめる。各自研究テーマは異なるが、①質的調査研究法を用いること、②教師としての実践力・授業力また人間力向上を目指すことの2点は共通する。具体的には、質的調査・研究のデザイン、研究論文作成法の理解、後期までの研究計画の策定を指導する。これらの学習を通じて、近い将来、研究紀要をはじめ、研究学会の機関紙などに相応しい体裁の論文が書けるようになることが期待される。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	各自の研究テーマ及び研究計画の協議・検討① 【準備学習】各自の研究テーマをまとめる。
第3回	各自の研究テーマ及び研究計画の協議・検討② 【準備学習】各自の研究テーマをまとめる。
第4回	各自の研究テーマ及び研究計画の協議・検討③ 【準備学習】各自の研究テーマをまとめる。
第5回	質的調査・研究のデザイン① 【準備学習】配布資料を読み、各自の研究をデザインする。
第6回	質的調査・研究のデザイン② 【準備学習】配布資料を読み、各自の研究をデザインする。
第7回	研究論文作成法① 【準備学習】配布資料を読む。
第8回	研究論文作成法② 【準備学習】配布資料を読む。
第9回	論文アウトラインの作成及びプレゼンテーション① 【準備学習】論文のアウトラインを作成し、プレゼンテーションに備える。
第10回	論文アウトラインの作成及びプレゼンテーション② 【準備学習】論文のアウトラインを作成し、プレゼンテーションに備える。
第11回	論文アウトラインの作成及びプレゼンテーション③ 【準備学習】論文のアウトラインを作成し、プレゼンテーションに備える。
第12回	論文アウトラインの作成及びプレゼンテーション④ 【準備学習】論文のアウトラインを作成し、プレゼンテーションに備える。
第13回	後期の「教職課題研究Ⅱ」までの研究活動計画の策定① 【準備学習】研究活動計画を策定する。
第14回	後期の「教職課題研究Ⅱ」までの研究活動計画の策定② 【準備学習】研究活動計画を策定する。

第15回	まとめ 【準備学習】前期の振り返り
------	----------------------

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、それを活用して学校や教員に対して、中長期的な視点に立って適切な指導助言をすることができる。

(現職教員)

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、所属校等の教員に提案するなど学校組織の中で活用して貢献することができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、学校現場での自らの実践に生かすことができる。

■評価方法

ー授業時における研究テーマ、論文のアウトライン、後期までの研究計画に関するプレゼンテーション。

ーこれらを総合した期末レポート。

■使用教材

参考書等を適宜紹介する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Fグループ)

■教員名 鈴木 詞雄 ・ 若井 幸子

■授業概要

本授業は、教職課題研究論文の作成に至るまでの理論と実践との融合を目指す「基礎的な研究」という位置付けである。そのため、自身の研究テーマの決定→「理論的研究→←実践的検討」を重ねながら、具体と展望、そして、そこから見えてくる課題等を洗い出す。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	全体ガイダンス
第2回	配属調整中
第3回	配属調整中
第4回	オリエンテーション(自己紹介・研究テーマについての概略の交流) 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の見通し。本授業の振り返り。
第5回	鈴木・若井の専門分野からの提案①→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の見通し。本授業の振り返り。
第6回	鈴木・若井の専門分野からの提案②→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。本授業の振り返り。
第7回	研究テーマの具体と展望① プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。本授業の振り返り。
第8回	研究テーマの具体と展望② プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第9回	研究テーマの具体と展望③ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第10回	研究テーマの具体と展望④ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第11回	研究テーマの深化と課題① プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第12回	研究テーマの深化と課題② プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第13回	研究テーマの深化と課題③ プレゼンテーション→討議

	【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第14回	研究テーマの深化と課題④ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第15回	まとめ 【準備学習】後期の授業に向けての今後の見通し。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補）

自身のこれまでの実践や経験を客観的に洞察し、的確な指導・助言に生かしていける力量を養うことができる。

（現職教員）

自身のこれまでの実践や経験を生かしながら、「理論と実践との融合」の観点からの研究を進め、今後の教育実践に生かすことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院での「学校における実習」等とこれまでの授業等で培った理論的な側面とのマッチングを図りながら、自身の研究テーマを確定し、教育のプロとしての自覚を持つことができる。

■評価方法

- ①出席点
- ②プレゼン力
- ③研究深化力 等を総合的に判断する。

■使用教材

必要に応じて、適宜、配布する。

■授業で使用する言語

（ 日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他 ）

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Aグループ)

■教員名 長崎 伸仁・石丸 憲一

■授業概要

前期での理論と実践との融合を目指す「基礎的な研究」を踏まえ、本授業では、研究的実践者としての内実を教職課題研究論文として仕上げる。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション—後期授業内容の確認と現状報告— 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第2回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する① 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第3回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する② 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第4回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する③ 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第5回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する④ 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第6回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する A—① 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第7回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する A—② 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第8回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する A—③ 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第9回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する A—④ 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第10回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する B—① 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。

第11回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する B—② 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第12回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する B—③ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第13回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する B—④ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第14回	教職課題研究論文作成についての最後のツメ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第15回	まとめ — 課題と展望 — 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

自身のこれまでの実践や経験を客観的に洞察し、的確な指導・助言に生かしていける力量を教職課題研究論文としてまとめ、今後の糧にすることができる。

(現職教員)

自身のこれまでの実践や経験を生かしながら、「理論と実践との融合」の観点からの研究を進め、その内実を教職課題研究論文にまとめ、今後の教育実践に生かすことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院での「学校における実習」等とこれまでの授業等で培った理論的な側面とのマッチングを図りながら教職課題研究論文にまとめ、教育のプロとして力強くスタートすることができる。

■評価方法

①出席点

②プレゼン力

③研究深化力 等を総合的に判断する(特に、教職課題研究論文の内容を重視する)。

■使用教材

必要に応じて、適宜、配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Bグループ)**■教員名** 桐山 信一・宮崎 猛**■授業概要**

下記の授業概要は教職課題研究Ⅰ・Ⅱ(Bグループ)に共通するものである。

前期(Ⅰ)は研究テーマの設定までのプロセス・研究計画に、後期(Ⅱ)は研究の遂行プロセスに重点を置いた指導を行う。

教育実践の場と関連した自己の研究課題に基づき、教育(学)についての研究を進めていく過程において探究的態度を培い、教育研究者としての資質の基礎を身に付ける。そして、研究の内容を何らかの形式(内外の研究会での発表、学会発表、投稿論文作成など)で公表して成果として残すことを目標に授業を展開する。最後に、それらの研究成果を、教職課題研究論文としてまとめる。

なお、本コースでは、社会科学系教員(国際政治学/社会科教育学)と理工系教員(理科教育/環境物理)の協働により、教科教育学的研究などを視野に入れた多角的な角度から教育(学)研究を推進するものとする。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	研究計画の進捗状況(夏期休業中など)の報告 これまでにどのような実践・調査を実施したのか、院生の実例報告 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	院生の実例報告(続き) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	教育調査 研究法Ⅰ－多様な統計処理の方法と実例(量的)－ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	教育調査 研究法Ⅱ－多様な統計処理の方法と実例(質的)－ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	教育調査 研究法Ⅲ－発表論文・誌上論文のプロトタイプについて－ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	教育実地調査－個人研究Ⅰ－ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	教育実地調査－個人研究Ⅱ－ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	中間報告Ⅰ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第9回	中間報告Ⅱ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	教育実地調査－個人研究Ⅲ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	教育実地調査－個人研究Ⅳ－ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	教育実地調査－個人研究Ⅴ－ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	教職課題研究論文抄録の執筆・完成 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	教職課題研究論文の執筆・推敲 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	教職課題研究論文の執筆・校了 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

Bコースの受講者全員が、創価大学教育研究発表会などに発表・投稿することを目標とする。その上で、以下のコース毎の目標を掲げる。

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

教育(学)一般における研究的アプローチに基づいた、雑誌「創大教育研究」の研究論文に相当する研究成果を残すものとする。

(現職教員 10年以上)

教育(学)一般に通ずる内容で、雑誌「創大教育研究」の研究ノートに相当する研究成果を残すものとする。

◇人間教育プロフェッショナルコース

(現職教員 10年未満)

自己の研究テーマにそった内容で、雑誌「創大教育研究」の研究ノートに相当する研究成果を残すものとする。

(ストレートマスター)

自己の研究テーマにそった内容で、専門性を指向する研究成果を残すものとする。各自の目標設定によっては研究論文や研究ノートに相当する論文作成を目指す。

■評価方法

出席と研究意欲・態度 60% (4点/回×15=60)、振り返りレポート 40% を目安にした総合評価とする。

■使用教材

参考文献:秋田喜代美、恒吉僚子、佐藤学著「教育研究のメソドロジー」:東京大学出版会

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Cグループ)

■教員名 長島 明純・吉川 成司

■授業概要

各々の研究課題に関する学び合いを通して、「教職課題研究」論文としてまとめる力量を高めるとともに、その成果を教職課題論文としてまとめ上げる。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	夏季休業中の研究活動や「教職課題研究」論文の進捗状況など報告をするとともに、改善点や問題など互いに吟味し合う。① 【準備学習】シラバスを読んで確認しておくこと、夏期休業中の研究の進捗状況をまとめておくこと
第2回	夏季休業中の研究活動や「教職課題研究」論文の進捗状況など報告をするとともに、改善点や問題など互いに吟味し合う。② 【準備学習】夏期休業中の研究の進捗状況をまとめておくこと
第3回	夏季休業中の研究活動や「教職課題研究」論文の進捗状況など報告をするとともに、改善点や問題など互いに吟味し合う。③ 【準備学習】夏期休業中の研究の進捗状況をまとめておくこと
第4回	夏季休業中の研究活動や「教職課題研究」論文の進捗状況など報告をするとともに、改善点や問題など互いに吟味し合う。④ 【準備学習】夏期休業中の研究の進捗状況をまとめておくこと
第5回	「教職課題研究」論文の作成・報告。その改善点や問題など互いに吟味し合う。① 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第6回	「教職課題研究」論文の作成・報告。その改善点や問題など互いに吟味し合う。② 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第7回	「教職課題研究」論文の作成・報告。その改善点や問題など互いに吟味し合う。③ 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第8回	「教職課題研究」論文の作成・報告。その改善点や問題など互いに吟味し合う。④ 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第9回	論文の中間発表。① 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第10回	論文の中間発表。② 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第11回	「教職課題研究」論文の校正。改善点や問題など互いに吟味し合う。① 【準備学習】提出する教職課題研究論文の作成
第12回	「教職課題研究」論文の校正。改善点や問題など互いに吟味し合う。② 【準備学習】提出する教職課題研究論文の作成
第13回	「教職課題研究」論文の校正。改善点や問題など互いに吟味し合う。③ 【準備学習】提出する教職課題研究論文の作成
第14回	「教職課題研究」論文の校正。改善点や問題など互いに吟味し合う。④ 【準備学習】提出する教職課題研究論文の作成

第15回	教職課題研究」論文に関連して今後の課題を考える。まとめ。 【準備学習】教職課題研究論文を完成させること
------	--

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

管理職候補者

- ・生徒指導や特別支援教育などの課題について、整理理解し、論文としてまとめ上げる事ができるとともに、他の教員に対して、専門性をもって適切な論文指導ができる力を身につける。

(現職教員)

- ・自分のこれまでの実践を踏まえながら、生徒指導や特別支援教育などの課題について、深く考察し、それを論文として、まとめ上げることができる力を身につける。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

- ・各々の研究課題に関する学び合いを通して、生徒指導や特別支援教育などの課題について考察する力や、それを論文として構成しまとめることができる力を身につける。

■評価方法

各々の課題に関する発表、互いの発表に関する討議、「教職課題研究」論文の内容などを、総合的に評価する。

■使用教材

参考図書：

「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談」有村久春著, 金子書房, 2008.

「生徒・進路指導論」吉川成司編著, 創価大学通信教育部, 2013.

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	教職課題研究Ⅱ(Dグループ)
■教員名	田村 修一 ・ 近藤 茂代
■授業概要	本科目の目的は、教育事象や教育実践に関する科学的な論文を書く力を培うことである。具体的には、①先行研究の整理の仕方、②データ収集の準備と実際、③収集されたデータの解析と結果のまとめ方、④データに基づく考察の書き方、⑤実際の論文執筆、⑥引用文献一覧の書き方を学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	研究データの収集(1) (進捗状況の報告) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第2回	研究データの収集(2) (進捗状況の報告) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第3回	研究データの収集(3) (進捗状況の報告) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第4回	研究データの収集(4) (進捗状況の報告) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第5回	研究データの分析(1) (進捗状況の報告) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第6回	研究データの分析(2) (進捗状況の報告) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第7回	研究データの分析(3) (進捗状況の報告) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第8回	中間発表会 ★(プレゼン) 【準備学習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第9回	研究結果についての考察・論文の執筆(1) (個別指導) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第10回	研究結果についての考察・論文の執筆(2) (個別指導) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第11回	研究結果についての考察・論文の執筆(3) (個別指導) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第12回	研究結果についての考察・論文の執筆(4) (個別指導) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第13回	研究結果についての考察・論文の執筆(5) (個別指導) 【準備学習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第14回	「抄録」の書き方・「発表用スライド」の作り方 (講義・討議) 【準備学習】 事前に資料を読む。討議の振り返り。
第15回	「教職課題研究論文・発表会」のリハーサル ★(プレゼン) 【準備学習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。また、校内の全教員に対して、科学的な研究論文の書き方を指導・助言できる力を身につける。

(現職教員)

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。

■評価方法

「教職課題研究論文」の内容(完成度)と、そこに至るまでの努力を加味し総合的に評価する。

■使用教材

プリントを配布する。参考書は、授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	教職課題研究Ⅱ(Eグループ)
■教員名	寺林民子・三津村正和
■授業概要	

「教職研究論文」の作成に向けて指導する。テーマを選定し、教職大学院での研究、実習の成果を研究論文としてまとめる。各自研究テーマは異なるが、①質的調査研究法を用いること、②教師としての実践力・授業力また人間力向上を目指すことの2点は共通する。具体的には、教職研究論文の完成に向けて、個別指導を中心に進める。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	夏季休業中の研究活動の報告と協議① 【準備学習】研究活動の報告に備える。
第3回	夏季休業中の研究活動の報告と協議② 【準備学習】研究活動の報告に備える。
第4回	夏季休業中の研究活動の報告と協議③ 【準備学習】研究活動の報告に備える。
第5回	論文の完成・提出までの計画策定① 【準備学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第6回	論文の完成・提出までの計画策定② 【準備学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第7回	論文の完成・提出までの計画策定③ 【準備学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第8回	論文の完成・提出までの計画策定④ 【準備学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第9回	論文の完成・提出までの計画策定⑤ 【準備学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第10回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議① 【準備学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第11回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議② 【準備学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第12回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議③ 【準備学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第13回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議④ 【準備学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第14回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議⑤ 【準備学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第15回	まとめ 【準備学習】一年の振り返り、まとめに備える。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、それを活用して学校や教員に対して、中長期的な視点に立って適切な指導助言をすることができる。

(現職教員)

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、所属校等の教員に提案するなど学校組織の中で活用して貢献することができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、学校現場での自らの実践に生かすことができる。

■評価方法

- －教職課題研究論文作成の計画書
- －教職課題研究論文作成過程での中間報告
- －教職課題研究論文

■使用教材

参考書等を適宜紹介する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ (Fグループ)

■教員名 鈴木 詞雄 ・ 若井 幸子

■授業概要

前期での理論と実践との融合を目指す「基礎的な研究」を踏まえ、本授業では、研究的実践者としての内実を教職課題研究論文として仕上げる。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	オリエンテーション—後期授業内容の確認と現状報告— 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第2回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する① 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第3回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する② 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第4回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する③ 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第5回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する④ 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第6回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するA—① 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第7回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するA—② 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第8回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するA—③ 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第9回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するA—④ 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第10回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するB—① 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。

第11回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するB—② 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第12回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するB—③ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第13回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するB—④ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第14回	教職課題研究論文作成についての最後のツメ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第15回	まとめ — 課題と展望 — 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

自身のこれまでの実践や経験を客観的に洞察し、的確な指導・助言に生かしていける力量を教職課題研究論文としてまとめ、今後の糧にすることができる。

(現職教員)

自身のこれまでの実践や経験を生かしながら、「理論と実践との融合」の観点からの研究を進め、その内実を教職課題研究論文にまとめ、今後の教育実践に生かすことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院での「学校における実習」等とこれまでの授業等で培った理論的な側面とのマッチングを図りながら教職課題研究論文にまとめ、教育のプロとして力強くスタートすることができる。

■評価方法

①出席点

②プレゼン力

③研究深化力 等を総合的に判断する(特に、教職課題研究論文の内容を重視する)。

■使用教材

必要に応じて、適宜、配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教育課題実地研究(国内)奈良

■教員名 桐山 信一 ・ 若井 幸子

■授業概要

教育課題実地研究(国内・奈良)は、国内の先進校(奈良女子大学附属小学校)との交流をとおして現代的な教育課題を探究することを目的とする。同小学校が長年にわたって積み重ねてきた教育の事実を、授業参観・聞き取り調査などを通して多角的に調査する。現代的な教育課題の一つである教師教育の在り方に関わる内容としては、校内の教師達による授業研究が彼らの専門的力量をいかに形成しているかという視点から研究する。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	奈良女子大学附属小学校における実践的教育研究の歴史① 大正期から活発な教育研究が積み重ねられている奈良女子大学附属小学校の教育研究を歴史的に研究する。 【準備学習】各自の研究課題を検討してくる。振り返りをまとめる。
第2回	奈良女子大学附属小学校における実践的教育研究の歴史② 大正期から活発な教育研究が積み重ねられている奈良女子大学附属小学校の教育研究を歴史的に研究する。 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第3回	奈良女子大学附属小学校における実践的教育研究の歴史③ 「奈良プラン」など戦後の教育実践を歴史的に研究する。
第4回	奈良女子大学附属小学校における実践的教育研究の歴史④ 「奈良プラン」など戦後の教育実践を歴史的に研究する。 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第5回	同小学校における授業研究体制・組織 同校の授業研究に取り組む研究体制・組織に視点を当てて研究し、校内研修、研究がどのように展開されてきたかを研究する。特に、同小学校での教員たちによる実践的共同研究集団の形成過程について研究する。 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第6回	同小学校の授業研究(授業記録に基づく研究) 授業研究の成果をまとめた同小学校編集の「学習研究」、「学習研究発表会資料」などをもとに授業研究の内容と研究方法を研究する。 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第7回	学校訪問による実地研究(授業参観、研究協議を含む)Ⅰ 同小学校を訪問し、授業を参観する。参観後、授業研究協議に参画し、授業者と共に実践的な研究を行う。 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第8回	学校訪問による実地研究(授業参観、研究協議を含む)Ⅱ 同小学校を訪問し、授業を参観する。参観後、授業研究協議に参画し、授業者と共に実践的な研究を行う。 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。

第9回	学校訪問による実地研究(授業参観、研究協議を含む)Ⅲ 同小学校を訪問し、授業を参観する。参観後、授業研究協議に参画し、授業者と共に実践的な研究を行う。 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第10回	学校訪問による実地研究(授業参観、研究協議を含む)Ⅳ 同小学校を訪問し、授業を参観する。参観後、授業研究協議に参画し、授業者と共に実践的な研究を行う。 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第11回	各自の研究の集約と相互報告を行う① 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第12回	各自の研究の集約と相互報告を行う② 【準備学習】資料等を検討してくる。振り返りをまとめる。
第13回	実地研究交流報告会(国内2コース合同)Ⅰ 実地研究(奈良、堀川)の2コースの参加者が、各コースで研究の集約を行い、相互に報告し合うことにより、研究成果の共有と発展を図る。
第14回	実地研究交流報告会(国内2コース合同)Ⅱ 実地研究(奈良、堀川)の2コースの参加者が、各コースで研究の集約を行い、相互に報告し合うことにより、研究成果の共有と発展を図る。
第15回	各自の研究集約および奈良コースの研究総括を行い、研究成果の共有を図る。【準備学習】各自の研究成果をまとめてくる

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

奈良女子大学附属小学校の授業研究が、教師たちの専門的力量をいかに形成し、学校づくりにどう貢献してきたのかを、自らの教育課題として理解し直し、教育行政担当者および、学校管理職の立場で教育経営を進める力量を身につける。

(現職教員)

奈良女子大学附属小学校の授業研究が、教師たちの専門的力量をいかに形成し、学校づくりにどう貢献してきたかを、一つの事例として理解し、同僚と共に学校づくりを進める力量を身につける。

奈良女子大学附属小学校の授業研究が、

◇人間教育プロフェッショナルコース

奈良女子大学附属小学校の授業研究が、教師たちの専門的力量をいかに形成し、学校づくりにどう貢献してきたかを、一つの事例として理解し、自らの授業を深める力を身につける。

■評価方法

- ・授業の第1回～6回の研究をとおして各自の研究課題を把握し、研究のテーマ、内容を明確に設定できたか。
- ・学校訪問による実地研究・調査をとおして、どのような点が明らかになったかを整理し、報告することができたか。
- ・新たな研究課題を把握し、研究を発展させる見通しを立てることができたか。

以上のような観点から、授業における報告、討論への参加状況と最終レポートに基づいて総合的に判断する。

■使用教材

- ①木下竹次著・中野光編『学習原論』(世界教育学選集64)明治図書刊
 - ②奈良女子大学附属小学校学習研究会編著『確かな学習力を育てるすじ道』明治図書刊
 - ③奈良女子大学附属小学校学習研究会編著「学習研究」誌、各月刊行など
- その他 資料は適宜配布する
- 教科書は使用しない

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教育課題実地研究(国内) 富山

■教員名 吉川 成司 ・ 寺林 民子

■授業概要

国内の先進校との交流を通して、現代的な教育課題を探究する。当科目は、富山市立堀川小学校で現地研究を行い、当小学校が長年にわたり研究を積み重ねている実態について、授業参観等をふまえて調査研究する。特に校内での授業記録に基づく地道な授業分析が教師たちの専門的力量を形成している点に焦点を当てて研究する。実地研究のための準備としての事前研究、実地研究、そして事後の研究成果報告を通して研究を深め、発展しあえる共同研究者としての教師集団づくりへと視野を広げていく。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースオリエンテーション ・各人の問題意識・課題意識の明確化。 ・堀川小学校の紹介(映像・出版物)。 ・研究プロセスの見通し(科目履修生の研究経過紹介、冊子、資料) 【準備学習】シラバスを確認しておくようにしてください。
第2回	富山市立堀川小学校における実践的教育研究の歴史的外観 【準備学習】前回授業時の配付資料の学習
第3回	同校の授業研究の体制・組織と各自の研究課題 校内研究の展開、研究同人としての教師たちの実践的共同研究集団づくり 【準備学習】前回授業時の配付資料の学習
第4回	授業研究の基本的な構えと方法①と各自の研究課題 『授業の研究』(1959年、明治図書)に基づいて 【準備学習】『授業の研究』(1959年、明治図書)の学習
第5回	授業研究の基本的な構えと方法②と各自の研究課題 『授業の研究』(1959年、明治図書)に基づいて 【準備学習】『授業の研究』(1959年、明治図書)の学習
第6回	授業研究の発展・進化の経過①と各自の研究課題 『生き方が育つ授業』(上・中・下、1984年、明治図書)に基づいて 【準備学習】『生き方が育つ授業』(上・中・下、1984年、明治図書)の学習
第7回	授業研究の発展・進化の経過①と各自の研究課題 『子どもの学びと自己形成』(2006年、明治図書)に基づいて 【準備学習】『子どもの学びと自己形成』(2006年、明治図書)の学習
第8回	実地研究① 授業参観、研究協議に参加するなど、授業者とともに現在進行形での研究 【準備学習】観察やインタビューなどの対象や方法を検討しておく
第9回	実地研究② 授業参観、研究協議に参加するなど、授業者とともに現在進行形での研究 【準備学習】実地研究での観察やインタビューなどの整理
第10回	実地研究③ 授業参観、研究協議に参加するなど、授業者とともに現在進行形での研究 【準備学習】実地研究での観察やインタビューなどの整理

第11回	各自の研究課題に基づく研究報告と協議① 【準備学習】実地研究の成果をレポートにまとめる
第12回	各自の研究課題に基づく研究報告と協議② 交流学习におけるプレゼンテーションの準備 【準備学習】実地研究の成果をレポートにまとめる
第13回	クラス全体としての研究成果のまとめ 交流学习におけるプレゼンテーションの準備 【準備学習】交流学习におけるプレゼンテーションの準備
第14回	他の教育課題実地研究クラスとの交流学习①(予定) 【準備学習】交流学习におけるプレゼンテーションの準備
第15回	他の教育課題実地研究クラスとの交流学习②(予定) 【準備学習】教育課題実地研究報告会のための成果報告書の原稿作成

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

子どもの成長を捉えるための教師の自己更新のあり方について、学校の教育経営、研究組織と研修内容の視点から省察し中・長期的な課題解決に向けて主幹教諭等に指導することができる。

(現職教員)

実地研究を通して自己の課題解明の道筋を明確化し、新たな実践研究の視点を見いだすとともに、校内研修を推進することができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

子どもが生きる授業のはたらきについて、授業記録や研究協議記録の分析を通して省察し、自身の授業実践に反映できる。

■評価方法

研究課題レポート

実地研究の成果に関するリサーチペーパー

教育課題実地研究交流報告会で行うプレゼンテーション

■使用教材

『授業の研究』(1959年、明治図書)

『生き方が育つ授業』(上・中・下、1984年、明治図書)

『子どもの学びと自己形成』(2006年、明治図書)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	教育課題実地研究(国外)米国
■教員名	坂本 辰朗 ・ 宮崎 猛 ・ 三津村 正和
■授業概要	

本授業では、教育問題を国際的な文脈において比較考察するとはどのようなことなのかを明らかにする。実地調査の前後の研究については、アメリカ合衆国における学校教育と教員をめぐる諸課題等に関して、集中による演習などによって実施する。米国では小学校、ミドルスクール、ハイスクール、大学、放課後プログラム等において、実地調査および教室での授業をおこなうが、その際、本授業参加者全員で共有するテーマとともに、各履修者が各自の課題を携えて、調査・研究することになる。履修者は上限を 8 名とし、これを越える履修希望者があった場合は選考をおこなう。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	国際比較の意義と研究の方法 比較研究の意義、視点、手法等について理解する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	アメリカ合衆国の近年の教育改革動向(1) 2000 年以降の日米両国における「学力問題」への対応について。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	アメリカ合衆国の近年の教育改革動向(2) 近年の学校病理としてのいじめ問題などを取り上げ、それに対する日米両国の対応の基本的な構図を解明する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	教育課題実地研究の手法(1) 実地踏査の研究の手法を理解、獲得する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	教育課題実地研究の手法(2) 履修者の研究課題(米国で調査する教育課題)を中心に、当地で行うプレゼンテーションの準備を行う。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	アメリカ合衆国での実地研究(1) ハイスクールの実地調査および教室での授業実施によって、後期中等教育ならびに教師教育の現状、方法、課題等について日米比較を通して究明する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第8回	アメリカ合衆国での実地研究(2) 放課後プログラムの視察によって、親、学校、地域の役割などについて日米比較を通して考察する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	アメリカ合衆国での実地研究(3) 小学校の実地調査および教室実施での授業実施によって、多文化教育のあり方、いじめなどの教育課題について日米比較を通して究明する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	アメリカ合衆国での実地研究(4) ハイスクール(ミドルスクール)の実地調査および教室実施での授業実施によって、学校間のカリキュラムの連携や学力問題などについて日米比較を通して究明する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	アメリカ合衆国での実地研究(5) 大学の实地調査を通して、高等教育の役割と課題、とりわけ教養教育と専門教育のありかたについて、日米比較を通して究明する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	アメリカ合衆国での実地研究(6) フリースクール実地調査をとおして、公権力と学校教育の関係、教育の本質とその方法などについて探究する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	アメリカ合衆国実地踏査の総括 各自の研究のまとめと本授業参加者全員による研究のまとめを作成し、研究成果の定着と発展を図る。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	実地研究交流報告会(1) 実地研究のそれぞれの参加者が、各自の研究のまとめと同一グループによる研究のまとめを相互に報告し、研究成果の共有と発展を図る。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	実地研究交流報告会(2) 実地研究のそれぞれの参加者が、各自の研究のまとめと同一グループによる研究のまとめを相互に報告し、研究成果の共有と発展を図る。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

国際比較研究における研究的アプローチの手法を身につけるとともに、日米両国の比較等を通して、教育のあり方・本質、方法、内容について、多角的かつ本質的な視座から考察することができる力量を育成する。また、それらの成果を学校経営や教育行政等の改善に活用するための識見と力量を育成する。

(現職教員)

国際比較研究における研究的アプローチの手法を身につけるとともに、日米両国の比較等を通して、教育のあり方・本質、方法、内容について、多角的かつ本質的な視座から考察することができる力量を育成する。また、それらの成果を学校運営や授業研究、生活指導等の改善に活用するための識見と力量を育成する。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

国際比較研究における研究的アプローチの手法を身につけるとともに、日米両国の比較等を通して、教育のあり方・本質、方法、内容等について、多角的かつ本質的な視座から考察することができる力量を育成する。また、それらの成果を自らの授業実践や学級経営、生活指導等に活用するための識見と力量を育成する。

■評価方法

出席:30点(2×15) レポート・振り返り:20点、授業への参加度:20点、最終報告書・授業案 30点
S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

以下はすべて参考文献である。

北野秋男・大桃敏行・吉良直(編)『アメリカ教育改革の最前線: 頂点への競争』(学術叢書、2012年)

佐藤仁『現代米国における教員養成評価制度の研究—アクレディテーションの展開過程』(多賀出版、2012年)

宮寺晃夫(編)『再検討 教育機会の平等』(岩波書店、2011年)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教育課題実地研究(国外)中国

■教員名 長島 明純 ・ 董 芳勝

■授業概要

中国の教育実践現場の実情を知り、中国に求められている教員像と教員養成の在り方を理解する。そして、日中両国の教育現場の授業実践交流を通して、教育実践での現代的な教育課題や未来の国際化を志向する教員像を探究する。そのため、実践的に中国の教師教育をリードしている首都師範大学の教員養成課程の院生やここで学ぶ現職教員などと交流を行う。また、中国の学校を訪問し、授業参観や教育活動、教育対話を行う。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	コースオリエンテーション。今年度行う本実地研究の課題を確認。中国の教員養成制度を中心にし、政治・経済・文化・風俗・習慣など概説。協議。 【準備学習】参考図書などで、本授業で学ぶ該当部分を調べ、本授業の意義を確認する。
第2回	首都師範大学及び北京教育委員会などの概要説明。これまでの創価大学と中国の教育諸機関との交流について概説。 【準備学習】これまでの創価大学と中国の教育機関との交流について、大学のホームページなどで調べ、本授業における各自の目的を明確にする。
第3回	これまでの課題実地研究（中国）の成果と課題について解説し、中国で報告する日本の教育実践についての協議。 【準備学習】これまでの実地研究の報告書などを読み、これまでの中国での教育交流の経緯を知る。
第4回	中国で報告する日本の教育実践の整理。 【準備学習】中国で報告する日本の教育実践について調べて、資料収集する。
第5回	中国で報告する日本の教育実践の整理。 【準備学習】中国で報告する日本の教育実践について整理しておく。
第6回	中国で報告する日本の教育実践のまとめ・準備。 【準備学習】中国で報告する日本の教育実践についてまとめておく。
第7回	中国の小学校などを訪問し実地研究（授業参観、研究協議を含む） 授業などを参観し、日本の教育実践を紹介する。その後、研究協議。 【準備学習】中国での実地研究の学びのために、役割分担や必要な機材など準備しておく。
第8回	首都師範大学訪問による実地研究（日中の教育実践の報告、研究協議） 同校を訪問し、教員養成課程の院生やここで学ぶ現職教員などと交流。 【準備学習】中国での実地研究の学びを記録しておく。
第9回	首都師範大学訪問による実地研究（日中の教育実践の報告、研究協議） 同校を訪問し、教員養成課程の院生やここで学ぶ現職教員などと交流。 【準備学習】第7回と同じ。
第10回	北京市教育委員会の教育研究所などを訪問し、研究協議など行う。 【準備学習】第7回と同じ。

第11回	中国学校視察総括。各々の課題や本コースの課題に即して、中国での実地研究から得られた学習成果を、相互に確認し吟味する。 【準備学習】記録した中国での実地研究の学びを整理しておく。
第12回	中国学校視察総括。各々の課題や本コースの課題に即して、中国での実地研究から得られた学習成果を、相互に確認し整理する。 【準備学習】第11回と同じ。
第13回	中国学校視察総括。各々の課題や本コースの課題に即して、中国での実地研究から得られた学習成果をまとめる。 【準備学習】第11回と同じ。
第14回	実地研究交流報告会 相互に報告し、研究成果の共有と発展を図る。(1) 【準備学習】報告する実地研究の内容についてまとめておく。
第15回	実地研究交流報告会 相互に報告し、研究成果の共有と発展を図る。(2)【準備学習】第14回と同じ。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

中国の教育機関での実地研究を通して学んだ、教育問題についての国際的な広い認識を基底として、教育行政担当者および校長、副校長の立場で学校経営を進める力量を身につける。

(現職教員)

中国の教育機関での実地研究を通して学んだ、教育問題についての国際的な広い認識を基底として、同僚と共に学校づくりを進める力を身につける

◇人間教育プロフェッショナルコース

中国の教育機関での実地研究を通して学んだ、教育問題についての国際的な広い認識を基底として、教師としての確かな実践能力を形成することができる。

■評価方法

授業の第1～6回の研究をとおして各自の研究課題を把握し、研究のテーマ、内容を明確に設定できたか。また実地研究をとおして、どのような点が明らかになったかを整理し、報告できたか。また新たな研究課題を把握し、研究を発展させる見通しを立てることができたか。このような観点から、授業における報告、討論への参加状況と報告レポートなどに基づいて評価する。

■使用教材

参考書 諏訪哲郎、王智新・斉藤利彦編著『沸騰する中国の教育改革』(学習院大学東洋文化研究叢書)、東方書店、2008年、3200円)※ 随時、教員が資料を準備したり、参考書を紹介したりもする。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

